

卒業生が語る

合格への 軌跡2024年

WAY TO SUCCESS

日本大医学部1期2次合格
獨協医科大前期2次正規合格

先輩達も言ってたけど、マジ代官山
*MEDICAL*のテキストだけでいいと思う。
他のは、やんないほうがいいと思います。
もう既に内容が充実してるから。

日本大医学部進学 細沼 眞子さん（東洋英和女学院高卒）

卒業生が語る

合格への 軌跡2024年

WAY TO SUCCESS

日本大医学部1期2次合格

高校生活を楽しまない方がいい。体育祭とか文化祭とか、ガチでのめり込むことはしない。休み時間も誰とも喋らないで勉強してたんで。それくらいやらないと受かんないです。

日本大医学部進学 宮内 萌々香さん（東京女学館高卒）

マンスリーテストはあくまで出来不出来を研究する材料

宮内：宮内萌々香です。出身は東京女学館高校です。進学先は、日本大学医学部です。

細沼：細沼眞子です。出身は東洋英和女学院高等部です。進学先は、日本大学医学部です。

宮内：現役で合格できたのってやっぱりマンスリーテストかな。やっぱり、マンスリーを受けることによって、その、出来てない部分分かるわけだから、どの分野が本番に出やすく、どこが自分が間違えやすいのか、客観的に考察して次回に備える、あくまで、勉強する材料としてって感じで、自分は何が出来てないんだろうって。

細沼：逆に私、めっちゃみんなと見せ合ってた(笑)出来なかった時も、出来てた時も見せてた。

宮内：出来てなかったらあまり見せたくなくない？恥ずかしいとか？

細沼：いや、別に恥ずかしくはなかった。なんか、自分の立ち位置を知れるし、一緒に勉強してる子と自分とどれぐらい差があるのか分かるから、なんか、何も遠慮とかなくなるし、聞きやすいし、だから一緒にしやすい。

宮内：なんか、詮索、逆に詮索しなくなるかなみたいな？何が出来て何が出来なかったかっていう確認材料、みたいな

細沼：うん、そう、そう、そう。フフ。

宮内：マンスリーもそうだけど、ウィークリーもちゃんとやってました。どう対策してたかって言われると…うーん、なんだろう。テキストをひたすら演習するっていう。数学だったら、例えば、授業でやったものを、自分のノートとか見るじゃないですか、分かんなかったとき。それを見なくても解けるようになるまで復習をしてました。

細沼：現役だから復習するにも中々時間取れなくて結構焦ってた。

宮内：それな。だから学校では内職してました、内職。



細沼：なんか中村（中村友哉：東京医科大進学【現役】）もしてたって言ってた。

宮内：学校にも周りにも「医学部受験する」って言ってたから、先生もある程度寛容というか(笑)

細沼：先輩達も言ってたけど、マジ代官山MEDICALのテキストだけでいいと思う。

宮内：私も十分だと思います。他のは、やんないほうがいいと思います。もう既に内容が充実してるから。他の（問題集とか参考書を）やる必要性を感じないですね。代官山MEDICALのテキストはちゃんと纏まってるんで、それだけで十分かなって。

細沼：私は毎日バランスよく復習できれば良かったんですけど、1日に集中したらもうばあー（お手上げ状態）となっちゃうから、数学をメインでやって、英、化、物は、ちょっとずつ分けてやってた。マンスリー前なら数学は過去問演習とか、物理は類題演習、あとは化学は菊さん（菊本先生：化学科）に大量の演習プリントもらって解いてた。

代官山のテキストはまんま（本番で）当たる。

細沼：良かった先生が一。英語なら梅田先生だったかな(笑)文法めっちゃ伸びた。初めの頃は完全文とか不完全文も良く分かってなかったし、節の識別も怪しかったから、そういうところから伸ばしてもらえた。それで正誤問題とか精度高くなったし。で、友達に「なんでこれ違うの？」って聞かれて答えたら「梅田先生みたいだね」って(笑)あ、身についてんだなって。あとは英語の知識と雑談が混ざってて、覚えやすかったし(笑)

宮内：英語は、私は青葉先生のマンツーマンを取ってたんですけど、長文を主にやってて、解説が、全体的な背景も踏まえた上で解説してくださったので、長文の捉え方が変わったっていうか、全体的な内容を把握しながら読むとか、筆者の主張とか、そういうのを意識して読む癖が、それで付いたかなと思います。

細沼：数学は平野先生にしか習ってないけど、やばいっすね。テクニックめっちゃ使うから、楽な解き方、めっちゃ教えてもらって。

宮内：私も平野先生だけでしたけど、入試期間めっちゃ励ましてもらった。数学が自分の中でめっちゃ苦手意識あったんですよ。そしたら、「宮内は数学出来るから自信持ちましょう」って言ってくれて。

細沼：物理は寺澤先生かなー。物理の根本的なところを教えてもらったって感じ。なんか、用語に厳しくて、適当なことを言うとその言及が半端ないからその危機感で覚える、みたいな(笑)あと、身近なもので物理の定義教えてくれるのも楽しかった。ドップラー効果で電車の話持ってきたりとか。

宮内：そうそう。先生が話してくれたことがそのまま日大(医学部)の入試問題に出て、そう、力学のやつ。

細沼：波動の反射とか経路差のやつとかもね。代官山MEDICALのテキストまんま当たるなーって。同

じやつ見かけたらめっちゃ緊張ほぐれるし。逆に数学で平野先生が授業でやってた逆関数の問題がムズ過ぎて、こんな出ないだろって飛ばしたらそれもまんま東医の入試ででちゃって、ああやっちゃったって。

宮内：そこやってればって後悔するよねー

時間が無いからやばい、行かなきゃって。時間が無いから代官山に行った。

宮内：代官山 *MEDICAL* に通ってた時に、一番メンタル落ち込んだのは、周りの人たちが、少しずつ推薦決まってくじゃないですか。もうその時期が一番辛かった。2号館にいたんですけど、周りが受かって結構荷物片づけていくんですよ。同じ自習室の人が荷物片づけていくのが一番キツかった。しんどかったなって。でもまあ、気にしても仕方がないから取り合えず机に向かう、みたいな（笑）ひたすらやってました。何も考えずに。

細沼：私は、部活の引退時期かなー。4月とか5月くらいに、引退するちょっと前くらいに、もう全部が面倒くさくなっちゃって。なんか、みんな勉強し始めるじゃないですか。引退早い人たちはもう勉強してて、で（自分が）遅いから、もう出遅れてる。ただでさえ出遅れてる感で、もう1年じゃ間に合わないんじゃないかって。じゃあもう遊びたいなってなったけど。けどちゃんと毎回ここ（代官山 *MEDICAL*）に来てました。休んでない。

宮内：え、でもよくさ、ここに來れるっていうか、気持ちこっちに向いてたよね。

細沼：部活があったからってのもあって、部活やってるとちょっと授業に遅刻するくらいだったんですよ。だから、やばい、行かなくちゃみたいな、時間が無いから行ってた。ちょっとでも遊べる時間があって、多分さぼって休んでた。

宮内：逆に時間詰まってて、ギリギリの時間だからもう行くしかないなって（笑）余計な事を考える必要が無かった。なんか、私ギリギリすぎてお昼ご飯食べずにやってましたもん。食べると眠くなるじゃないですか。なんか、ヤバいなって。

細沼：結構、萌々香はストイック。

宮内：眞子は普通に食べてた（笑）まあ、それは人それぞれってことで。

細沼：あ、息抜きはでも大事ですね。私は代官山での友達と勉強に1時間集中して、で休み時間の時に外のコンビニ行くか、ちょっと散歩してました。これくらいなら許される、みたいな（笑）

学校生活は楽しまない方がいい。それくらいやんないと受かんない

宮内：学校行ってるときはあんまり、高校生活を楽しまない方がいい。体育祭とか文化祭とかはあるけども、ガチでのめり込むことはしないって感じですね。休み時間も誰とも喋らないで勉強してたんで。それく

らいやんないと受かんないです。友達とかと話しちゃうと、そのままズルズルって勉強できなくなるから。私はそうだけど、眞子はきっと違う（笑）

細沼：私はガンガン（笑）楽しむときは楽しんで、量より質です。まじで。どれだけ長く代官山 *MEDICAL* にいたとしても、だらだらやったら意味ないし、頭に入ってこないから。短い時間にどれだけ集中してば一つといくかが重要。集中して復習っていうよりも新しい問題、一回分かったらもう次の問題に行きたいタイプの人だったから、もうどんどん次、次みたいな。で新しく先生から課題もらうから、次の自習コマでそれやって、終わったらすぐ提出して、みたいなのを延々とやる。

宮内：そう聞いてるとほんとバラバラだよ、真逆っていうか。

細沼：私みたいなのは真面目じゃないじゃん？だからもうちょっと真面目にすればよかったとは思う。学校ちゃんと楽しんじゃったから、どっちかっていうと。（学校の）授業でみんなが楽しそうにしてたら普通に口出してたし、萌々香みたいに自分の世界に集中しての方が効率は良かった。

宮内：学校のホームルームでグループで話し合えみたいなあったじゃん？それすら無視してもうずっと勉強してました。

細沼：え、大丈夫なの、それ（笑）

宮内：周りも、もう話しかけない方がいいかなって。気遣われて、そんな空気。

細沼：萌々香は他の人にさ、医学部目指してるっての理解してもらってたからこそだとは思う。そんだけ本気じゃないと受かんないって、やっぱ。



卒業生が語る

合格への 軌跡2024年

WAY TO SUCCESS

東京医科大 2次正規合格
杏林大医学部 2次正規合格
東北医科薬科大医学部 2次合格
北里大医学部 2次合格

マンスリーのランキング載って、

本科生に睨まれたら勝ちなんで。

「本科生、俺のこと見ろよ」みたいなの。

東京医科大進学 中村 友哉 君（東京農業大学第一高卒）

現役で合格できたのは代官山 **MEDICAL** の授業を受けて、初めて勉強が楽しいと思えたから

東京農業大学第一高等学校出身の中村友哉です。進学先は東京医科大学です。

僕、中学生のときに本当に成績悪くて。あ、素行もちょっと悪くて…。学校から退学届とか渡されちゃうぐらい本当にひどいガキだったんですけど、高校1年生の最初に代官山 **MEDICAL** に入塾したのをきっかけに、3年間ずっと勉強を頑張ったから受かったのかなと思います。

勉強のモチベーションになってたのは、高1の時に、姉（中村 弥貴：東京女学館高卒 昭和大医学部進学【現役】）が高3で。毎朝、朝6時半に、代官山 **MEDICAL** に行ったり、ずっと夜遅くまで勉強していて、なんかそれに憧れたというか。自分もやらないとなみみたいな。それを見てやる気になったっていうのもあるし、代官山の先生の授業を受けた時に、初めて勉強が楽しいと思えたので、それでちょっと自分でも頑張ろうかなって。やっぱりこの授業いいなって思わない限り、モチベーションって続かないんで。高1の時は英語、化学が結構苦手だったんですけど、梅田先生（英語科）とか三井先生（化学科）めっちゃ楽しかったのを覚えています。

自習室って大体9時半ぐらいに先生方が（消灯に）来るじゃないですか。で、「電気消すよ」って言われて、まあ、まだもうちょい勉強して（笑）その後、先生方が、いい加減帰ってなってから、さすがに帰らないやばいなって思って、大体9時50分ぐらいに帰ってました。7限終わった後はなんか、夜は理科を1問でも解いておきたいなっていうのがあって。ヒラパン（平野先生：数学科）とも、「数、物、化で戦え」って言われてたから、理科をちょっとやりました。

僕は高2の時にすごくありがたいことに2号館に行かせてもらって。それで、僕は高2の秋ぐらいから、ちょっと、朝の6時半前ぐらいに自習室行って、勉強するようになって。そのときに鋪屋さん（鋪屋 瑠



美：頌栄女子学院高卒 東京慈恵会医科大進学【現役】）がすごく早くからいて。それに憧れてたんで鋪屋さんの姿見習って、僕もちょっと頑張ろうかなっていうのがあって、高2から朝も勉強しました。朝早く行ってたんで学校はギリギリに着くぐらいの時間見計らって、自習して。1時間で大体、小問計算、積分、化学をやるっていうのがルーティンだったので、問題を解いて学校行くっていう感じでした。あと、ちょっと、これは姉の話なんですけど。姉は東京女学館で、学校の中で誰よりも早くバスに乗って代官山 **MEDICAL** に行ってたってのを聞いて。だから僕も、友達が学校で授業が終わった後って駄弁るじゃないですか。その時に自分はすぐパッと抜け出して、1番にバス乗るっていうことをルールとして決めてました（笑）もうみんな受験ガチ勢が多い学校だったから、意外と皆納得、理解はあったので。まあ、学校のはある程度区切りを付けて。本格的に受験勉強頑張ろうみたいな。

母は成績には関与してこなくて、勉強しろとか高校時代一回も言われたことない

姉の時からそうだったんですけど、大体母が毎日、朝代官山 **MEDICAL** に行く前におにぎりとか作ってくれて、それを食べたりはしてました。母も働いているんですけど、一緒に相当な早起きをしてもらってましたね。大変申し訳ないことに。母は僕の成績にもあんまり関与してこなくて、勉強しろとか、多分、高校時代、一回も言われたことなくて。一回も家族の空気が悪いとか、喧嘩とかはあんまりなかったんで、家ではすごくリラックスできて、良かったです。東医受かった時には最初に母に電話して。そしたらなんか電話越しにちょっと泣き声聞こえたので。よかったです。本当に感謝しきれないですね。

代官山の先生、みんなすごくて。東医の数学は2ミスで、結構いけるかもって

受験勉強で英語が一番苦労しました。英語って、やっぱり細かい知識が大事じゃないですか。でもそういうの無しでもいけるんじゃないかって高2の秋くらいまで勘違いしてて。高2の秋のマンスリーで、英語が30点しか取れなくて、さすがにやばいなって思って。文法の細かい知識とかを詰めるようにして、受験のときには、人並みには戦えるようにしたって感じでした。英語は、岩崎先生と石井先生にお世話になりました。岩崎先生のマンツーマン取っていたんですけど、すごく優しくて。何にもできない僕に、構文とか本当に丁寧に丁寧に教えてください。少しずつ構文解釈とか文章をちゃんと見るようになって。あと文法も学校の行きのバスで詰め込んだりと自分で頑張って、戦えるようになったのかなって思ってます。そしたらやっと、マンスリーでもランキングに載るようになってたりとかして。

石井先生は、θの授業で前から2番目の席に毎回

座ってました。石井先生の授業は毎回当てられたらやばいみたいな感じで、ずっと緊張しながらやって。でも、その緊張が意外と面接とかで役に立って、面接大したことないじゃん、みたいな感じになって良かったです（笑）あと、石井先生は写経しろって仰るんですよ。それ必死に写経して覚えたっていうのが意外と効いて。写経をするようになってから、大体次にどんな that 来るのかとか、きっと次、関係詞が続くとか、この節どこで終わるのかとか、そういうのが掴めてきて。ちょっとずつ読めるようになってきたなみたいな。写経は効果があるから絶対やった方がいいです。石井先生が言うんだから間違いないですし。

数学でお世話になったのが、平野先生ですね。平野先生は、授業面もそうだけでも、精神的な部分の相談とかもできるような方じゃないかなと思っていて。さっきも言った通り「お前は数、物、化で戦え」って先生に言われて。それで本当にマンスリーの後とか毎回「お前ならできるから、マジで数、物、化で（点数を）叩け」ってずっと言ってくださったから、諦めないで行こうみたいな。ずっと励ましてもらって。でも、一回、ちょっと9月明けぐらいのマンスリーで、成績が一気に下がっちゃったんですよ。その時に、あんまり言われなくなっちゃった時期があって。それがなんかすごい悔しくて。そこでちょっと、9月、10月、11月の大体3カ月間を本気でやったら、最後のマンスリーで総合成績3位を取れたんで、頑張ってたかなって。

僕は数学の授業でやった、似たような問題を探して解くのが好きだったので。（校舎に置いてある）「大学への数学」よく読んで。だからそれのおかげで、一応これ使えるなみたいな。授業でやったやつ、やった解き方、この問題でも使えるなっていうことを考えるのが意外と武器になったのかなって。友達に「この問題、何？」とか、ちょっと聞かれるんですよ。で、たまに「テキストのどこどこにあるよ。全く同じ問題あったよ。」とかちょっと記憶したり。なんかそういう問題をずっと探してたから、ああ、あったなあみたいな感じで。そういう積み重ねが良かったのかな。

実際、入試の時は「これやったことあるな」ってのが結構あって。これ解けるなっていうのが連続すると本番中の焦りは消えました。それで、東医の数学が2ミスかな？結構できて。行けるかもって。類題を探してのが僕には良かったのかなって。ただ、さすがに探し過ぎると、時間の無駄になっちゃうから、ちょっと休み時間とか隙間時間に休憩がてらに探しているのがおすすめです。

化学は授業を担当してくださったのが、菊本先生だから、一番思い出深い先生ですね。

菊本先生の後期のテキストが、小問集合がすごい多くて、それを毎朝やってきていて、そのテキストがすごく総復習になって良かったし。あと、菊本先生はいろいろと僕と化学の話をしてくれるんですよ。それ

で「これ、こうすよね？」とか話したりして。そういう時間を作ってください。代官山の先生はみんなそうなんだろうけど、特に菊本先生はそういう時間を作ってください。化学の最後のマンスリー、2位か3位とか取れて。おう、みたいな（笑）菊本先生、いいすよ。いいす。おすすめです。菊本先生は多分、難しいこと言うけど、それを理解できるようになったら、化学で戦えると思うんで。それに食らい付いて理解できるくらい頑張れば実力は相当上がると思う。

物理の寺澤先生は、僕の物理の土台作ってください。高2のとき、寺澤先生に見てもらって。学校の物理の先生と、もう、比べ物にならないぐらい本当に分かりやすくて。姉も「寺澤先生めっちゃ好き」って言って。僕もめっちゃ大好きなんで。あと、面白いし。寺澤先生は本当に物理が苦手な人も、誰でも寺澤先生に付いていけば絶対得意になると思うんで。

寺澤先生に物理の土台を作ってもらえればもう、勝ちみたいな。

本当に物理って、定義が大事じゃないですか。それに沿って本当に丁寧に定義を教えてください。定義が分かってないと、応用問題は絶対解けないし。寺澤先生は、受験期にちゃんと微積分とかを使う所を、こう使うって教えてください。そういう微積分を使った解き方は、あんまり教えてくれない所が多いかもしれないんですけど、教えてください。それがちゃんと深い理解に繋がったかなっていうのもあります。岩手医科大とか他の大学でも結構同じ定義を使う問題が出て。卒生は使えるんですけど現役生はできないって問題が多くて。そこで、受験で使えるテクニックを教えてください。本当に助かりました。

現役生がランキングの上位に載っていると、睨まれるんですよ。本科生に睨まれたら「勝ち」なんで

マンスリーテストで、ランキングが貼り出されるってのが代官山 *MEDICAL* のすごくいいところですね。初めてランキング載ったのが、それこそ、第2回、第3回のマンスリーテスト。そこで化学、いきなり1位取っちゃったんですよ。それで、多分、本科生の中で「高3の中村友哉」っていうのがちょっと話題になったらしくて。で、ランキング載ると、なんかその、俺だぞみたいな。フフフ。そういうのが楽しかったりとか。あとやっぱり、ランキングに載らないと、先生もちょっとがっかりしちゃって。それが悔しくて、絶対ランキング死んでも載ってやろうみたいなのがモチベーションになってましたね。

現役生に言えることは、マンスリーで本科生を叩き潰すと、楽しくなってくるってことですね。フフ。やっぱり現役生がランキングの上位に載っていると睨まれるんですよ。でも本科生に睨まれたら勝ちなんで。ランキング載って、「本科生、俺のこと見ろよ」みたいな。それでビビれみたいな。フフフ。ちょっと、やってやっ

たって部分も正直あります。絶対口にはしなかったですけれど。ランキングに載って睨まれることって、多分現役生にしかできないんで、それが一番大事なので。僕も、上には上がいるんで、その人たちを睨ませたいなってのはずっとありました。

ランキングって、載らなかったときのショックもあるかもしれないけど、載るためにその月ごとの目標ができると思うから、それで、結構高くモチベーションを維持し続けることはできるんじゃないかなって思う。一回でも載れば、次も載りたいって思うわけだし。載る喜びを知れば、どんどん伸びてくるし。ランキングに載り続けてる人たちって、受かるじゃないですか。それもいい基準にもなるんで。まずは何かしらの科目に絶対1個載るっていう目標をたてるのが、大事だと思います。

ウィークリーテストも、僕は大体1位か2位で。僕と尾形さん（尾形 恵理：成蹊高卒 東京医科大公募推薦合格【現役】）と内山君（内山 嘉綱：中央大学附属横浜高卒 昭和医大医学部進学【現役】）。そこで僕は、その2人をライバル視してて。それで尾形さんは一回ランキングで1位取ったじゃないですか。それ見て、あ、やべえ、俺ももうちょっと勝たなきゃみたいになって。それで、12月、1位取れたので。あんまり表に出さないんですけど、裏でよし、絶対勝つからなって（笑）

ウィークリーで点数を取れなきゃ、マンスリーも無理なので。まずは実際にウィークリーを対策して点を取る実力を付けて、その後にマンスリーで取るみたいな。ウィークリーの勉強時間は、大体英語とかはバスの中で覚えてたり、代官山MEDICALに来る前の隙間時間や学校での時間を使って復習がてら対策してい



ました。授業で課題が出されてたらコツコツそれを言われた通りにやってウィークリー対策にしていました。僕は代官山MEDICAL1本で信じてやってましたね。なんか言われた通りにやらずに反抗してる人とか、たまにいますけど、反抗してるやつにランキング勝ったときは、めっちゃ気持ち良かったです。フフフ。ウィークリーを受けたくないとか、この先生嫌いだから受けないとかそういうことは一切なくて、欠席も一回もないと思います。とにかく謙虚になって1つでも多く吸収しろってことを部活とかでも言われてて、その考えがうまく染み付いて、どんな先生と合う合わないにしても、絶対、何か一つは吸収してマンスリーとかに活かしてやろうっていうのは思っていました。絶対、もう、絶対素直にならないと、上位校は受からないんで。

僕は鋪屋さんになろうってずっと目指してたんですけど、さすがにあそこまでは僕にはできなかったですね。でも、現役生は絶対、鋪屋さんを目指すべき。

この1年間は勉強に本気になっても絶対後悔はしない

現役生に向けて一言言うなら、やっぱり、死んでも合格してやるっていう気持ちで、人一倍強くないと、絶対合格はしないと思うんで。僕は本当に、本当に、まあ、自分がバカ過ぎるっていうのが分かってて。だから高1のときから、学校の帰りとか8階のラウンジで、当時は自習室とかもなかったんで、1人で勉強して頑張ってたって受かったの。現役生は時間が無いからこそ、朝とかも絶対行くっていうのを覚悟決めて行って、学校の授業中も、先生からどう思われてもそんなんどうでもいいっていう思いで、代官山の授業でやった勉強して。そうすれば、受かります。

この1年間は勉強に本気になっても絶対後悔はないと思います。確かに、高校時代は他の人を見ると遊んで楽しそうだなと思ってたけど。でも、やっぱり、現役で医学部入って全然後悔ないし、大学でも遊べて楽しいから。高校3年間のうち、1年間は本気で勉強しても絶対後悔ないし、大学でもかなり自信になると思うから、ぜひ現役生の人には1年間勉強に本気になってみるのもいいかと思います。

あとは、授業は前の席で受けてほしいですね。何回か後ろの席に座ったことがあるんですけど、やっぱり先生の覇気とかを感じなくて。ちょっと、だらけちゃうみたいな時もあったので。絶対、授業は前で聞くほうが成績伸びると思う。思い返せば現役生で前にいた人が受かってんのかなって。内山君とか、大塚君（大塚 碧：獨協高卒 獨協医科大進学【現役】）とかも前にいたし。多分、前にいれば受かります。

この1年間は辛いと思うけど、でも絶対、大学入ったらめっちゃくちゃ面白いし、すごく楽しいから、この1年間、是非、全力になって、そして合格して、大学生活を楽しんでください。

卒業生が語る

合格への 軌跡2024年

WAY TO SUCCESS

岩手医科大医学部 2次正規合格
東北医科薬科大医学部 2次合格
北里大医学部 2次合格
金沢医科大 2次合格

僕のモチベーションが大きく上がったのは、
3年目の夏にクラスが上がって2号館行っ
た時に「受かるかもしれない」って漠然と
自信がついて。本館から2号館に上がれば
もう、間違いなく、やる気は出ると思います。

北里大医学部進学 西谷 蓮太郎 君 (修道高卒)

「やっぱ、医学部行きたいです」って父親に一月間ずっと頼み込んでました。

西谷蓮太郎です。出身は広島修道高校で、進学先は北里大学医学部です。1次合格は岩手、東北、久留米、聖マリ、北里、金沢です。で、2次合格したのが、岩手、金沢、東北、北里です。そこそこ浪人もしていたから、最初に来た岩手に取り合えず入学金払えっていろんな人に言われたんですけど、岩手より金沢がいいというのがあったし、金沢に対しては絶対的な自信がありましたね。もう、100%正規って思っていました。逆に補欠だったのが驚きなくらいで。でも、去年、一昨年なら絶対に言えないです、あり得ないです(笑)

代官山 MEDICAL で間違いなく人間的に成長しました、絶対です。最初来た頃はもう、地方から出てきた、水を得た魚のよう(笑) 都会だー! っていう。楽しいなーだったんですけど、浪人して3年目は、そろそろ医学部行けるだろうっていう自信をもって勉強して、ちゃんと石井先生にも、マンツーマンを担当してくれた先生にも怒られ、なんとかあったって感じですよ。2浪終わった時点で、他の歯学部受かって。父親からももう、おまえはもう歯学部行けって言われたんですけど。自分は(歯学部を)覚悟してたんですよ。2次面接のときには、高校生の頃から医師目指したとか言ってたんですけど、正直、僕、なんか、本当に、幼稚園の頃からずっと言っていたらしくて。母親に、医者になるって。何を思ってそう言ってるのか分かんないとは言ってたんですけど。誰も家系で医者がないんで。ずっと医者。医者しか考えてなかったです。それに歯学部行くと後悔するって、仮面浪人がまだマシで、最悪歯学部やめて予備校に戻って来るっていうのを周りから聞いてたんで。多分僕は耐えられない、負けたっていうかそれを受け入れちゃった感じがして。そういうこととか考えて、いや、医学部行かなきゃ、これやばいなっていう。人としてやばいなっていう。



やっぱ医学部行きたいですって父親に一月間頼み込んでました。父親も最初は「もう無し。歯学部にお金入れてるから」って。「今年落ちたらどうすんの」って言われて、もう絶対に(落ちたら)歯学部行きますって約束して、それで代官山 MEDICAL に戻ってきたって感じです。

2号館移ってからはではM勢の人たちを全体的に抜いてやりたいなって思っていました

1年目のスタートがA8で2年目スタートがA5、3年目はA1になりました。3年目にして2号館に移れました。まあ、正直雰囲気は2号館の方が良かったですね。本館だと少し緩い雰囲気がやっぱ流れてたんだと思うんですよ。やっぱ2号館だと、みんな仲良く話し合ってるんですけど、やっぱ勉強に関係ある話だったりとか。例えば、どこの大学行きたいとか、この問題どう解くのっていう話がほぼ多くて。ああ、やっぱ2号館は違うなっていう。あと、マンスリーとかのランキング貼られるじゃないですか。2号館勢はみんな仲がいいんで「私、ここ」「僕、ここ」みたいに言ってくるんですよ。うわああってなって(笑) 仲がいいゆえに悪意無く笑顔で「お前この位置なの? やばくね?」って言われて、やばいなって、勉強しなきゃなって。大体ランキングに40位くらいにコンスタントに入ってたんですけど、30位以内ってのを目標にしました。仲のいい人たちが大体30位以内に当たり前に入っていたので、そういう感じでM勢の人全体的に抜いてやりたいなって思っていました。ライバルというか刺激を受けていたのが青島君(青島 秀明: 磐田南高卒 昭和大医学部進学)で、結構、口に出して言うタイプ。出来たら出来た、出来なかったら出来なかったって言うタイプなんですけど。それ見て、ああ、すごいなって。やばい、勉強しなきゃって。青島君より上に行けたら、俺も受かるんだろうなっていう、感じでしたね。

代官山のテストゼミでやった問題がそのまま出て「あ、もう受かったなって」

先生方で印象に残っているのは、英語は三ツ橋先生ですかね。三ツ橋先生はもう、ビシバシ言ってくれて。もう、これは覚えなきゃやばいって。あ、こんなのも覚えてないんですかと煽られ。あの人はできたんですけどねと言われ(笑) 僕の扱い方を分かってるような。今年は厳しい先生に当ててもらおうって思ってて、浪人も長いからこっだけキツく言われないとやらないだろうなって思ってたんで、三ツ橋先生を選びました。

数学は平野先生です。人気だからなかなかマンツーマンを取るのが難しくって、やっと今年って感じです。平野先生は的確なんですよ、やっぱり。この単元が、確率が苦手とか、数列が苦手とか言ったら、入試に出そうな問題をちゃんとピックアップされてて。これを解けば、絶対、何か当たるって言われて。実際、当た

りましたし。最後のテストゼミも、しっかり入試問題当ててきたんで。すごいなと。やっぱ平野先生だわと思いつつ。テストゼミで出た問題が入試に出て「あ、もう受かったなって」(笑) 物理と化学にも結構な自信があったので、4教科中3教科バズれば受かるじゃないですか。あと類題の経験値が多かったんで、なんかこの系統見たことあるなって。やべえ、何からやっというか分からないっていう問題がほぼ無かったです。1年目、2年目では絶対無かったですよ、今までは見た瞬間「ああ、終わったな」でしたから。1問目ですよ。僕も結構「軌跡」読んでたんですけど、先輩たちが言っているように、代官山 MEDICAL のテキスト3周、5周すれば確実に伸びますよ。あとは、僕は、分かんない問題は、2回、3回解くんですけど、テキストを何周するっていうのプラス、平野先生にプリントもらいに行って、また違う系統の問題をもらって、いろんな角度から解法を作るっていう方向性で、数学は勉強させていただきました。それは僕に合っていましたね、結構。

化学は菊本先生一本です。2年目からお世話になって。僕は相当なアホだったんで最初は出来たらすごいねって褒めてくれるような感じだったんですけど、3年目はもう違いましたね。鬼でした(笑) 1回1限の授業遅刻しちゃって…、そこから2日間くらい口利いてもらえなかったんですね。毎授業後、謝りに行っていました。いや、もう本当にすみませんって。倍以上やるんでっていう。いや、遅れたっていう事実変わらないからって。そういう気の緩みが3浪につながってんじゃないのって言われて。やばい、言われたと思って。やばいやばい、絶対、遅刻しないと思って。勉強しなきゃって。今思うと、緩んでる自分を見抜いて言ってくれてたんだなって。本当に助かりました。あの頃は楽しいことに逃げちゃう子供っぽいところがあって。でも、3年目は全くないです。代官山 MEDICAL に毎日来てたんじゃないですか。その菊本先生の厳しさもあって、化学は得点源にすることが出来ましたね。

物理は、もう柳瀬先生。いや、柳瀬「大」先生って言ったらいんですかね(笑) 朝早くから来てくれて質問対応してくれて、本当に面倒見の良い先生でした。峰尾さん(峰尾 萌衣: 桐朋女子高卒 東京女子医科大進学)とか、佐藤紫及さん(東洋英和女学院卒 日本大医学部進学)とか、青島君とか色んな人の質問対応してくれて。本当に熱量がすごい先生ですよ、話してみるとクールで全然面倒見良さそうには見えませんが(笑) 物理とか勉強面の質問をするとちゃんとサポートしてくれて。この単元分からないですって言ったら演習プリント100枚とかくれますからね。いい意味で頭おかしい。20日で終わらせてきてって言われて、1日5枚ペースでひたすらやりました。本当に一番近い距離でお世話になった先生だと思えます。どんなに物理が苦手な人でも柳瀬先生に付いたら1年で物理は得意科目になります、絶対。

マンスリーはケアレスミスにも厳しいから入試で精度が高まった

代官山 MEDICAL の良さって沢山あって。講師室がオープンじゃないですか。そこでの質問してるとところかも見られていて、他科目の話題であっても「物理で1位、すごいじゃん」って平野先生に褒めてもらったり、他の先生方からの視線もあるからちゃんとしていられたし。あとは、本館と2号館で分かれてることですね。僕のモチベーションが大きく上がったのも3年目の夏にクラスが上がって2号館行ったんですけど、その時に「受かるかもしれない」って漠然と自信がついてモチベーションに繋がったのもありましたし。本館から2号館に上がればもう、間違いなく、正直、もともと2号館の下のほうにいる人よりもやる気は出ると思いますし。M1とかM2の人からも、本館ではなかった刺激がいっぱい受けられて。ああ、自分ってまだまだなんだなっていう、いい刺激が受けられたと思います。マンスリーのランキングあるじゃないですか。自分の立ち位置がまず知れるっていうのもそうですし、例えば自分の仲いい子は載って、自分は載ってない。そこでなんか、優劣を感じて、やる気を出すモチベーションの一つになると思いますし。そこで、もし落ち込んでも、やっぱ自分で勉強しなきゃ、クラス上がれないっていうのも再認識させられますし。容赦なくクラスも落とされるんで。それは、合格への目標の一つとして、すごい分かりやすい指標なんで、あれはすごい良かったなと思います。あとはテストゼミで競争心煽ってくれるのも嬉しかったです。ちゃんと点数出されて、すぐに返却されて。隣の席の子と、やっぱ、何点何点って確認し合うじゃないですか。勝ってたらよしと思うんですけど。左見て勝った。右見たら、全然、高いと思って。うわーって。喜ぶねえと思いつつ。そんな感じでした。緊張感と言えば、石井先生のθの授業も相当でしたね。しっかり当ててほしくないところで「はい、西谷君」って(笑) 分からないと本当に気まずいですよね。周りからもんなのも分からないの?って冷ややかな視線があるような。予習もってやんなきゃって思えましたね。

マンスリーテストが1週間くらいで返却されるのもすごく良かったです。1週間の間にも、やっぱ、自分でも自己採点しちゃうんですけど。自己採点とやっぱ、点数違うんですよ。上がったたり下がったり。で、僕の場合、やっぱケアレスミスが多過ぎて。ずらして書いて。はい、マイナス15点とか。あれ、ちゃんと書いたよなと思いつつ。よくよく見たら、ああ、スモールbって書くところをラージBって書いて、はい、バツ、バツ、バツ、バツ。容赦なく引かれてるみたい。そういうことか、みたい。そういうミスにちゃんと気づかせてくれたって、こういう所を自分はミスるんだなって。入試の時も見直しの際にかなりその経験は活きましたよね。マンスリーの後の熱量が残ってるうちにミスに気づけて、反省してって出来ま

すけど、河〇とか駿〇の模試とか一か月以上後だからなんも覚えてなくて。受験直後の感覚とか無くなっちゃってるんで意味ないなーて。

浪人中は絶対気を緩めないこと

これから受験をする後輩に言いたいこととしては、2浪、3浪の壁は厚いってことです。聖マリの2次面接って結構圧迫で有名じゃないですか。落としかけてるなって。僕の時、延々と志望動機を聞かれてて(笑)もう3浪もしてるなら色々見透かされてるじゃないですか。「なんでウチなの？」って質問は高橋先生(高橋浩先生：小論科)と対策はしっかり練っていたんですけど、それでも相当に詰められて。浪人を重ねれば重ねるほど難易度は上がると個人的には思ってます。浪人中に遊びたくなる気持ちはありますけど、大学生になったら遊べるわけですし、負い目もないですし。絶対受かるまでは気を緩めない方がいいです。それと、1次でしっかり点を取らないと2次のカバーが利かなくなって。浪人が長いと面接で引かれる点数もあるだろうから、1次の点数でバズっておかないって感じですよ。僕、岩手正規合格だったんですけど、2次面接の15分のうち、12分雑談でしたよ。これ、落ちたんじゃない？って心配になるレベルでしたからね。で、正規の通知来てて、「あ、1次バズったんだな」って。

代官山MEDICALでの生活は、良くも悪くも楽しかったっちゃ楽しかったですね。その、ずーんと沈む時もあったんですけど、やっぱ受かったらもう、何もかも関係なくなりましたね。学校入ったら、普通に3浪もいたんで。そこで3浪に対して負い目を感じなくて、全然、隠すつもりもなく、僕、3浪だよって言ってたら、周りの子も普通に、俺も1浪だわとか2浪だわって感じなんで。まあ、大学入ると浪人とか、関係ないですね、入っちゃえば。全然、10浪もいますしね。普通に。受かったらもう、医学生なんで、自信持って生きていけると思います。学生証出すとき、気持ちいいですから。アハハハハハ。僕は、将来沢山手術して患者を救いたいって思ってます。あの、いわゆるドラマで、白衣を風になびかせながら歩くような医者になりたいんで。カツカツ歩くような(笑)先生、先生って言われたいんで。そういった先生になれるかな。なれたらいいなと思いますね。頑張ります。



卒業生が語る

合格への 軌跡2024年

WAY TO SUCCESS

愛知医科大 2次正規合格

ちゃんとやるからには絶対どっかは受かろう
って気持ちでいて、代官山MEDICALの
凄さも改めて分かったし、これ、
受かるじゃんって合格までの道筋が見えた。

愛知医科大進学 片桐 渉 君 (玉川学園高卒)

代官山に入学時は、ペン持つのすら久しぶりだった。

夏の途中から代官山 MEDICAL に入って、そこから合格まで2年かかりましたね。最初は勉強に慣れるってところからのスタートで、その時のマンツーマンの先生が、田山先生（物理科）、菊本先生（化学科）、で、梅ちゃん（梅田先生：英語科）だっけかな。

俺、その時覚えてるのが、授業受けるぞって時にペン持つの久しぶり過ぎて、「ペンってこんな感じで持つんだっけ?!」って（笑）高校時代は遊びまくっていたからペンの持ち方すら忘れてたっていうね。で、1浪目、2浪目はほぼノートみたいなもんで、医学部受けてはいたけど、これはちゃんとやらないと無理だになって。それで代官山 MEDICAL で本腰入れたって感じっすね。

3浪目の時に初めて獨協と聖マの1次が来て、これもう1年ちゃんとやれば上の大学も目指せるぞって気持ちになって。4浪目はちゃんと、こう、自分なりに、自分で計画立ててやったって感じですね。4浪目になった時、2号館に行けて、その時からかな、自分の中でもかなり変わったし、やるならちゃんと結果出したいんすよ。マンスリーテストとかでもそうなんすけど。やったなら、結果出そうだっていうスタンスだったから。4浪目は、ちゃんとやるからには絶対どっかは受かろうっていう気持ちでいたから。そもそも授業で吸収した知識で1次出せるんだって、自分の能力的なことも分かったし、代官山 MEDICAL の凄さも改めて分かったし、これ受かるじゃんって合格までの道筋が見えたって感じで。

これ結構友達にも話していたことなんですけど、3浪目の最後、獨協の1次が出る前に、三ツ橋さん（三ツ橋先生：英語科）のマンツーやって。で、三ツ橋さんには、全然1、2回目の授業とかですよ、マンツーで。「君、聖マの後期通るから、そこを目指してやりなさい」って言われて。何？この人と思って（笑）まづそもそも、聖マリアナ医科大学なんて、都内寄り



だし、結構レベル高めの大学で、こんな何にもしてない俺が通るわけなくね？って思った矢先に、獨協の1次が通って、えっ、これもしかしたらいけるかもなと思って、三ツ橋さんの言うとおりに、ばーってやってたら、本当に聖マの後期、1次だけだったんですけど、通って。あ、これ三ツ橋さんの言う通りにすれば、もう、全然いけるなと思って。4浪目もかなり三ツ橋先生には、タイムキーパーというか、自分の生活を見てくれる人になってもらって。ほいでもう、4浪目ずっと怒られながら、三ツ橋さんにやってもらってたっていう。

多浪だった僕らが1浪の子達の作ってくれた流れに上手く乗れた。

4浪目の時は、最初 M5 スタートで、直矢（高橋 直矢：城北高卒 杏林大医学部進学）とか、大斗（浅田 大斗：長岡高卒 杏林大医学部進学）とか。あとは、小島さん（小島 香音：目黒高卒 昭和大学医学部進学）とかもいたし。あと青島（青島 秀明：磐田南高卒 昭和大学医学部進学）とかもそうですし。1浪組っていうか、結構活気付いてるやつらと一緒に、なんか、僕もこう流れにうまく乗れたなっていう。M5 勢は、お互いあんまり干渉し過ぎてはいなかったです。例えば、大斗も今でこそインスタとかつながってるけど、直矢とかも、ちょくちょく話すけど、（当時は）そんな別にご飯行ったりとかもしたことないし。代官山の友達として、勉強頑張ろうぜって。お互いのマンスリーの点数とかは意識してたし。で、最終クラス、僕は M3 で、そいつらも M3 で全員一緒だったんすよ。M5 のほとんどのメンツが。M5 からみんな M3 に上がって、M3 みんな全員合格取ったんで。お互いよくやれたなっていう印象でしたね。

言ってしまったらあれだけど、本館にずっといたら得づらい部分だったかもしれないね。2号館だったからこその、良いピリッとした空気。イメージなんすけど、2号館は結構みんなずっと焦ってた。本当に焦ってた。どれだけマンスリーの点数がよかろうが、どれだけ4教科のどれかで1位取ろうが、2位取ろうが、関係ない。そんな点数なんか関係なく、マンスリーはただ過程でしかないから。結局、結果がね、ついてくるのは、まあ、2月とか3月だし。その1月、2月に向けて全員、焦ってたっていうのは、めちゃくちゃ感じた。2号館勢は遊びにも行かず、マンスリー終わりでも、普通にマンスリーのこと、これできた、これできなかったの話がもうずっと夜まで続いてたし。んなら、M1 の長澤君（長澤 直太郎：巣鴨高卒 北里大医学部進学）とか森君（森 陽太：前橋高卒 東京医科大【特待合格】進学）とかはね、本当に記憶に新しいけど。2階の教室でずっと2人で、マンスリー終わりも、2人でずっとやって。もう、こいつら、本当頭おかしいんじゃないのかなと思うぐらいだったから。やっぱ、その波はみんなにも来てたし。あいつ

がマンスリー取れてるのに、取れてない俺がやんなくてどうするんだっていう。浪人の年数でも、僕の場合にはめちゃくちゃ頑張ってたから。年下がこんな頑張ってるのに、俺23歳、何してんだろうなっていう気持ちもあったから。6浪の藤森（藤森 雅史：佐久長聖高卒 聖マリアンナ医科大進学）とか錦織（錦織 佑：代々木高卒 岩手医科大医学部進学）とか武藤（武藤 光風：巣鴨高卒 岩手医科大医学部進学）とか俺も含めた多浪勢が、1浪の子たちの作り出した空気感に、みんなで乗れた1年だったかなっていうのは思いますね、うん。

代官山の先生は僕らの合格のこと第一にしてくれてたから、その気持ちを無下にはできないって。

僕の1年は、マンスリー一筋ってよりかは、何て言うんだろうな。1月の試験に向けてどの道筋を歩んでいかってっていうので。やっぱ、三ツ橋さんが、すごい色々言ってくれてたから、三ツ橋さんの指示に従ってただけなんで、マンスリーの結果はあんまり意識してない。なんなら、三ツ橋さんは、俺が数学1位取ったときとかも、全然褒めてもくんなかったし（笑）正規で受かれよっていう。もう、ずっとそれしか言われなかったんすよ、1年間。1月の試験で、絶対正規取るっていうのだけを意識してやってましたね。あと、三ツ橋先生との作戦で、1学期中は本気を出すなってことになって。僕はどうせ後の方になってガス抜けるから、夏期講習から本気で行けて。案の定、夏期講習前にクラスが一回A1に下がったんですけど、それは想定内の範囲内だったんですよ。でもまあ、「クラスダウンは聞いてねえよ」って怒られましたけど（笑）本当に三ツ橋さんとは二人三脚な1年でしたね。怖いくらい僕のこと理解してましたからね。

僕は正直そこまで人の言うことを聞くタイプでもないし、謙虚でもなかったし、本当に頑固者だった。けど、親身に考えてくれてるなっていうのはすごい伝わってきたし。マンツールの先生みんなね、僕らの合格を第一に考えてくれて。もう気持ちの問題だけど、やっぱりその人たちの意見は無下にできないなと思って。代官山的に良くないことですけど、ちょっと遊んじゃう時とかも、すごい三ツ橋さんの顔がちらつくんすよ、こちら辺で。うわっ、三ツ橋おると思って（笑）。他科目のことで言うなら、数学で言うと、やっぱ典さん（高橋典先生：数学科）。最後の方なんかどっちが鮮やかに数学の問題解けるかって勝負しあってましたね。数学好きな人は典さん、かなりお勧めかもしれないですね。最後の方、僕の中で数学は趣味みたいになってて、愛知（医科大）の数学終わった時に手応えガチガチにあって、多分満点だろうなって。受験終わらせられるんだって思えましたね。物理は田山先生でずっと固定でした。ここ（代官山MEDICAL）に来た時からマンツーマンお世話になってたし、田山先生が持ってきて

くれるプリントが思考系の問題が多かったから、ずっとそれやって。とにかく思考力を上げてくっていうのでお世話になってました。化学は原先生ですかね。原先生も僕の性格を見抜いてたのかなって思うんですけど、原理的な説明から入ってくれてすごく頭に残るんですよ。慈恵、順天、日医、慶應目指している人は原先生の論理的思考いいと思います。

親とは線引きして、自分でやろうって決めました。

愛知医科大から（合格）通知が来て、やっとな片桐家に春が訪れましたよ。ずっと曇天だったんですけどね。親も、姉が真面目なんで、一緒なら進級も大丈夫だろうって安心して愛知医科大に送り出したのかなって。4年前の時点では本当に医学部行けるのかなって親は思っていたと思いますよ、ただまあポテンシャルは高いだろうなとも思ってくれてたんだと思います。だから親もあんま口出しはしてこなかったですね。浪人始まるときにも、僕も言ったんすけど、勉強面はもう何も言わないでっていうふうに親には言ったんすよ。それこそ代官山MEDICAL入ったときも、石井学院長が俺の母ちゃんに言ってくれて、そういうのってちゃんと親とは線引きして、自分でやるってのは決めてたんで。勉強面で完全に、こう、剥離っていうか、何て言うんだろうな、勉強面はもう全部自分でやる、それ以外は親がやるっていうふうに分けてたんで、うちは。



だからこそ4浪目も相当、家族間のコミュニケーションはすごいまくってたし、すごい、いい形になれたかなっていう。

結局、成績高い奴が偉い

細かなクラス分けは本当に代官山 *MEDICAL* の良さっすね。今の時代にそぐわないヒエラルキーの形成ってあるじゃないですか、予備校内での(笑) 結局、成績高いやつが偉いんすよ、代官山は。成績、取んなきゃ駄目なんですよ。ていうのがやっぱり、細かいクラス分けのおかげで、同じ仲間とも切磋琢磨できるし、例えば同じクラスのやつらがいい点数取ったら、やっぱりピリつくんすよ、クラス内でも。僕もなんか、一回マンスリー7位とか、6位とか取ったったときも、結構ピリついて。そういうのがやっぱりあるから、クラス分けのおかげで。そういうのでみんな、無意識のうちにやばいなって思うし、それで勉強みんなやるし。本当にいい空気感、出てるなって思いますね。競争感、やっぱり大事ですね。マンスリーのランキングも出るから、ちょっとそういうのきつい人もいるのかなと思いますけど、ハングリーに点数取りに行けるかっていうのが大事。やっぱり受験も相対評価で、上から100人が入学するっていうのは決まってるんで。相対評価だから周りを蹴散らさないといけないんで。

あと代官山 *MEDICAL* の良さって言えば授業数ですね。特に夏期講習とかは、僕は助かりましたね。授業数多いからやることに追われるんですけど、前期で基礎ができた分、夏は演習が多くなってきて、テストゼミとかもあるんでもう、があーっと、ずっと解いた。僕の勉強スタイル的に、ずっと演習するスタイルが合ってたんで、夏期講習のスケジュールで演習が多くなってきたのは良かったです。ただ、時間割がギッチギチなんすよ、もう(笑) 毎日1コマぐらいしか空きなかったんじゃないかなってぐらい入ってたんで。そのおかげで夏明けに、がぼって成績伸びたんで。本当に、授業数の多さは大事だった。下手に授業が無かったり空いてたりしてたら合格できてない、上手く時間を使えてないって、合格した今だからわかりますね。空きのあるコマでどれだけ復習するかって考え方になるから、とにかくやるしかないんですよ。時間が無いって聞こえは悪いですけど、効率よくやるために絶対必要、むしろ原動力にもなった。

これから代官山 *MEDICAL* で受験をする人たちに言っておきたいのが、入試期間もマンスリーも結果が良かった時に気を抜かないこと、ですね。僕は愛知医科大の合格もらった瞬間に気を抜いてしまって少し集中力無くしちゃってたところがあったんで。今でも後悔してますもん。入試期間、あの期間ちょっと地獄っすよ、本当に。僕みたいに、数学・物理型の人はずっとやる気を保つのは難しいんで、適度に息抜きはして、目標はあくまでも1月、2月の合格にして。どこのタイミングで力かけていくか決めてやってくことかな。

手段と目的が逆になっちゃう人たまにいてるんで。僕の場合は数学が好きになったので良かったんですけど、何か好きな教科見つけて、それを趣味レベルにできたらいんじゃないかな。好きこそもの上手なれっていうじゃないですか。もし、好きな科目が数学なら典さんのマンツーマン取って、楽しくやれば、受験でも相応の結果がついてくるから。本当にお勧めです。

卒業生が語る

合格への 軌跡2024年

WAY TO SUCCESS

福岡大医学部 2次正規合格

代官山 *MEDICAL* のテキスト以外何もやっ
てないです。それさえちゃんとやってれば、
絶対合格できるんで

福岡大医学部進学 岩崎 綾子 さん（明治大学附属中野八王子卒）

先生にやれって言われたことをやったら習慣化出来た

岩崎 綾子です。出身高校は明大中野八王子高校で、進学先は福岡大医学部です。浪人自体は1年で、現役時代はどこも1次通らなくて、本当に普通に通らないなって分かって、浪人で頑張らなきゃってやってきました。逆によく1年で合格したなって(笑)

本当にこの1年はあっという間で作業のように毎日過ごしてたんで。周りが皆出来てるから、めっちゃ焦って真面目に勉強してて、入試期間には「受かるっしょ」くらいのモチベーションでやれてました。毎朝6時に起きて、朝ごはんも食べずにすぐ家を出て、代官山MEDICAL着いたら朝ごはん食べながら勉強してました。たまに寝ちゃったりもあるんですけど、そしたらその分夜遅く残って、やれなかった分やって、みたいな。1日でやることを絶対決めて、もう机の横とかに貼ったりして。それが終わるまでは帰らないようにしていました。初期の頃は先生にやれって言われたことを取り敢えず最初はやっていて、だんだん要領分かって来るじゃないですか、そしたら「これは1週間に1回のペースで良い」「これは確認程度で良い」、「逆にこれは増やした方が良い」みたいに自分で調整するようになってきました。勉強する時間も、朝起きる時間も習慣化できたというか、やり方をちゃんと身に着けたんで、同じ生活を毎日するって大事だなって。

代官山MEDICALの良さって先生の数が多いこと

先生にも結構相談、質問に行ってる。数学だと祐さん(佐藤祐先生:数学科)は特に。自分で計算プリント貰いに行って1日1枚のペースで解いて、それを毎日昼休みに見せに行ってる。先生の昼休みを一番奪っていたと思います、私(笑)。あと、典さん(高橋典先生:数学科)も。マンツーマンは後期から取ってたんですけど、めっちゃめっちゃ励ましてくれるんですよ。「大丈夫、受かる」みたいな。意外と優しいんですよ。典さんは、こういう解き方だけじゃなくて、こういうのもあるよねーみたいに、色んなのを教えてくれたんで、解き方に困ったときに助けられたって感じです。

英語だと、岩瀬先生に「さきどり期間」に結構文法のプリント貰いに行ってる、自分で勉強する習慣というか、「英語の勉強」をちゃんとやり始めたきっかけになりましたね。あとは、梅田先生も、私が代官山MEDICALに入りたての時、「単語どうすればいいですか」って聞いたときに「じゃあ、単語テスト作るよ」ってまだ授業も始まってないのに単語テストくれたりとかして、貰ってるからにはちゃんとやらなきゃって思えましたね。入学した頃は梅田先生ってデスクの方に座ってるから、事務の人なのかと思って(笑)でも授業受けたら、本当に分かりやすくて。私自動詞、他動詞全く分からなかったんですよ。そこから説明してもらって、英語の基礎を作ってもらったって感じです。

化学は、小林先生に入りたての時から入試が終わるまでずっとお世話になって。現役の時是有機すらやってなくて、本当何もわからなくて。授業聞いててもついていけなさそうって思ったんで、小林先生のマンツーマン取って、プリントめっちゃもらって解いての繰り返しで。先生はちゃんとやらないとしっかり怒ってくれるので、言われたくないからちゃんとやらなきゃって頑張れました。

物理は色んな先生にお世話になったんですけど、柳瀬先生、端迫先生、寺澤先生とか。特に柳瀬先生には本当にお世話になって。授業前の結構早い時間から机でスタンバイしてくれて、プリントも沢山もらって復習の為の知識も教えてもらいながらずっとやってましたね。質問に行くときに意識していたのが、授業で分からないことがあったらすぐに行くとか、溜め込まないで行くってあると思うんですけど、「ここ、どう考えても無理で、こう考えたけど分からなくて」っていう感じで行き詰った時に状況を伝えて質問するのが良いかなって思いますね。分からないことがあったらすぐ質問に行く結構時間かかっちゃうし。

代官山MEDICALの良さって先生の数が多いことだと思うんです。同じ科目でも担当してくれる先生が沢山いるんで、色んな先生に出会えるし、色んな話を聞くことが出来るから、複数の先生に同じ内容を指導してもらおうと、理解が早かったりとか。

科目ごとのレベルに合わせて授業があるので、成績の良い人とも友達になれた

私、最終クラスはA3でしたけど、スタートがA7だったんですよ。本館からのスタートでなんとか2号館に移れました。最初のクラス分けでA7ってなって、結構クラス低いからヤバいなって。でも妥当だよなとも思ってる。成績の良かった物理はA1の人と同じ



じ授業にしてもらってたんですけど、周りのレベルが全然違うなって刺激があって。代官山 MEDICAL では自分の科目ごとのレベルに合わせて授業組んでくれるので、成績の良い人とも友達になれたんですよ。本館にいたのに2号館の浅田(浅田 大斗君:長岡高卒 杏林大医学部進学)とかめっちゃ仲良くしてくれて。廊下で会って「どう？」って声かけてくれたし、あとは小学校の時の友達もいて、高橋(高橋 直矢君:城北高卒 杏林大医学部進学)なんですけど、頭良かったんで自分も負けないように頑張らなきゃって思えましたね。一緒に帰ったりとかして、電車で一緒に勉強したり(笑)代官山 MEDICAL は上のレベルの人とも友達になれるし、勉強法とか入試のこととか、そういうのも聞けるからかなりモチベーションになりましたね。

目標にしてた人ってなるとやっぱり飯島さん(飯島 百合子さん:埼玉栄高卒 杏林大医学部進学)かな。飯島さんって結構周りに流されないタイプだったんで、そういうの見てると私も勉強だけ頑張ろうって思えるんですよ。最初の頃は飯島さんも私も似た成績で、クラスも A6 と近かったんです。でも最終的に飯島さんが A2 で1つ上だったんで悔しいから頑張らなくちゃなって思っていました。飯島さんの勉強量は多分、(高卒)本科生の中で一番だったんじゃないですかね。同じ量はやれてないかもですけど、自分の中にある限界量はちゃんとやり切っていたんで、自分の出来る範囲で飯島さんを抜こうって思っていました。

友達って言っても、勉強の事とか不安な時に話せるだけの友達でいい、どこか遊びに行くような友達は絶対作らない方が良く、お互い良い意味で利用できるのが一番いいんです。そうした友達って入試終わってから逆に仲良くなるんですよ。



授業は前に座ることで早く先生に認知してもらえる

代官山での生活で意識していたことは、授業の席は前に座って受けることですね。「合格の軌跡」で歴代の先輩達も言っていたんですけど、あれめっちゃ大事だと思っていて。前に座ると「この人かなりやる気あるな」ってちょっと周りから見られるかもしれないですけど、授業で先生に当ててもらえるんですよ。それで早く名前を覚えてもらえるし、質問に行ったときも「ちゃんといつも聞いているよね」って言ってくれるし、解いている時も解き方とかも見てもらえてそこでアドバイスしてもらえたりするんで、本当、恥ずかしがらないで前に座ることで自然と先生に認知してもらえて、質問に行った時もスムーズに解法とかの癖を見られるから、すごい大事になって。それくらいしないと授業に参加してるとって感覚が無くて。θの授業の時は特に、間違えたら結構「やばい」って思って、θも他の授業の予習も怠けられないでやるようになりました。前に座ることで成績が上がるというより、外からの影響が強くなるっていうのと、先生との接点が増えるってことで成績が上がる効果があるのかなって思います。

生活面を親にサポートしてもらってたからこそ絶対怠けられないなって

この一年、親には相当サポートしてもらってました。朝早くに出て、夜遅く帰るから、あまり会話こそ多くは無かったですけど、どんなに朝が早くてもちゃんとお弁当作ってくれてたり、夜も帰って来るまで起きてくれてたりしてました。だからこそ絶対怠けられないな、みたいな。サポートしてもらってる分ちゃんとしなくて思っていました。代官山 MEDICAL の入塾説明会の時に「学習面は代官山に任せて、家では食事や睡眠のサポートをお願いします」って親に言ってたんで、それを両親には守ってもらえてたんだなって。なので、勉強面では何も言われなかったけど、クラスの話は気にしてましたね(笑)。「クラス低いから頑張ってるね」とか、(クラスが)上がると逆に「すごいね!」って言ってもらえてたんで。実際、A7からA3まで4つ上げましたから、結構頑張った方です。

代官山 MEDICAL は色々な先生に出会えるし授業で喝を入れてもらえる

後輩の皆さんに言いたいことは、一番は言われたことをちゃんとやるということですね。先生に言われたことをちゃんと淡々とこなしてって、且つ自分をちゃんと持った方がいいかな。周りの影響っていうのをあまり受けない方がいいって思います。あとは小論文の対策は本当にした方がいいです。勉強面では二の次感があるけれども、私は正直これがヤバすぎて。前期からクラス授業だけで、小論文のマンツーマン取ってなかったんですよ。で、なんか入試始まってからやばいって気づき始めて。なんかもう1次だけ来てそ

こから(補欠繰上げの)番号が見つからない結果しか来なくて、兵庫(医科大)とか。それで直前に教務の人をお願いして、浩先生(高橋浩先生:小論科)のマンツーマンを入れてもらって、女子医と福岡の前にめっちゃ小論文と面接の対策してもらってたんですよ。浩先生に私は話すときの例が多いって指摘されてたんですよ。「○○してもらったり…」の「ったり」はダメでしょう、みたいな。例を出すなら1つのところを私は2個くらい出しちゃってて。あとは面接官が沈黙したからまだ喋んなきゃって思って、必要以上に多く喋っちゃったりしてましたね。浩さんのマンツーマンであれば、そういう個人の特性も見抜いてくれた上でのアドバイスを貰えるから、直前まで対策取ってなかったのは本当にヤバかったんだなって。逆に、前からちゃんとやってれば、他の大学の2次も受かったのかなって思いますね。そういうところはちょっと悔いは残るんですけど。だから小論文も舐めずに、ちゃんと授業を受けて欲しいです。小論の知識はもちろんなんですけど、考え方とか知識が、こう繋がってくんですよ。それのおかげで福岡大に合格できたのかなって。

あとは、代官山 *MEDICAL* のテキストの復習はちゃんとやった方がいいです。私は毎朝、微分積分のテキスト問題を絶対やるって決めてて。なんか微分積分でもう当たり前、呼吸するくらいの感覚で出来ないと後々困るんですよ、入試期間に入ってから。「え、これテキストに載ってたよね」って当然のように先生に言われるんで。そういう朝何をするべきかっていう指示も先生からもらえるんで、それを自習席に貼って常に目の届くようにしておけば忘れることはないし。まあ、テキスト5周やれって言われて、言われたからにはちゃんとやるんですけど、キツいんですよ、5周って(笑)無理だなんて思いつつも、もう死ぬ気でやるみたいな。本当に先生から貰ったプリント類と代官山 *MEDICAL* のテキスト以外何もやってないです。それさえちゃんとやってれば、絶対合格できるんで。だから後輩の皆さんにはそこを頑張ってもらいたいって欲しいですね。

これから代官山 *MEDICAL* で頑張ろうって思ってる人たちは、ちゃんと覚悟を持ってやり始めた方がいいです。最初はみんなやる気があって頑張ろうみたいな感じなんですけど、だんだん本来の目的見失ってモチベ下がるんですよ。でも、代官山 *MEDICAL* は色んな先生に出会えるし、その先生方に授業で喝を入れてもらえるから、「1年で合格するんだ」って覚悟をもって、そういう環境でモチベを上げながら頑張ってもらいたいって欲しいです。

卒業生が語る

合格への 軌跡2024年

WAY TO SUCCESS

東京慈恵会医科大 2次合格
日本医科大(後期) 2次合格
東京医科大 2次合格
昭和大医学部 1期 2次特待合格
国際医療福祉大医学部 2次合格
北里大医学部 2次合格

代官山 MEDICAL のマンスリーテスト
って学力を測るってだけじゃなくて、
テクニックの練習なんですよ。やっと
問題を解くのが上手くなったなって思
えたのが、日医の後期でした。

東京慈恵会医科大進学 吉田 浩輝 君 (青山学院高卒)



卒業生が語る

合格への 軌跡2024年

WAY TO SUCCESS

獨協医科大前期 2次合格
岩手医科大医学部 2次合格

この1年では結構メンタルきてた時あったんですけど、勉強を止めることは絶対しないで、代官山MEDICALのカリキュラムに則っていきながら自分のペースを崩さないようにしていましたね

獨協医科大進学 木ノ内 李空 君（桐蔭学園高卒）

メンタルに来ても勉強のペースは崩さなかった

吉田：吉田浩輝です。出身高校は青山学院高等部で、東京慈恵会医科大学に進学いたしました。

木ノ内：木ノ内李空です。出身高校は桐蔭学園高校で、獨協医科大学に進学しました。

吉田：もともとは慶應が第一で念頭にあって、一応、慈恵も目指していたんですけど、順天をかなり目標にしていましたね。ただ、1科目でもミスると他が相当よくないと取り返せないって感じで順天には縁が無かったですね。満遍なくかつ1科目他人よりできているって状態でないと2次までは通せないというか。

木ノ内：慈恵も日医も通すのって凄いわ(笑)合格した時もスッとやってきた感じだったし。

吉田：夏期講習で、その、難しい問題に対して、こうじっくり向き合ってみるっていうのを結構実践してて。それでも数学と物理が出来なかったんですけど、夏期でその2科目は結構沢山やったし、科目的にも好きになれたのでその後の継続力にも繋がったかなって思いますね。

木ノ内：この1年では結構メンタルきてた時あったんですけど、勉強を止めることは絶対しないで、代官山MEDICALのカリキュラムに則っていきながら自分のペースを崩さないようにしていましたね。そもそも高3の時はめちゃくちゃ頭悪かったんですよ、本当に勉強してなくて。入学した時はA6 辺りからスタートかなって思ってたらA1で(笑)春のさきどり期間頑張ったからだとは思んですけど、A1なのに他の人と比べて全然勉強出来なくて、いや本当本当。クラスの周りの人たちはランキング載っていくのに、もう本当に(自分は)載らなくて、ああ居場所ないな。みたいにならずと思ってましたね。7月くらいまでは。

吉田：マジ？メンタルきてるようには見えなかったけどな。普通に代官山MEDICALに来てたと思うけど。

木ノ内：メンタルきて休んでも意味ないなって。マンスリーで点取れなかったり、ランキング載らなくて悲しくはなりましたが、ここで勉強疎かにしたら、逆にマンスリーとかがないその辺の予備校の人たちの

方が有利になるって思って。なんか、代官山の良さ、良いところを活かせてないのはもったいないって思ったので。まあ、最後に受かればいいでしょみたいな。

ぎっちり授業で詰まっていた、管理してくれる医専を探していた

木ノ内：現役の時は高2の夏からメディカル〇ークって所に通ってたんですけど、授業以外のコマは特に何かしていたわけでもなくて、勉強のモチベーションどんどん下がっちゃって、あまり行かなくなっちゃったんですよ。で、浪人するってなって、代官山MEDICALにしようって決めたのは、もうなんか、すごく厳しそうだったので、1年で終わらせるにはここしかないかな、みたいな。色んな予備校の話聞きに行ってたんですけど、やっぱり石井先生が導いてくれる雰囲気すごくあって。渋谷の周りに結構医専ってあるじゃないですか。メル〇ックスとかウィ〇ダムとか。そことかも説明聞きに行ってたんですけど、説明してくれる人がもう石井先生と全然違う。

吉田：僕は現役の時は〇台の市ヶ谷校に通ってましたね。周りがハイレベルだったってのもあるんですけど、クラスの授業レベルについていけなくなって、〇台自体が放任主義というか、あんま管理されてなかったっていうのもあって、全部が中途半端になって、木ノ内君と同じで行かなくなっちゃいましたね。これじゃダメだなと思って、管理してくれる予備校を探して代官山MEDICALを選びました。他の医専も見たんですよ。それこそY〇Sとか、隣のレク〇スとか。ある程度管理はしてくれるみたいですけど、授業とその課題以外は自由にやってね、みたいな感じで。僕は空いている時間があるのは苦手だって〇台で分かっていたんで、1週間結構ぎっちり授業で詰まっている生活がしたいなって思って、ここ(代官山MEDICAL)になって。

木ノ内：代官山MEDICALって授業でほぼみっちりじゃないですか。逆に少しでも時間を作って予習とかしようとするし、今何すればいいんだろうってのが



起こらないっていうか。

吉田：そうそう。やることは常にあったんで、その状態が一番。「何やろうかな」って時間が一番無駄。やることは決まってるし、分からなかったらいつでも講師の先生に聞きに行けるし。特定の先生でなくても誰かしらその科目の先生はいてくれるから、新しい先生に質問できる機会が多いというか、マンツーマン取れば相談を受けてくれるきっかけも多くなる、それで僕はかなり柳瀬先生のとこに行っていましたね。

木ノ内：物理組って柳瀬先生推し多くね(笑)めっちゃいい先生だけでも。

吉田：3月のさきどり学習で柳瀬先生の授業取ってたんですけど、その当時の僕は質問にも行かない、授業終わったらさっさと帰っちゃうような感じだったんですよ。で、授業普通に受けてたら「君、やる気ある？」って割とちゃんと叱ってくれたんですよ。僕の中ではちゃんと叱ってくれる先生って貴重だったから、この先生ならって思ってマンツーマン取りましたね。課題プリントを貰うようになって質問にも行くようになって、勉強のリズムを作れるようになったのは柳瀬先生がきっかけでしたね。出会えて良かったと思います。

木ノ内：僕がお世話になったのが平パン(平野先生：数学科)ですね、やっぱ。それはもう厳しくやってもらったおかげで、暗記するぐらいテキストも回しましたし、しかもそれがそのまま試験に出てきたときは本当にびっくりして。岩手(医科大)通ったのも平パンのおかげですよ。獨協も同じで、代官山MEDICALのテキストと同じ問題出て。本当に先生は凄いなって思いました。「(合格への)軌跡」で皆言っていましたけど、本当に的中させるんだなって(笑)

最初のクラス分けで一緒になった友達が結局最後まで入試まで戦った仲間

木ノ内：2号館でのクラスは皆仲良いうって思いますね。地原君(地原 隼人君：栄東高卒 獨協医科大進学)とか大山君(大山 晴暉君：慶應義塾高卒 杏林大医学部進学)とか。なんか皆で頑張ろうみたいな。置いてけぼりにさせない感じ。

吉田：A1・A2でクラス近かったのもあってそこら辺の人たちとも1学期から仲良くなりましたね。宿谷(宿谷 貴大君：宇都宮高卒 杏林大医学部進学)とか佐藤 紫及(東洋英和女学館高卒 日本大医学部進学)とか、清水君(清水 裕太郎君：桐朋高卒 獨協医科大進学)とか。まあ、その初期のA1・A2メンバーが結局最後までずっと入試まで戦った仲間みたいな感じがあって。友達付き合いは結構、僕は支えになって。〇台の時は、まじで、校舎で発言したのって3分もいなくて。それも事務の人とくらいで、クラスの誰とも喋ったことないし。孤独というか。ここ(代官山MEDICAL)に来て、「ここ何？」みたいにクラスの人たちと教え合うようになって、お昼も一緒に買いに行

くとか、そういう少ない時間でも結構沢山話したりするようになりましたね。最初のクラス分けがあった時に、木ノ内君と「一緒だ」って話すようになって。

木ノ内：入試が終わるとより一層仲良くなって。入試期間の最後の方とかお互いかなり疲弊するんで、こう何日も入試が続くと。そこでお互い助け合って心の支えになったかなって。本当、直前のあそこが一番仲良くなった。

吉田：結構、(簡単な問題を)ミスで点数が吹き飛んじゃうっていうのがあって。学力あるのにミスしちゃって落とすってのがすごいもったいなくて。ミスした側もどうしても何日か落ち込むのが続いて。ほっとけないじゃないですか。次に生かすってのも大事だからお互い指摘し合うというか、入試の振り返りをするのにも本当に友達って大事だなって思えます。

木ノ内：入試期間中もメンタルに来ないように、毎日代官山(MEDICAL)来てたよね。

吉田：ずっと来てました。割とみんな。

木ノ内：普通、入試期間ってもっとみんな「お前敵だ」みたいになると思ったんですけど、逆に代官山MEDICALではそうじゃなくて、笑顔が絶えないというか、ピリついた空気じゃなくて。もちろん勉強はするんですけど、落ち着いて緊張せずに入試を終えられたかなって。

吉田：いや、マンスリーは意外と(笑)なんか、コイツに負けて悔しい、みたいなね。結構バチってた。でも、入試で取ればいいやってスタンスで。総合でも、各科目でも1位は取ったことないですけど、目標とする人たちはいて、数学なら清水君、化学なら田中 暁也君(暁星高卒 昭和大医学部進学)、総合ならやっぱ森君(森 陽太君：前橋高卒 東京医科大進学【特待合格】)ですかね。すげえなあと思いつつも切り替えて勉強していました。元々慶應(医学部)を頭に



置いていたってのがあって。じゃあそこに自分の実力のマックスを持ってくるにはどうしたらいいかって考えてたんで。マンスリーの振り返りも大事、自己採点とかも大事ですけど、マンスリーでは本番を意識してやって、結果に対して自分の気持ちをアップダウンさせると、本番でもそうだったら慶應で本気出せないって思っていましたね。

木ノ内:結果に一喜一憂しない練習ってこと?すごい。

吉田:元々の気質なんでしょうけど、出来るのに別の要因で出来なかったのは悔しいと思うんで。マンスリーも、当日の昼食はどうするかとか、本番を考えて研究してましたね。最後の方はもう、休み時間は誰も喋らないでって意識して、本番をマンスリーくらいストレスレベルまでに下げられればいいかなって。

木ノ内:僕は、緊張しないように「これは授業でやる簡易テストの延長の一つだ」って思うようにして、リラックスして。でも、2号館にいてっていう証明を知らしめようみたいな(笑)なんでこいつ2号館にいるの?って絶対思われたんで。

吉田:思っていないよ(笑)

木ノ内:マンスリーのルーティンとしては、4回目くらいからかな。朝、テスト始まる前に地原君とその辺ジョギングして、階段ダッシュしてから臨む、みたいな。あとは、勉強に行き詰ったら休憩長めにとって、チョコとか一口サイズのフルーツをコンビニ前で食べたりしてて。社会人が帰ってる姿を見て「みんな頑張ってるし、俺も頑張ろう」みたいな。

これから代官山 MEDICAL で頑張る皆さんへ

木ノ内:成績がどんなに伸びなくても、何かできるようになったってのが大事ですね。例えば、この前やった内容は(マンスリーテストに)普通出題されないじゃないですか。だから、数値は伸びなかったとしてもちゃんと実力は上がってると思うので、自分の決めたことをコンスタントにやり続けることは意識してほしいですね。あと、僕みたいな人向けなんですけど、上のクラスの人たちは多少の余裕があると思います。昼食べに外出るとか。でも、それは自分の立場を弁えて努力した結果な訳で。だから、真似していい部分とダメな部分があって、自分が同じことをやっても変な時間になっちゃうんで。自分のペースというか、自分のやることを弁えて行動するってのがやっぱ大事だと思います。

吉田:代官山 MEDICAL のマンスリーテストって学力を測るってだけじゃなくて、テクニックの練習なんですよね。テストを受けるたびに「テスト受けるの下手くそだな」って思っていましたからね。捨てる所(問題)はばっさり捨てるとか、そういうのをマンスリーで練習して行って、やっとな問題を解くのが上手くなったなって思えたのが、日医の後期でした。数学の問題ばーって見た時に、超ムズいってなって、普通ならどっか他解けないかなって時間割いちゃうんですけど、

そんなことしてる時間あるなら「確率」の問題で、90分あるうちの45分を確率を数えるのに費やしました。別に頭から解かなくていいっていうのを、やっとなと終りの方で知ったっていうか、実践の中で「捨てた」のは、自分の成長を実感できたし。代官山 MEDICAL でメンタル、解き方、ミス、こっちの実践部分を学んで合格まで頑張っただけいいなと思います。

卒業生が語る

合格への 軌跡2024年

WAY TO SUCCESS

東邦大医学部 2次合格
東京医科大 2次合格
日本大医学部 1期 2次正規格
獨協医科大前期 2次合格
北里大医学部 2次合格

代官山 *MEDICAL* は、授業を休めない
空気感がしっかりあって。お互いにち
ゃんと認識し合ってちゃんと話すんで、
自身の勉強の戒めになりました。

東邦大医学部進学 小林 祐也 君 (桐朋高卒)

入試の時も代官山 *MEDICAL* のテキストと合致してる問題が沢山出たので、代官山のテキストをやれば大丈夫です

代官山に通った1年を振り返ると、長いようで、一瞬で受験までいったかなって。入学したときのクラスはM4で、最終クラスはM3です。その間アップダウンは特になく、ずっと2号館にいました。2号館の雰囲気は、勉強してるはしてるんですけど、そこまで殺伐としてなくて良かったかなと思います。

現役の時は〇台市ヶ谷に通ってて、夏とか冬とか長期期間の休みはもう、10時とか11時とかに起きてたんですけど、代官山 *MEDICAL* に通った1年は、まず7時半に来て、計算トレーニングから始めて、あとは終わってない予習とかもやってって、夜は9時半までやるみたいな感じで習慣化してました。石井先生は入学当初、自分で起きらんなかったら合格せんよって仰ってたんで、自分で起きる努力をしていましたね。そこはやっぱり、一定の時間に来ることのほうが大事なかなって思ってます。あと、勉強のもうちょっと踏み込んだところでいうと、苦手な分野をやるみたいな。なんか浪人生、本科生になってくると、苦手な科目って、やりたがらなくなる人が多かったんじゃないかなって思っています。でも、安定して合格するにはどうしたらいいのかなって思ってます。そしたら、やっぱり苦手科目なくバランス良くできるのがいいのかなって。

代官山 *MEDICAL* に入学した段階では、英語と化学は得意科目だったんですけど、数学と物理はひどかったと思います。数学は夏過ぎるぐらいまでずっと学院内の偏差値50ぐらいで。物理も最初40台でした。マンツーマンで苦手科目は補強して、得意科目は伸ばしてってやってきました。英語は三ツ橋先生が良かったです。文法も大事で、もちろんやるっちゃやるんですけど、僕は文法にそんなに時間をかけたくなかったっていうか、かけ過ぎると良くないなって思ったので、そういうときに、すごく簡潔に文法の必要事項がまとまっている感じで良かったです。で、文法より長文の方に力を入れて復習してたんですけど、授業前1回読んで、授業終わって復習するときに、赤いフリクションで、単語とか調べたの書いて、で、それを隠しながら、白文みたいな状態で何回も読むみたいなやりました。長文を読んで単語を覚えるみたいな。テキストは過去問とか使っているやつだから、そっちの方が出て来る割合も高いです。そんな感じで英語は基本的に復習、最後の方は岩崎先生の授業プリントに入ってるやつは全部やりました。演習量はどの教科においても、かなりがつつりやれたかなって感じですね。化学は原先生が良かったです。原先生も、すごく分かりやすく、ただ結果を言うだけじゃなくてその理由とかも言いながら授業してくれるので、それで結構、頭に入ってきたかなって。

数学は、前期のテキストを夏までに最低3周やって、で、夏にまた追加で、多いところは5周、6周ぐらい

やった感じでした。前期テキストには、数学の問題を解くに当たっての基本的な考え方みたいなのが詰まっていたと思って。なので、ちゃんとやれば、解法の方針が立たないなって思う問題はもう、周りのみんなも解けない問題だって割り切れましたね。実際、入試の時も、似たような問題とか合致してる問題とか、まあ解けそうだなみたいなのは沢山出ましたね。そのおかげで、日医の後期と順天堂大医学部でも1次合格出ました。代官山 *MEDICAL* のテキストをやっていたら大丈夫です。やっぱり数学を伸ばさないと入試は厳しいだろうって思ったので、前期は特に自習時間の7割ぐらいはもう、数学やってんじゃないかってぐらいやってたので。やっぱり不安に思ってる時って、手付かなくなる瞬間って、結局、問題解かなきゃとか、勉強しなきゃっていうので打ち消すことが大事だったりするんですよね。なので、やらなきゃいけないことを全部、各項目ごとに書いて、1個あたりにどれくらい時間がかかるのかなみたいなのを考えて、何コマ必要みたいなのを書き出してって、教務からもらった時間割表をコピーして、そこに書き込みました。そうすると1日でやらなきゃいけない流れが見えてくる感じで。

物理も前期のテキストをやっぱり何周もしたんですけど、もうもともと物理音痴っていうか、すごい苦手。なので、小澤先生のマンツーマンで通常よりも速いペースでひたすら問題演習してもらって。マンツーマンで80問ぐらいはやったと思います。演習の量をこなせたので自分なりに結構自信も付いて、それで最終的に数学と物理は、得意だった英語と同じぐらいの成績になりました。

仲間意識は他の医専に比べるともう全然強いと思う

ライバル視していて仲良かったのは、青木(青木智紀君:名古屋高卒 杏林大医学部進学)。あとは、青島(青島秀明君:磐田南高卒 杏林大医学部進学)とか浅田(浅田大斗君:長岡高卒 杏林大医学部進学)とか。ずっと勉強して、お昼コンビニで買ってすぐ食べて、すぐ勉強みたいなのをやっていました。仲間意識は他の医専に比べるともう全然強いと思います。僕は結構不安になるタイプだったので、特に数学が上がらなかつた時期がもう、本当に大丈夫なのかなみたいな(笑)。数学が上がればいけるだろうって思って数学に時間を割いてたんで。それで数学が上がってこなかったんで、まずいぞって思ってた。そういう時に青木はよく、「大丈夫だよ」って励ましてくれて、それが励みになったかなって感じですね。あと、2号館の人たちって朝集まって勉強し合うとか、赤本解くみたいな文化があったりするんだけど、それもやりました。数学を青木と浅田と青島とみたいな感じで解いてました。赤本のリストってのを貰って、その通りに解いて演習をしてましたね。

代官山 *MEDICAL* は授業を休めない空気感がしっかりある

マンスリーテストは授業でやったテキストの復習とかを、特にマンスリーの前に多めに復習することを意識していました。ウィークリーテストもちょうどその復習のタイミングと被ったりとかするんで良いかなって。最初の方とかはあんまり成績が良なくて心配にもなるんですけど、ちゃんと続けていけば終盤になるとどんどん成績上がってくるんでお勧めです。

ウィークリー、マンスリーは、結構ランキングに載りましたけど、ランキングを貼るっていう文化は他の医専と比べても特色があって良いなと思ってます。クラスの周りの人は載ってる事が多かったんで、そん中でちょっと負けたとかは、「悔しい」みたいな気持ちはあって。ま、そういうところがモチベーションになったかなって。あと、さっき言ってなかったんですけど、穂積（穂積 裕太君：巣鴨高卒 日本大医学部進学）とかも仲良くて。穂積の点数見て「うわ、負けてるな」とか、そういうのは結構（笑）。

あと、代官山 *MEDICAL* は、授業を休むと「どうしたの？」って周りの友達から心配されるんですよ。授業を休めない空気感がしっかりあって。お互いにちゃんと認識し合っていて、ちゃんと話すんで、そういうところでメンタル的にかなり楽になるし、お互いに勉強の戒めになるんで。同じぐらいの学力レベルを持ってる人と話すと、「すごい、あ、この人は、ここできてるんだ」みたいなのが分かっていい刺激になったかなと思います。現役の時の〇台市ヶ谷は電話とかでもう、休んだら、もうそれでよくってみたいな。それで僕、あんまり行ってない時期とかもあったんで。クラスも代官山 *MEDICAL* はかなり細分化してて、14クラスまで編成されているから同じレベル帯の人しかいないっていうのも、すごい大事なかなと思っていて。でも市ヶ谷は、クラスは3つ程度で取

りあえず一番上に入ればいいやみたいな感じで。一番上のクラスに入ろうとすると受けなきゃいけないテストみたいなのがあって。それが何故か何回も受けられるんで、何回も受けて一番上のクラスに入ったんですけど。その時はもう、全然ちゃんと勉強してなくて。圧倒的にそのクラスの中で学力が低くて、授業にも付いていけてなくてみたいな状態でした。分からないまま進んでくところが多くて、もう無理かなみたいに思っちゃって。在宅で映像でも授業を見られるようになったら、もう終盤は言い訳を作ってほぼほぼ家に帰って。映像も、最後の方は1、2個見てないみたいなのばっかで。質問とかも一回も行けなかったです。質問に行くとなると、講師室みたいな所に行かなくて、面倒に感じちゃって「ま、いっか、質問しないで」みたいな。仮に行ったらその先生は次の講義に行っちゃってもういないとかもありました。それに比べて代官山 *MEDICAL* は、授業が対面で、結構人にも当てるし、少数なんで、参加してる感がちゃんとあって、そこがすごい良くて。同じクラスにいて同じレベルぐらいのはずなのに、他の人が自分の分かっていないところを答えてると、ちょっと焦るみたいなのも、結構刺激になったかなって。映像だとやっぱり、ただ見るだけみたいになっちゃって、あんま内容が入ってこなかったのかなって思いますね。あと、他の（予備校の）講師室みたいに部屋が分かれてないから質問にも行きやすいし、行ったら答えてくれる先生がちゃんといたんで、勉強する上ですごく良い環境だったなって思います。「分かりません」って準備ゼロで持ってっても何も吸収できなさそうだから、ある程度自分で考えて、ここで止まっちゃったっていう結果を持って行くとか、自分の考え、こうなんですけど合ってますかとかって、そういう質問の仕方をしてました。効率を考えたときに、何が一番最大吸収できるかなってのを考えて。だから多分、闇雲に質問には行ってないと思うんですよ。それが多分、合格のキーの一つだったんじゃないかなって。

入試期間でだらけないためには習慣化してやる

後輩へのメッセージっていうと、やっぱり、入試期間でだらけないためには習慣化してやるのが大事っていうのが、一番言いたかったところかなって感じですよ。習慣化自体は、1学期の授業が始まって、周りの人、特に田中 優衣さん（前橋女子高卒 昭和大医学部進学【特待合格】）が朝6時に来るとか言ってて。まずいなと思って早く来ようとしたのが習慣化のきっかけになった感じです。あと、周りの人がやって取り入れたこととしては、プリントの整理かな。他の人がファイルをうまく使って、真似したらすごい復習しやすくなったんで、ちゃんとプリントを整理するのは大事だと思います。

あと、すごい苦手科目だと、本当に根本的なところが分かってなくて、質問しないとどうしようもないタ



イメージってあると思ってて。代官山 *MEDICAL* だったら、質問に行きやすいからそういうところから質問に行けて苦手科目を伸ばしやすい環境だと思うので、とにかく苦手科目をこつこつやる。結果が出なくても、やり続けて結果が出るのを待つみたいな。もう、どんなに苦手なものでも向き合えば、ちゃんと結果は付いてくるっていうのは、実体験としても言えるって、ぜひ皆さんには頑張っ欲しいですね。

卒業生が語る

合格への 軌跡2024年

WAY TO SUCCESS

福岡大医学部 2次正規合格
兵庫医科大 2次合格
帝京大医学部 2次合格
獨協医科大 2次合格
愛知医科大 2次合格

マンスリーでクラスの中で断トツの最下位になった時、松脇世尚に電話でめっちゃ怒られて、おまえは今の状態で上の医学部受かると思ってたんの、みたいな感じで怒られて、さすがに頑張らないとなと思って

福岡大医学部進学 村瀬 匠海 君（海陽高卒）

先生が実際に近くで見ているので、自分のことを分かってくれたと思います

医学部での忙しい毎日への下準備は、代官山MEDICALで身に付けることができたかなと思います。高校時代と比べて、代官山MEDICALに来て変わったことは、自分の中での言い訳を作らないことです。今までは色々な面で、勉強を後回しにする言い訳を考えたりしてたんですけど、代官山MEDICALに来てからはどんな理由があろうと、机には座って勉強しようと思ってやりました。

やっぱり1人1席の自習席が決まっていて、荷物を置けたりとか、朝早く来て自習席の場所取りに時間を取られずに、勉強のためだけに時間を割けるっていうのが良いと思いました。あとは、すぐに先生に質問に行ける環境っていうのが、他の医専予備校にはないのかなと思ってます。先生に質問に行くのは、1週間に1、2回とかなんですけども、復習したら分かんないことが結構あったんで、そこをもう一回聞きに行っていました。他にも、帝京大学(医学部)の受験科目って自分で選べるんですけど、受験科目について、石井学院長と柳瀬先生(物理科)に相談したりしていました。

マンスリーテストの点数的には、化学が物理よりも高かったんですけど、個人的には物理の方が好きで、じゃあ物理でいってもいいんじゃないって感じで言われて。そのおかげで、受かりましたね。先生が、授業で実際に近くで見ているので、自分のことを分かってくれたと思います。数学は中村先生、物理は柳瀬先生、化学は高橋龍先生がお勧めです。中村先生は、優しいんですけど、アドバイスはすごい的確なことを言ってくれて。マンスリーテストで、僕は問題を読み間違えたりとかして、点数が悪いこともあったけど、実力が付いてるから、別に気にしなくていいでしょって言ってくれて。時には、夏期講習明けぐらいに、難しい教材をマンツーマン授業でやったんですけど、もう1度基礎の問題をやり直したほうがいいのかもね、みたいな感じで。優しいですけど、アドバイスはくれるっていう感じで、中村先生はいいと思いました。

龍先生(高橋龍先生:化学科)は、とにかく優しいですよ。授業中に全く理解できていないことを質問すると、それをもう一回、一から丁寧に説明してくれるっていうか。化学が得意じゃなかったんで、そういうふうに説明もらえる先生がいたのがありがたかったです。

自分に合ったやり方を試行錯誤して、合格するためにも自分のやり方を実践

代官山MEDICALでは徒歩1分の寮で生活をしていました。寮生活中の家事は自分でやっていて、ご飯はどっかに食べ行ったりとかしてましたね。家事は溜めずに、ちっちゃな家事を小まめにやっていくのかなと思います。例えば、掃除は火曜日にやって、水曜日に洗濯、日曜日はごみ出しとか、そういう感じで

分配していくと家事の負担が減って、勉強に割く時間が増えるかなと思います。朝は授業に出れる時間には起きて、その代わり、自習は21時30分ぐらいまで残って、最後、怒られるか怒られないかギリギリまで残って勉強するほうが、個人的には良かったかなと思って。朝早く起き過ぎて、授業に集中できなくなるよりは、しっかり寝て、リフレッシュして1限を迎えるほうが僕には合っていました。授業にはしっかり出て、最後まで勉強したら、今日も頑張ったなって思えて、1限も気持ちの良いスタートができるんで。自分に合ったやり方を試行錯誤して、合格するためにも自分のやり方を実践していました。

受かるためには親との関係性も変えたほうがいいと思って、変えた感じですね

家族は、お母さんが1、2カ月に1回東京に来てくれて、掃除と合間に夜ご飯食べたりしてました。で、お父さんは、2カ月に1回ぐらい、最近どう?みたいな感じで電話かかってきてました。入試後には毎回電話かかってきてたんですけど、自分が調子いいときはかかってきたらうれしいですけど、悪いときはそっとしておいてほしいなと思うこともあるんで。仲が悪いわけじゃなくて、お父さんは俺がそういうふうにアドバイスとかされるのが嫌いっていうのを分かっている、あまり連絡はしてこないようになったんですけど。受験期間中は浪人生なんで、そんな立場もないんで、受かってからは自分の立場もできると思うんで大丈夫だと思います。

現役や1浪のときは、化学が苦手だったんで、化学を勉強しろよとか、親とそういう衝突をしてました。自分は頑張ってるけど、成績が伸びてないから親は信用していないと感じることはありました。1浪目で1次を2個合格できたことで、親も頑張っていることを、察してくれたと思います。受かるためには何かを変えなきゃいけないなと思って、自分の最初の環境を整えるために、まずは親との関係性も変えたほうがいいと



思って、それで関係を変えた感じですね。

最初は、否定とかされると思うんですけど、その中で結果を出すと親もちょっとずつ認めてくれたりとかするのかなって思います。結局は自分の人生なんで、親とかにいろいろ言われても、自分がいいと思う方法をとるべきだと思うんですよ。若干、喧嘩になったりするかもしれないですけど、自分が嫌な環境の中で生活しても、自分の能力を發揮できないと思うんで、それは自分で発信して環境を変えていくしかないのかなと思います。

代官山 MEDICAL は先生が休み時間にずっといて、質問来たら何でも答えてくれるので、すごく質問しやすい環境

勉強は、基本的に数学と化学が嫌いだったんで、悩んだら数学と化学やるっていうふうに決めてました。最初は数学の予習をあまりやってなくて、復習をメインでやって。でも、数学の復習って、全部やるとすごい時間がかかるので。授業で書いたノートと教科書を並べて、解法を頭の中で思い出して、先生が教えてくれた解法と同じ解法なのかを比較してました。その解き方で前期のテキストは5回ぐらいやりました。数学の授業があった日は、その後の空いている時間とかで復習していました。

化学は、授業でやった問題をやったり、菊本先生（化学科）からもらった授業の内容や、苦手な単元のプリントを復習してました。休み時間に先生の所に行って、添削してもらうことを繰り返していました。化学は特に苦手だったので、簡単なレベルの問題から解いていました。英語と物理は、なるべく授業中に勉強するっていうか、授業の中で身に付けるようにしてました。例えば長文の授業だったら、予習して、授業中に自分が解釈した和訳とかが合っているか、解説を聞いて確認して、間違っていたらその単語をその授業中に覚えようと努力したり。あとは、構文の読み取りミスがあったら、それも授業内で覚えようと思ってました。だか



ら、予習はしっかりして、間違ってたところだけを授業中に記憶しておこうと努力するって感じでした。物理は、その場で解いて、間違っていたり、忘れてたりしたら、その箇所だけをノートにまとめてました。全部を全力でやるんじゃなくて、ある程度自分の中で、時間を割り振って、物理が得意だったので、受験前に最後、物理をめっちゃ勉強して、ばーっと一気に復習したって感じですね。

高橋 直矢（城北高卒 杏林大医学部進学）と待井翔太郎（福島成蹊高卒 北里大医学部進学）、田中 優衣（前橋女子高卒 昭和大医学部進学【特待合格】）、青島 秀明（磐田南高卒 昭和大医学部進学）辺りの人たちと授業はよく前に座っていましたね。石井学院長が「前に座るやつは受かる」って仰っていたのもあって、みんなそれを意識していた感じですね。直矢とはマンスリーテストでも、最初は同じくらいの点数で、追い付いたり追い越されたり、ライバルみたいな存在でした。テストの点数を比較して、今回おまえ負けてるよ、みたいな感じで、逆に負けたときは今回は勝ったよみたいな感じで、テストの一個一個が勝負になるっていうか、良い緊張感持ってマンスリーテストを受けれるようになるんで、ライバルは必要かなと思います。

最初のクラス分けテストは、M3に入れたんですけど、その次のテストはクラスの中でも断トツの最下位で、高校の同級生でここ（代官山 MEDICAL）の卒業生の松脇世尚（海陽中等教育校卒 日本医科大学進学）に電話でめっちゃ怒られて、おまえは今の状態で上の医学部、受かると思ってんの、みたいな感じで怒られて、さすがに頑張らないかと思って。そこからまたギア入れ直して、軌道修正して受験を迎えた感じです。親に言われるよりも、高校の同級生とかに言われる方が、仲間に怒られている気持ちになるので、反省してそこから更に頑張ろうと思いました。自分の無力さを感じることはあるんですけど、それが僕は自分と戦ってる感じが、またちょっと面白く感じるものがあって、それが良かったかなと思いました。

いかに自分をまた追い込めるかが、成功のコツかな

今大学では、夏までに一般教養を勉強して、夏明けからはずっと医学系の勉強に入るんで、本当に医者になるんだなって気持ちにだんだんなってきました。今までの勉強は医学部へ入るための勉強だったんですけど、今の勉強は、将来の自分のための勉強。直接的に自分の人生に関わってくる勉強なんで、学ぶことにもっと意義を感じている感じはしますね。

後輩には、自分の調子が悪いときに自分がどうするかが、本当の自分というか、いかに自分をまた追い込めるかが、成功のコツかなっていう感じだと思うんで、自分が厳しいときこそ頑張るって感じです。

卒業生が語る

合格への 軌跡2024年

WAY TO SUCCESS

獨協医科大後期2次合格

マンスリーテストのランキングでも、
最後の方は一つ上のクラスをちょっと
意識してました。絶対、抜かしたいって。

獨協医科大進学 内山 幸音 さん（日本女子大学附属高卒）

卒業生が語る

合格への軌跡2024年

WAY TO SUCCESS

東京女子医科大 2次正規合格

代官山 *MEDICAL* の先生方には、日常生活も全部込みでアドバイスしてくれたり、支えたりしてくれた

東京女子医科大進学 宇田 好里 さん（成蹊高卒）

信頼できる先生を見つけて、ちゃんと自分に合った勉強法を聞くのが大事な

内山：合格の軌跡は2号館の1階に置かれるタイミングで読んでました。

宇田：置かれたタイミングで、みんな休み時間とかに手に持って歩いて。

内山：友達と勉強方法とかを参考にしました。

宇田：私も勉強方法とかを参考にしていて、去年の座談会も結構参考になりました。例えば、数学は前期のテキストを、もう絶対、何回もやったほうがいいとか。後期のテキストは難しかったので、前期のテキストを5周ぐらいしました。ちゃんと日にちを書いて、3カ月ぐらいやってない問題は、付箋付けたりして。数学は、もうそれだけ。それと、祐ちゃん（佐藤祐先生：数学科）のプリントしかやってない。前期や夏期の間は前期のテキストをしっかりとやっていました。

内山：私は基本的に、そのテキストをやって、苦手な数列とかがあったんで、そういうのを田中篤先生（数学科）から単元別にもらったりしてそこを結構回したりしてました。集団授業では、高2で入ったところからずっと中村太郎先生（数学科）にお世話になっていて。授業は本当に楽しかったし、難しい問題も太郎先生は簡単な例題とかから始めてくれるんで分かりやすいし、ポイントを結構最初まとめて教えてくれたりするもの、復習になってすごい良かった。

宇田：英語は予習にかなり時間を割いていて、 θ だと結構当たるのが怖かったんで。もうちゃんと、結構先まで事前に予習を進めてました。

内山：私も予習はやってたんですけど、でも、やっぱり、結構難しいことをやっています。最初からレベルが高いなって思ってたんで、単語とかも全部、分かっていても一応調べたりとか。意味がいくつかあった場合は書き出して、どれがいいのかなとか。それを自分でやった上で、友達と共有して臨んでました。

宇田：英語の予習のコツは、紙の辞書を使って調べると、意味が複数個出てきたりとか、熟語になったときに違う意味になるとかも連ねて出てくるんで。 θ の授業中も、辞書を持ってかなきゃいけなくて、みんな紙で調べると絶対と言われるんで、先に印をつけていました。



内山：私も英語がすごい苦手なので、読む前から調べたくなっちゃうんですけど、それでもひとまず10分は読んでみようって。最初からは使わないで、全く分かんなかったら調べようって決めてました。本番とかマンスリーテストもそうなんですけど、練習から辞書を使っちゃうと、辞書がないと読みたくないっていうか、知らない単語があると止まるんですよ。だけど、知らなくても、読み進めて行くとそこから意味が分かったりするっていうのを練習して。それで、ちょっとずつ苦手意識はなくなりました。偏差値が、言って大丈夫かな。最初にマンスリーを受けた高3の春は偏差値が29だったんですけど、最後は49ぐらいまで上がって。

マンツーマン授業はロッキー（岩瀬先生：英語科）にもう1年間お世話になってました。特に後期は、夏終わりに英語だけひどかったんで、英語を毎朝やって、それを見せに行っていました。先生がくれる選択式の問題とか、最後は私のレベルに合った過去問を用意してもらって、それを朝に愛梨ちゃん（葉山 愛梨：清真学園高卒 獨協医科大進学）と待ち合わせてやりました。それプラス、後期の休み時間は、単語帳を互いにテストし合うっていうのも毎日やりました。それをやってから、前期と比べて文章がすごい読みやすいっていうか、抵抗がなくなったのですごい良かったと思います。

でも、やっぱり、信頼できる先生を見つけて、ちゃんと自分に合った勉強法を聞くのが大事ななって思います。私も本当にやばくて、ロッキーに聞きに行っていたんですよ。ペースとか課題とかも全部聞いて、それをやったことで良くなったんで。あと、そういうアドバイスもちゃんと素直に聞けるようになるのも大事になって。信頼できる先生を見つけて、アドバイスもらって、それをちゃんとやれば、ちょっとずつ苦手意識はなくなるんじゃないかなって思います。

宇田：私は、授業を持っている先生が、みんな補助プリントを配ってくれたり、田中良平先生（英語科）や酒井先生（英語科）、ロッキーは全員にそういうプリント配ってくれるので、もらったプリントは全部やって出していました。あと前半は、夜間のテキストをめっちゃ回してました。私は文法が弱いなと思っていたので夜間のテキストは文法の問題がいっぱいあったんで1日3題分って決めて、それをもう毎日やりました。

内山：数学は前期のテキストをやりました。苦手な単元は、例題がたくさんあるものを田中篤先生（数学科）にもらって、それを回してたぐらい。私はもう田中先生にずっとお世話になっていて、もう本当にやばいかもって言ってたけど受かって、本当に喜んでくれてました。

宇田：私はクラス分けテストの化学が本当にひどくて。スタートがA3だったんですけど、化学はベーシックで受けたほうがいいって言われて。なので、1学期

はずっとベーシックで受けてて。でもそれがよかったです。やっぱりできてないし、点数が取れてないから、ベーシックにいるわけで。それだったら内容をちゃんと理解して、取れるようになってからスタンダードに上がったほうが、自分の負担も少ないので。おかげでちゃんと夏にはスタンダードに上がりました。

マンツーマン授業は1学期菊本先生（化学科）で、2学期は三井先生で。三井先生を受講するのが初めてだったので、先生に相談しに行ったら、授業終わった後に質問しにおいでって言ってもらえて、そこですごい行ってました。化学は苦手だったので同じ問題を繰り返す。やっぱり復習が大事かなっていうのと、結構理科って逃げがちなんですけど、高3の冬に小林先生（化学科）のマンツーで、もっとちゃんとやりなさいみたいな感じで怒られて、そこで、あ、頑張んなきゃってなって。もっと点数が上がったら先生も喜んでくれるかなって思って。そっから化学も頑張ろうと思ったんで、そういうきっかけとかも結構大事なかな。

分野ごとでは、理論は、典型的な問題を。私は三井先生のプリントだったんですけど、単元ごとに3回はやると決めて、同じ問題を繰り返して。有機も、まず流れとか覚えないと始まらないので、そういうところは繰り返しやって。無機は暗記で、2学期後半ぐらいからずっと正誤だったんで、間違えた箇所を復習してました。

内山：私は、最初本当に化学できなかつたんですけど、スタンダードに入って。初回の授業で難しくて、クラスを下げようかなって思って先生に相談したんですよ。その時に菊本先生に、そんなんじゃないよってすごい言ってもらって。ちょっと、え？って思ったんですけど、でも、それを言われてちょっと下げるの嫌になって、頑張ろうって思えたので。そこからすごいやる気が出てきて、頑張ったら化学は得点源になるよって感じですね。化学は、特に無機とかは本当に暗記ものが多いんで、私的には無機と有機は本当に出たらラッキーぐらいの勢いで。みんな逃げがちだから、本気でスタートする時期が早いほどいいですね。生物でも同じですね。

宇田：まず、生物の授業はどの先生もみんな楽しかったです。生物が嫌になるタイミングがあんまりなかったよね。面倒くさいとかは全然なくて。

内山：私は小テストとかが、結構ゲームっぽくなってたので、答えられないとまじで悔しくて。やっぱり当たってなくても答え考えるじゃん。来そうなのに思い出せないみたいなときとか、終わった後、すごい悔しい。

宇田：基本的には質問は山崎隆先生（生物科）のところについて、FT（深瀧先生：生物科）はマンツーマン授業を取ったんですけど、あそこでちょっと知識やんなきゃみたいな、やばいなみたいな。

内山：FTは厳しいこと言うけど、でもすごいサポートもしてくれるよね。

宇田：あと、ずっと間違えて覚えてたこととか、FTに指摘されてやっと初めて気付いたみたいなのも、結構多くて。

宇田：生物の勉強方法は、現役のときにもらったハンドブックに全部書き込んでました。

問題演習とかは、その授業で配られた問題で、付箋とかに全部書いておいて貼って、自分が後でその問題や似た問題を解いたときに忘れちゃったら、ハンドブックを見返したら全部思い出せるようにしてました。知識の正誤が多いのでハンドブックにまとめておくと、試験前とかに見たら、苦手な単元は全部載ってるみたいな感じだったんで。マーカーをつけて、始まる前にその言葉だけインプットしたりとかしてました。計算問題とかも付箋に書いて、貼っときました。後期はFTの一問一答をもらって、それを3周分しました。授業中に、間違えた問題で見直して、違いに気付けたりしました。

内山：私も基本的に同じ感じで。良かったなって思うことは、夏に知識のところだけを2周ぐらいて、単元を1つ覚えたら、山崎隆先生の所に行って。問題を出してもらって合格が出たら、次、みたいな。1週間弱で1、2個くらいのペースでやってました。先生の一問一答の知識のプリントみたいなのがあったんで、それをベースに暗記してやってました。最初は荒くても、大まかに入れて、何周もするほうが頭に入って。それをやったおかげで、後期の知識はかなり楽になったなって感じたんで。私は、授業が終わった後は忘れてた知識を覚え直したりとか、考察をやってました。考察問題は、知識をいかに引っ張って考えられるかが大事かなって思います。私は夏に結構知識を入れておいたんで、そこに重きを置いて、勉強できたかなって思います。

マンスリー基準で勉強してました

宇田：マンスリーテストは、最初は結構気にしてたんですけど、もともとメンタルがすごい弱いので。人と比べるのはやめようと思って、大体の点数は出んですけど、もうみんながマンスリーの話してるときは近づかない。それはもう自衛して。入試中もそうだったんですけど、そこでメンタル崩れるぐらいだったら、そこはちょっと自分でセーブして、最後までちゃんと勉強できたかなって。

内山：私も結構、点数は気にしてて。最初のランキングは全科目載れなかつたんですよ。それが本当に悔しくて。やっぱりランキングを見て、みんなの位置とか、自分は何が足りないのかっていうことを毎回考えて、一番足りないところから先に勉強して、マンスリー基準で勉強はしてました。最初にランキングに載ったのは、6月の化学で徐々に載ることができて。最初は知識なかつたんで、結構悩んでたんですけど、後半になると、捨て問みたいなのも選べるようになったので、

時間をかけない代わりに化学の理論とかに時間を回して点数を取れるようにしていました。

時間配分は、50分、50分でやってたんですけど、私は結構、生物からやって、知識問題を埋めて、考察が一番最後とか。生物、化学、生物みたいな。

宇田：私はメンタル的に、化学からやると難しくくて、あ、もう終わったみたいな感じで、生物に入っちゃったりとかも結構多かったんで。途中からは、50分で生物を埋めて、メンタル安定させてから、最後化学で力を振りしぼるみたいな感じでやってました。

内山：マンスリーを受けることで試験に慣れてきて、本番でもその配分や流れになりました。マンスリーテストのランキングでも、最後の方は一つ上のクラスをちょっと意識してました。絶対、抜かしたいって。ハハ。

代官山だと日常生活も全部込みで心配してくれたりとか、結構話せる先生が見つけれられるみたいな

内山：勉強のモチベーションはやっぱりランキングに載ることですね。私はランキングに常に載った人が受かるって言われてるのを信じてたので、とにかく載ることを目標に勉強して、そこでモチベーションを上げていました。

宇田：私は、2学期はずっと成績が低くて、去年不合格になった時のことを思い出して、また今年もこうなったら絶対嫌だと思って、エンジンに火が付きました。当時は推薦の面接が満点だったんで、あ、2次は絶対いけるなって自分的に思って。女子医1個だったときも結構不安だったんですけど、2次は得意だからと思っていたので、気持ちが楽になりました。

私は浪人を始めるってなった時が一番辛くて。そのときに、緒方先生（生物科）や山崎隆先生のマンツウを入れて、アドバイスをもらったり、欠席すると心配してもらったり、それは支えられてる感じがしました。

ちゃんと覚えて分かってくれるんだなっていうか。代官山の良さは先生と近いことですね。日常生活も全部込みで心配してくれたりとか、結構話せる先生が見つけれられるみたいな。

内山：あと相談も乗ってくれるので、すごいモチベーションも上がるし、もっと頑張ろうって思えます。すごい親身になってくれる先生が多いからこそ、その期待に応えたいことがモチベーションにもなりました。

前期が駄目でも諦めないで、メンタルを保って後期まで頑張る

宇田：最後後輩へのアドバイスは、早めに自分が親身になってくれそうな仲いい先生や身近に話してくれる先生を見つけると、勉強で困ったことがあったりとか、生活で困ったことがあったときとかも、相談に乗ってくれるのでそういう先生を探すのがいいと思います。

内山：私は後期で受かった人なんで、前期と後期の間が長くて、結構もうしんどいんですよ、メンタルとか。で、前期もまだ何も1個も決まってない状態だと、本当にもうやめたくなるときが来ると思うんですけど、そういうときこそ、頑張らないと、そういうとき頑張ればきっと受かるんですよ。私は結構、まあ、あんまりガツガツではないんですけど、毎日勉強には触れてたんで、そのおかげで合格できたと思うんで。前期が駄目でもちょっと諦めないで、メンタルを保って後期まで頑張ることが大事かなって思います。



卒業生が語る

合格への 軌跡2024年

WAY TO SUCCESS

日本大医学部1期2次合格
兵庫医科大2次正規格
北里大医学部2次正規格
東北医科薬科大医学部2次合格
獨協医科大前期2次合格

代官山 *MEDICAL* の生活で、人として
成長できたような気がします

日本大医学部進学 穂積 裕太君（巣鴨高卒）

卒業生が語る

合格への 軌跡2024年

WAY TO SUCCESS

関西医科大前期2次正規合格
東北医科薬科大医学部2次合格

1年間代官山 *MEDICAL* に通って、先生方が色々医学部の事を話してくれるので、モチベーションも上がったかなって。

関西医科大進学 小泉 諒真 君（海城高卒）

代官山 MEDICAL での1年間は修行でした

小泉：代官山での1年間は修行でした。朝は70分くらいかけて通学していたので、朝7時に自習室に来るとなると、起きるのも6時になって。6時に起きるとなると、早めに寝るので、規則正しい生活をしていました。もちろんずっと勉強をしていたので、修行っぽい1年だったなと思います。

穂積：代官山 MEDICAL での生活で、人として成長できたような気がします。通学し始めたときは、あんまり人の気持ちを考えなかったりとか、人のことを気にしてなかったり、思ったことをすぐに言っちゃったりするところがあって。受験を通じて、お互いに辛い思いをしていて、その友達にどういうふうに声掛けるとか、人の感情をよく考えるようになった気がします。自分も声を掛けたりして、それによって相手も自分のこと励ましてくれたので、気持ち的には楽でした。

小泉：前期はそんなに友達と喋ってなくて。夏に入るくらいで、友達が増えたので、その時に話し始めました。友達付き合いで気を付けたことは、あんまり話し過ぎないようにすることです。

穂積：僕も自分から、話し掛けるタイプじゃなかったんですけど、話しかけてくれる人がいて、徐々に増えていきました。

小泉：中でも意識してた人は、谷君（谷 信孝君：高田高卒 藤田医科大進学）。本人には言っていないですけど、マンスリーテストの順位とかを見てました。僕と同じで、谷君も理科だけM1、2で受けてて。後期から一緒にM2に上がったので、意識してました。

穂積：僕は自分のペースでやりたい主義だったんで。他の人よりは自分をライバル視していました。あんまり集中力が続かないタイプだったんで、勉強する場所をいろいろ変えたりして。できるだけ集中する時間を長くしようとか、友達と話し過ぎないことを意識していました。10分以上話し過ぎちゃったら、あ、やばいなみたいな。その危機感っていうか、時間は結構大切にしようかなっていう気持ちで過ごしてました。入塾当初より、学力はもちろん上がったんですけど、生活面でも規則正しい生活しようみたいな、自主的に行動する気持ちが上がりました。代官山 MEDICAL に入る前は、昼夜逆転とかしてて。だか



ら学校で寝ちゃったりとか、いい生活を送れてはなかったんですけど、代官山 MEDICAL に来て、生活リズムを考えるようになってかなり改善されましたし、受験を終えた今でも、ある程度規則正しい生活送れるのは、代官山 MEDICAL に通っていたからだと思います。

小泉：僕は代官山 MEDICAL に入る前は、医学部の知識や学校の名前も全然知らなくて。関西医科も知らなかったんです。1年間代官山 MEDICAL に通って、石井学院長が色々医学部の事を話してくれるので、だんだん知識が付いてって。そこでもモチベーションも上がったかなって。受験期直前は、石井学院長の話を聞いたり、大学のことを調べて行きたい気持ちを固めてモチベーションを上げていました。

穂積：僕は結構、一定でやってきたんで、気持ちの浮き沈みはあまりなくて。唯一、夏の後半は結構モチベーションが下がってたんですけど、マンスリーテストの前日に、谷君と波多野君（波多野 雄真君：新潟高卒 東北医科薬科進学）と一緒にご飯を食べに行っ、めっちゃ励まされて。そこからマンスリーテストのランキングで1桁台を取るようになって。成績も順調に安定してきたので、ターニングポイントだったかなって思います。最初は努力に対して成績があまり伸びなかったんで、「なんでだろう」という気持ちがあって。前にも進めなかったし、志望校も下げようかなってどんどん悪循環になって。そのことを谷君に言ったら、怒られたというか。いや、マジかと思ったんですけど、彼のおかげでかなり前向きになれました。

自分でも気付かなかったところだったんで、先生に言ってもらえて嬉しかった

穂積：数学では平パン（平野先生：数学科）は、教え方はもちろんいいんですけど、テキストがすごくちゃんと作られていて。入試に出る問題をちゃんと考慮して、テキスト作ってるんだなって感じて、授業中も入試の話ばかりしてて。休み時間もずっとテキストを作ってる。こういう先生がいるからこそ、代官山 MEDICAL 生は数学で点数を稼げてるんだなって思いました。薄先生（数学科）もかなり分かりやすくって。後期で扱った問題がそのまま昭和（医学部）の後期で出て、そのおかげで1次は通ることができたかなって思ってます。

英語はやっぱロッキー（岩瀬先生：英語科）です。文法の授業がすごく分かりやすくって、結構頭に入ってくるなって思ったんで。マンツーマンの時もいろいろ知識とか教えてくれて、直前期になると、調整みたいのにすごい助けられました。

化学は、菊本先生ですかね。出題してくれる問題がすごく良くて、直前期にはマンツーマンを取って、苦手な箇所をひたすら解いて、そのおかげで化学の成績は安定していました。他の先生方も、有機の構造決定の仕方とか、書き方を指示してくれたおかげで、結構

助かったのはあります。

物理で一番好きだったのは寺澤先生です。寺澤先生は現象とかを面白おかしく説明してくれるので、かなり印象に残りましたし、声もでかいんで、めちゃ集中できるというか。解き方も決まってるんで、入試の時も特に迷わなかったです。一番、面白い授業でした。

小泉：僕も数学は薄先生で、やっぱり分かりやすくて。夏にマンツーマンを取っていたんですけど、確率が全然できなかったのが、試験では結構得点源になったので、良かったなって思います。あと太郎先生（中村太先生：数学科）は授業が面白かったので、集中して聞けたかなって思います。太郎先生もマンツーマンを取ってたんで、数学はかなり本番で頑張れたと思います。

化学は、龍先生（高橋龍先生：化学科）で。マンツーマンを取っていたんですけど、僕は電離平衡が直前まで全然できなくて。マンツーマンの中でかなりやってもらって、東北医科薬科大（医学部）でほぼ同じような問題が出たので、すごく良かったかなと思います。生物はオガティ（緒方副学院長：生物科）で、授業の分かりやすさももちろんなんですけど、すごい面倒見がいい先生なんで、受験中も相談事とかをかなり聞いてもらいました。僕は岩手の1次は通ったんですけど、2次に番号がつかなくて。その時に「やばいっす」って言ったら、アドバイスをもらって。それはちょっと助かったなと。

穂積：僕は小林先生（化学科）に「なんか表情明るくなったな」って言われたことがあって、自分では分かんなかったんですけど、結構前向きな気持ちになってるのかもなみたいな。自分でも気付かなかったところだったんで、言ってもらえて嬉しかったですね。

小泉：2次対策では浩先生（高橋浩先生：小論文）にMMIが、すごくうまくいったって言われたんです。

高校の時は人と全然話さなかったんですけど、代官山MEDICALに来て人と話すようになったからこそ、コミュニケーション能力が上がったと思ってます。最初の小論文の授業では書き方が全然わからなくて。取りあえずは埋めてたんですけど、浩さんに小論文の書き方を教えてもらったんで、字数で困ることはなくなってきたかなって思います。

穂積：僕も小論文の書き方を教えてもらったおかげで、悩むことなく、スムーズに書いて。大学でも800字以上書けみたいな課題があるんですけど、今も浩さんの書き方どおりに書いていて。浩さんに教えてもらって良かったなっていうのはあります。

習慣化することが大事なのかな

小泉：僕は結構飽きっぽいで、自習時間のコマを半分に区切って、飽きたら他の科目に変えて、できるだけ集中力を長くするような工夫をしていました。登校した時に、1日のスケジュールを決めてやっていました。最初は結構無理な計画立ててるんですよ。ただ、だんだん慣れてくると、何となく自分でこれぐらいの量だったらこなせるか分かってくるんで。僕は大体7時半に登校して、微積分と極限をやって、15分ぐらいで英語の基礎的な文法集をやって。あとは長文を1つ読んで、授業の課題をやっていました。春先から始めていて、1年間通してやっていました。

穂積：僕は自習時間は、できるだけ毎日4科目必ず予習復習することを意識して。10分とか20分でもいいんで、絶対何かしらやるっていうのは、意識したほうがいいかもしんないです。英語を特に頑張ろうと思っていたんで、登校したら文法と語法を2,3ページやって、その後はイディオムをできるだけ。それが終わったら、計算を15分ぐらいやるのがルーティンでした。登校した時に、何をやるか迷わないようにす



るために、習慣化することが大事なのかなと思います。苦手な教科ほど何をやればいいのか悩むこともあったんですけど、相部和太郎（城北高卒 日本大医学部進学）が「一緒に勉強しよう」って言ってくれて。結構僕に、「慈恵や日医の過去問やろう」とか、この問題、あの問題やろうって言ってきて、それが結構記憶に残ってて。実際北里大学（医学部）で、相部と一緒にやったのが、まんま出て。それが、正規につながったってうか。相部には感謝しています。僕は、友達が存在がでかかったです。

テストの結果をすぐに知ることができるので、すぐに自分と向き合える

小泉：僕は結構ランキングを気にしていました。モチベーション上げるには良かったかなと思います。誰がどのぐらいにいるかって把握して、自分ももっと頑張んなきゃいけないなって気づきました。僕は2回だけ載れないときがあって。かなり焦ったんですけど、ランキングをしっかりと確認して、受け止めて反省しました。

穂積：僕は、マンスリーテストは、後半はかなり安定していたと思います。ランキングの結果を受けて、例えば化学は知識の問題をサボってたから取れなかったんだとか。英語では長文ばかりに時間をかけていたから、文法の問題が取れてないとか。自分の中で気付いて、勉強の比重を調整してました。マンスリーテストの結果は1週間くらいですぐに知ることができるので、すぐに自分と向き合えるから、現実を見れるってうか。他の模試だったら、かなり時間が空いて1か月とかかかるので、なんか「もういっか」みたいになっちゃうけど、マンスリーテストは早く返ってくるんで、失敗したときの落ち込みも、ぐさぐさ刺さって。

僕は個人的にウィークリーテストの方がマンスリーテストよりも重要だと思っていて。まずウィークリーテストが取れないと、マンスリーも取れないだろうみたいな。だからまずウィークリーテストを頑張ろうと思っていて。僕もランキングには載るけど、毎回、田中 優衣（前橋女子高卒 昭和大医学部進学【特待合格】）が1位で。「あいつ、やべえな」ってずっと思ってた。多分1回もウィークリーテストのランキングで勝てたことないかもしれないです。

授業内で得られるものは必ずある

小泉：後輩たちに向けて言えることは、やっぱり授業はサボらないっていうのが一番です。

代官山 MEDICAL の先生の言ってる方針に従えば絶対大丈夫です。授業の時に合わないと思ってた先生でも、「なるほどな」とか、「確かにな」って思うこともあって、でもそれは授業に出席しなかったら得られなかった感覚なんで。授業内で得られるものは必ずあるので、合格するためには出席するべきだと思ってい

ました。

穂積：僕はやっぱりウィークリーテストを頑張ることかなって思います。やっぱりウィークリーテストが基本になってるんで、そのために勉強すれば、ちゃんと基本も固まるので。基本の知識が固まることで合格する可能性は高くなるし、そのために勉強することが目標になってすごくいいと思うので。

小泉：ウィークリーテストの復習は、ちゃんとやった方がいいと思います。ウィークリーテストの復習をしっかりとすることは心掛けてたんで。

穂積：確かに。俺も結構復習してたの。マンスリーテストは、細かい知識がたまに出てくるから。それに時間かけるぐらいだったら、もうウィークリーテストの復習をもう一回したほうが全然効果的だと思うんで。

卒業生が語る

合格への 軌跡2024年

WAY TO SUCCESS

昭和大医学部 1期2次合格
東京医科大 2次正規合格
近畿大医学部 推薦合格
杏林大医学部 2次正規合格
愛知医科大 2次正規合格

受験が終わった時に最初に思ったのは、
やっぱり代官山 *MEDICAL* にして良かった
なって。

昭和大医学部進学 三橋 祐月 さん（東京女学館高卒）

代官山 MEDICAL のテキストとプリントで十二分

代官山 MEDICAL での生活は、かなり充実していたなって。クラスが少人数なので、駿〇みたいに大人数とは違って、少ないからこそ、仲間との結束力みたいなのが生まれるし、より仲良くなれましたね。駿台にいる時よりも友達とは良い関係が築けたなっていう感じです。特に仲良くしてたのが小島さん(小島 香音さん：都立目黒高卒 昭和大医学部進学)と田中さん(田中 優衣さん：前橋女子高卒 昭和大医学部進学)と英美里ちゃん(河田 英美里さん：岐阜北高卒 東北医科薬科大医学部進学)。M3、M4 クラスの女子と一緒にだったので結構情報交換とかしてました。その、廊下で長く喋るような関係とかではなくて、ウィークリーテストとかマンスリーテストの順位を競い合う友達関係を築いていたかなって。良い意味でお互いを利用していたと思います。優衣ちゃんはウィークリーってほぼ毎回1位なんですよ、毎週の復習がちゃんと出来てるんだろうなって思っていて、私はそこまでウィークリー取れるわけではなかったので、少しでも優衣ちゃんに近づこうって頑張っていました。といってもやることは決まっています、ひたすらテキストの復習とマンツーマンのプリントを回してて、余計な参考書とかはやらなかったです。色んな人が言ってますけど、代官山 MEDICAL のテキストとプリントだけでももう十二分かなって。実際、近畿大(医学部)の入試問題でも英文法の問題がテキストのやつと全く同じで、選択肢の並び方も一緒だったんですよ。あ、これだ！って(笑)。

競い合える友達が大事

現役生の時に受けた河合記述模試は、英語以外は偏差値40台。英語だけが70とかいって感じだったんです。でも、1年間代官山 MEDICAL で勉強して受けた河合記述模試は、基本的にどの科目も、揃って65以上っていう感じでした。ただ、どんなに偏差値が良くなっても「どの医学部もD～E判定ってなんやねん」ってなりました(笑)なんか近畿大(推薦入試)に合格してから返された河合模試があったんですけど、近畿の判定はD判定で参考にならなかったですね。その点、代官山 MEDICAL のマンスリーテストは一週間くらいで返してくれるからすごく良くて、返された当日には間違えた所を解き直ししてて。(結果が)返されるのがもし2、3週間後だと、復習も出来ないし、その時にどう考えてたのかも覚えてないので、早く返してくれるのは本当に助かってました。代官山 MEDICAL ってランキング貼ってくれるじゃないですか。私は勝手にライバル決めてて、表立って言ったりはしなかったんですけど。優衣ちゃんもそうだし、生物だったらやっぱり香音ちゃんとか英美里ちゃんが特に。あと飯島ちゃん(飯島 百合子さん：埼玉栄高卒 杏林大医学部進学)もすごく生物出来てて1位になっ

てたりしてたんで、勝手にライバルにしてみました(笑)

私のマンスリーとかウィークリーの復習の仕方は、自習席の横の壁に付箋でポイントを書いたやつを貼るってやり方でした。間違えたところを一問一答形式みたいにして。例えば生物とかだと、「この働きをする細胞小器官はなんですか」で、答えがミトコンドリアだった時に、間違えて「小胞体」とか選んじゃったら、付箋に問題を書いて、解答としてミトコンドリアっていうのを、バンって全部、貼ってた。1年間ずっと貼ってました(笑)剥がすとなんかまた忘れそうで。忘れるポイントって毎回一緒なんで1年間剥がさなかったですね。

代官山 MEDICAL で勉強を頑張るのであれば、まずは喋れる友達じゃなくて、競い合える友達を見つけて、その友達とマンスリーテストとかウィークリーテストで競い合えれば、モチベーションを保てていけるんじゃないかなっていうのと、あとは普段、授業とか結構忙しい時が多かったりするので、レビューデーを活用してその学期の復習をするといいんじゃないかなと。

マンスリーテストのお陰で最後まで気を緩めることなくできた

現役の時に駿〇と医専のプロ〇ディカスに通ってたんですけど、予備校全体で「近畿大医学部受ける」って言ってたんです。私にも受けてみなさいって話があって。その結果が1次合格まであと5点って感じだったんですよ。それなら浪人したら次は受かるんじゃないかって、リベンジも兼ねて今年は受験しましたね。

近畿大医学部の推薦を受けたメリットは、やっぱり1年頑張って勉強してきてどれぐらい成長できてるのかっていうのを、試験本番で試せる機会があったって



というのが大きくて。あとは、近畿大に合格したことで、一般受験にちょっと気持ち的に余裕を持って臨めたので、もう(推薦入試を)受けるメリットっていったら、そこかなど。自分の場合は運よく合格いただいたので、一般入試まで気持ちを保つことができたと思うんですけど、推薦を受けるデメリットとしては、もしそこで不合格になってたら一般入試まで結構しんどくなるのかなって。

私の場合は、合格もらってから1週間以内にマンスリーテストがあったんですよ、12月の最後のやつ。マンスリーテストがあるっていうので頑張られて、それのお陰でなんか気を緩められなくて、そこからもうずっと波に乗れた。その甲斐もあって最後のマンスリーテストの総合順位は1位でした。全く問題は無かったですね(笑)。

受験が終わって最初に思ったのは「代官山MEDICALにして良かったな」って

昭和から合格通知が来たのが、3月28日だったんですよ。ギリギリまで粘って待ってて、このまま東医に進学かなっていう時に(合格通知が)来て。本当に嬉しかったんですけど、母が特に「昭和派」だったんで凄く喜んでくれましたね。「おめでとう」って。受験が終わった時に最初に思ったのは、やっぱり代官山MEDICALにして良かったなって。医学部の合格のハードルは結構高いものだと思ってたんですけど、意外とそんなこと無かったなっていうのがあって。薄先生(数学科)が授業に「みんな結構、勘違いしてる。医学部受験ってもちろん難しいと思うんですけど、自分の中の医学部合格っていうのが、どんどんレベルの高いものだと思ってるよ」って言ってて。そう言われても受験直前期なんで、自分、本当に受かんのか

なみたいな気持ちしかないんですけど、終わってみたら薄先生の言葉、本当だったんだなって思いましたね。勿論難しい問題もありましたけど、代官山MEDICALのテキストに載ってた問題がそのまま多く出てたのもあって、気持ち的に楽になりましたし、あとは2次力っていうんですかね。浩先生(高橋浩先生:小論科)が週1でずっと2次対策してくれたのでそれがちゃんと活きたなど。元々、2次試験に苦手意識があったんですけど、浩先生のおかげでちゃんと言うべきことが一瞬で分かるようになったんです。東医の2次試験の最後に「真面目で、将来立派な医者になりそうですね」って言われるくらいには2次力は上がってました。あとは杏林大の2次試験で英語が好きっていうエピソードを話していて、最後の方に「杏林大学が提携してる大学を5校以上言えますか?」って聞かれたんですよ。それもちろんと5校以上必死に覚えてたので「あ、受かったな」って思いましたね。対策やっというて良かったなって。その後に、「代官山さんって、うちに来る人多いんですけど、後輩に代官山MEDICALのお勧めできる場所があれば教えてください」ってまさに今の軌跡に聞かれるようなこと言われて(笑)それだけ大学側からも凄い認知されてるんだなって。その質問に対する回答の用意はしてなかったんですけど、すんなりと「先生に質問しやすい環境です」って答えられましたね。

直前期は各先生のお陰でモチベーションが保てた

英語でお世話になったのは田中良平先生。すごい、びしばしと鍛えてくださって、授業でもう何回も長文をばーって読んで読解力つけてもらって、直前期は良平先生と読解のスピードを競ってましたね。いや、勝てるわけじゃないですよ(笑)でも先生に言われてたように、入試では要点を素早く読まないといけないからって。とにかくスピード勝負してましたね。

数学では直前期に平野先生のマンツーマンを取って。授業では私立の入試に出そうな問題だけをまとめたプリントを作ってもらってやってましたね。難易度的に、数学そんなに得意じゃなかったのできつかったんですけど、でもそれに必死についていってました。昭和と違って結構国立と同じような問題出してくるんですよ。だからそういった対策が実際に生きてました。

化学は原先生ですね。あまり信じてもらえないですけど、化学めっちゃめっちゃ苦手なんです。最後のマンスリーは1位取れましたけど、本当にそれまではランク外で。スタンダードのテキストなのについていけなかったんですよ。なので、原先生にはゆっくりと基礎的なことやってもらいました。

生物は、緒方先生(副学院長)にずっと1年間お世話になって。夏の間は結構難しい考察問題をめっちゃめっちゃ解きまくったので、逆に後期とか直前期とかは難



しい考察問題も「なんか、いけそうだ」って思えるようになりました。緒方先生がよく「曖昧な知識が一番駄目だ」というふうに仰ってたので、曖昧な知識を無くすようにやって。あとは、直前期には、緒方先生には週に何回か解いた過去問を見せに行って。その時に「すごい成長してます」とか、「よく頑張ってますね」みたいにコメントしてくれて。で、素敵なお医者さんになってくださいって最後、書いてあって。そのコメントを見てモチベーションを保ってました。

将来の目指す医師像

昭和大(医学部)が、ずっと教育理念として推しているのが「ちゃんと患者さんの立場に立って、真心を尽くして接することができる医師を目指しなさい」なんです。私もそういう医師になるっていうのを踏まえた上で、昭和で頑張りたいって思ってます。あと、やっぱり、地元の患者さんに貢献したいっていうのがあって。親の病院を継ぐ、じゃないですけど、昔から私が小さいときから声を掛けてくれる患者さんとか沢山いるので、そういう患者さんに貢献できるような医者になりたいなど。小さい時から見てくれる患者さんに「あの子が医者になるのね」って喜んでもらえたら嬉しいです。

卒業生が語る

合格への軌跡2024年

WAY TO SUCCESS

昭和大医学部1期 2次合格
杏林大医学部 2次正規合格
獨協医科大前期 2次合格
愛知医科大 2次正規合格
岩手医科大 2次合格

先生達が本気で受からせにきてく
れてるから、自分もそれに答えな
きゃって思って。本当に尊敬する
先生方でした。

昭和大医学部進学 青島 秀明 君（磐田南高卒）

代官山 MEDICAL で「やれって言われなくてもやるようになった」

昭和大学医学部に進学しました、青島秀明です。1次合格は愛知、岩手、杏林、東北医科薬科、獨協、帝京、東医と昭和のⅠ期、Ⅱ期ですね。2次合格は昭和、愛知、岩手、杏林と獨協です。昭和以外の4校は最初の1週間で試験があって、全部2次合格できたので、先行逃げ切りって言う石井先生の言葉は正しいんじゃないかなって思いました。

僕が代官山に行くことを決めたのが、兄の友人で平井 豪さん(獨協高卒 昭和大学医学部進学)が勧めてくれて。聖マリの兄もいるんですけど、兄の友人からも代官山 MEDICAL いいよって聞いてて。みんな「代官山 MEDICAL いいよ」って言っていたので、もうこれ、代官山 MEDICAL 行くしかなくない？浪人したしって思ったのが、きっかけかなって。自分だけだと、最初はやっぱりやろうとしないので、やれって言われなくてもやるようになったことが代官山 MEDICAL で培った能力かなって思います。

身近に目標を持つことが重要

自分が代官山 MEDICAL に入って特に気を付けたことは、絶対に時間を守ることです。朝は絶対に朝6時半に起きて。食事付の寮が6時半からご飯なので、そのまま代官山に7時15分までに来ることを徹底していました。やっぱり1回部屋に戻っちゃうと、ちょっと寝てもいいかなって誘惑があるので。夜は9時半にご飯なので、大体9時15分とかに代官山を出て食事のお世話になってました。この入試期間も、1回も体調を崩したことなく。その期間も、普段と同じ時間を守っていたので。朝早くても、6時半にご飯が出るので、そこでちゃんと試験に行けるっていう安心感はありましたね。

合格の軌跡でも鹿山君(前橋高卒 東京慈恵会医科大進学)が、習慣を守らないと絶対にモチベーションって低くなるって言ってたので。あと石井先生が仰ってた、「水は低きに流れる」っていう言葉の通り、最初はモチベーションが高いんですけど、どんどん低くなっていくっていうのは目に見えていて、自分も最後の方は結構低く流れちゃって。でも、低きに流れても、時間は守ろうと思ってやりました。

特に、僕がインスパイアされたのが、錦織君(錦織祐君:代々木高卒 岩手医科大医学部進学)ですね。錦織君は朝5時に来て、夜9時半までいて。寮のご飯も食べていないくらい根詰めてやってたので。しかも、自分はクラスがA2からM4なんですけど、錦織君もA2からM4で、その後M2に行っちゃったんですよ。そこで、あ、やばい、離されたってなって、危機感を覚えて。もっと勉強のギアを上げようと思いました。やっぱり身近に目標を持つことが、重要なんじゃないかと思えます。

手は絶対に動かしたほうがいい

ウイークリーテストは、もうめちゃくちゃ大変でしたね。自分は英語が弱いんで。英語を1年間で人並みにすることをまず目標にして。暗記が特に苦手。やばい、できないって言って、単語を5回ぐらい書いて満点を取ろうとしました。どの教科にでも言えることなんですけど、やっぱり手は絶対に動かした方がいいです。今、大学で勉強してもそうなんですけど、やっぱり手で書かないと、絶対に覚えないうす。それに手を動かしていると、眠くても絶対起きるんですよ。今までは先生に字が下手って言われて、あんまり字を書くのが好きじゃなかったんですけど、柳瀬先生(物理科)に言われて綺麗になりました。柳瀬先生のマンツーマン授業を1学期の時から取り始めたんですけど。やっぱりノートが汚いとか、勉強量が足りないとか、生活習慣が悪いとか、沢山指導してもらって。全部気にかけてくれて。柳瀬先生には1年間、かなりお世話になりましたね。柳瀬先生が、レビュー課題をやったかって気にかけてくれて、やってないとかかなり怒られました。そんな感じで、受動的ではあるんですけど、言われたことは出来るようになりました。

マンスリーテストの勉強とかでも手を動かした方がいいことに気付いて、2号館の自習室をちょっと見て回ったんですよ。そしたら、森君(森陽太君:前橋高卒 東京医科大進学【特待合格】)とか長澤君(長澤直太朗君:巣鴨高卒 杏林大医学部進学)が、やっぱり手を動かしてて。森君と違って、柳瀬先生に解いた問題を持ってくんですよ。その問題も鉛筆でたくさん書いてあって。やっぱり書かないとできるようにならないなって思ったのが、最初ですね。あとは、自分はマンスリーテストの点数が上下しやすかったことがきつかったですね。例えば、浅田君(浅田大斗君:長岡高卒 杏林大医学部進学)、待井君(待井翔太郎君:福島成蹊高卒 北里大医学部進学)、波多野君(波多野雄真君:新潟高卒 東北医科薬科大医学部進学)とかが同じ寮だったので、帰ってるときに点数の話を



して、バチバチに競ってたっていう感じですね。取れなかったら恥ずかしいとか、取れたら格好良いみたいな、単純な考えではありますけど、そういうのがありましたね。食堂でも結構コミュニケーション取って、情報を交換できたのは良かったかな。自分の寮でもコミュニケーションできない人とかは、自分が知りたい情報が入ってこないの、そこでやっぱり情報競争に差がついちゃうなと思います。友達は作らない方がいいと思う人もいるけど、ちょっと話してみる、ちょっとなんかしてみるだけで息抜きになるので、そういうこともやっぱり重要なのかなって思います。

休み時間は高橋 直矢（城北高卒 杏林大医学部進学）とかと結構喋ってたんですけど、みんなチャイムが鳴ったから勉強しようって。やっぱり良い友達持ってたっていうことが大きいですね。入試期間も、薄先生（数学科）からももらった一問一答を解いて、点数を競い合えたのもでかいポイントかなって感じですね。

全部の教科に言えることは、型が重要

医学部の受験は試験時間が足りないの、全科目をすぐに答えないと間に合わなくて。

英語だと、最初の時期に赤本をやっても全然解ききれないこともあって、もっと早く読むために速読の練習をしたり、他にも文章を早く作成するために、θの写経をすることによって文のテンプレートを覚えて。単語を暗記するんじゃなくて、文章を暗記するってことが重要なんじゃないかと思いました。

数学は平パン（平野先生：数学科）の作った素晴らしいテキストがあって。本当に、そのまんま入試に出るので。東北医科薬科や杏林の問題とかもまんま出ましたし。そこでみんなより、ちゃんと点数が取れたので。平パンとかも何回も解けて言うので、それが重要かなって。

理科の勉強方法はめちゃくちゃ変わりましたね。化学は原先生（化学科）に教わってたんですけど、この解法があればこの問題解けるよねって、全体的に広い



解法を教えてもらって解けるようになりました。知識が足りなかったの、授業を受けた後の復習として、ハンドブックに書き込むようなことをやって。ハンドブックを見れば、自分が分かんなかった箇所が一発で分かるようになっていました。あとは暗記の方法を書いて、覚えやすくしました。

小論文は浩先生（高橋先生：小論文科）の型があればすごい楽で。浩先生はとにかく使える型を教えてください。1200字でも楽にかけようようになりました。浩先生の型がなかったら、多分2次受かってないんじゃないかな。

全部の教科に言えることは、型が重要だということです。先生たちは、型にはめれば全部の問題を解けるように教えてくれるので。その型だったら絶対できるっていうのを1個持ってほしいです。持っていればすごい安心じゃないですか。

僕、酒井先生（英語科）に、守破離っていう言葉を習って。型をしっかりと固めてから破ることを習って。基礎を全部固めてから、ちゃんと応用問題やっていくっていうことが、やっぱり重要なんじゃないかなって思いましたね。応用問題ばかりやっても、去年の僕になるんで、やめたほうがいいです。

この先生が本気で受からせにきてくれるから、自分もそれに答えなきゃって思っ

代官山 MEDICAL の授業を受けてみて、問題も解けるようになるんですけど、補足部分を先生たちがたくさん教えてくれるので、補足問題まで解けるようになることが重要かなって思います。この問題は昭和（医学部）で出やすいとか。薄先生が特にそうなんですけど、東邦（医学部）で出やすいとか教えてください。実際に昭和でも近い問題が出ました。これ解けないと昭和受かんないって、生徒のやる気を引き出させるようなことしてくれるので。慈恵の問題とか出てきたら難しそうって思うんですけど、意外と難しくなかったり。難しい問題で怖がらせつつも、生徒がこのラインまでできるようにするっていう目標が先生たちにはあると思うので、やっぱり目的が分かりやすいって感じですね。

柳瀬先生、啓寿先生（佐藤先生：数学科）、原先生とか先生方にも支えられて。いつの時間に行っても先生方がいるので、聞きたいときに質問に行ける。先生には迷惑掛けたんですけど、でも先生も「お、また来たね」って感じで、すぐに対応してくれてたんで、そこが良かったかなと思います。いつも嬉しそうにしてくれるんですよ。

原先生とかは、「青島君は絶対どっかに受かるから、絶対大丈夫」って言われて。最初の方は、めちゃめちゃ怒られて。この解き方でできないとやっぱ受かんないよって、結構強い言葉かけられて。「ちゃんとやんなきゃ」みたいな感じで、やっぱ気付けたので。

啓寿先生はとにかく優しく、青島君ならできるよ

とか、すごく優しい言葉掛けてくれて。優しさの中に厳しさもありました。柳瀬先生は、真面目に、親身になってくれてるのが分かるので。結構いろいろ言われるんですけど、柳瀬先生が言ってるからやばいなって思うんですよ。ちゃんとやってくると、優しいんで。「ずっと優しくしてくれるままでいよう」というモチベーションもありました。先生達が本気で受からせてきてくれるから、自分もそれに答えなきゃって思って。本当に尊敬する先生方でした。

ランキングで誰にでも可視化できる

マンスリーテストを基にクラス編成が行われて、テスト前は大学受験のための勉強というよりは、マンスリーテストに集中して。クラスを落とさないようにすることが目的になってたのが、良かったんじゃないですかね。そこが目的になることで勉強を腐らずにできるっていう。例えば入試の勉強で、全部の赤本を解き終わって、満点が取れると思っていても、全然落ちちゃったりするんで。クラス分けという恐怖にどれだけ勝てるかが重要ですね。自分はスタートが2号館のA2だったのが、すごい良くて。本館と2号館のぎりぎりの境じゃないですか。A2だから、上も下もいると思って、焦って。あとは、本館に落ちたくないっていう一心で勉強してました。自分より下のクラスの子が、ランキングで自分より高いと、本当にやばいみたいな。自分はA2で錦織君、水野さん（水野里々花さん：大妻高卒 昭和大医学部進学）、松永さん（松永夢さん：豊島岡女子学園卒 北里大医学部進学）もいて、競い合える仲間がいたっていうのが一番大きいんじゃないかって思います。

1学期の最初は2階だったんですけど、その時は現役生の中村友哉（東京農業大学第一高卒 東京医科大進学）って子が、朝、代官山に来てから学校に行ってて。その時に入れ違いになるんで、「うわ、やべえ、頭いい現役生いる」って思って、結構怖かったですね。マンスリーテストも、結構同じ順位にいたんですよ。自分は1浪してるんで、現役生に負けたくないじゃないですか。そこでまた頑張れました。マンスリーテストの点数を見て、細かく情報が出てるんで。苦手な単元の情報とかも隠せなくて。みんなと科目ごとに勝った負けたって競うことができたり、ランキングで誰にでも可視化できるっていうのが重要なんじゃないかと思っています。

2号館の2階にいたときは、トイレに行く時に自習室をちらって見て、みんながどういう受け方してるのかなって感じで見てましたね。人にやっぱ興味持って、他人の失敗談とかから学ばないと、自分もまた二の舞になっちゃうので。「合格の軌跡」が代官山MEDICALには貼ってあって、それを読んでもやってないことが全部露呈するんですよ。自分は昭和大医学部に行きたかったんで、最初は昭和に行った人の勉強法を真似ていました。気づくことができる部分がた

くさんあるので。多分僕、貼ってある人の軌跡を全部読んだんじゃないんですかね。

自分に対して謙虚であるべき、慢心したら負け 後輩にアドバイスしたいことは、慢心せずにライバルをしっかり決めて、抜いた後でもM1の人に勝って、慈恵行くとか新しく目標を決めればいいと思います。鹿山君みたいに化け物みたいな人もいますけど、こういう人もいるんで。代官山MEDICALは他者評価しやすい場所なので、他者評価して。それから先生にボコスカ言ってもらおう（笑）まあ、ボコボコに言ってもらって、心病むようじゃもう1年が厳しいです。1年で本当に受かりたいんだったら、先生にボコスカ言われて、周りと比べて、一喜一憂してもいいけど、沈み過ぎずにちゃんと上がってくる。一次関数的な増加が一番嬉しいけど、伸びは指数関数的だから。そこで気持ちの浮き沈みがないように。停滞期が来るんで、そこでやっぱ腐らずにできると良いかなって思います。本当に別の医専予備校だったら、ここみたいに全部バックアップしてくれるわけじゃないじゃないですか。色々ところで全部バックアップしてもらったからこそ、昭和大医学部に受かったと思ってますし。最後にやっぱ言いたいのが、本当に自分に対して謙虚であるべきです。慢心したら負けっす。



卒業生が語る

合格への 軌跡2024年

WAY TO SUCCESS

杏林大医学部 2次合格
愛知医科大 2次合格
岩手医科大医学部 2次正規合格

ルーティン化で演習量を確保
して、計算力を上げた。

杏林大医学部進学 浅田 大斗 君 (長岡高卒)

卒業生が語る

合格への軌跡2024年

WAY TO SUCCESS

杏林大医学部 2次正規合格
北里大医学部 2次正規合格
東北医科薬科大医学部 2次正規合格
愛知医科大 2次正規合格
獨協医科大前期 2次合格

日医の1次受かるぐらい、自分の中の
マックスで頑張ったからこそ、悔いが残
らない入試が出来た

杏林大医学部進学 長澤 直太郎 君 (巣鴨高卒)

卒業生が語る

合格への 軌跡2024年

WAY TO SUCCESS

東京医科大 2次特待合格
獨協医科大前期 2次特待合格
東邦大医学部 2次合格
北里大医学部 2次合格

絶対代官山 *MEDICAL* がお勧めですね。

すごい演習量も取れるし、ライブ授業の
方が集中切れないし、授業中当てられる
ので

東京医科大進学 森 陽太 君（県立前橋高卒）

やらなきゃいけない事が常にあるっていうのが代官山 MEDICAL の凄く良いところ

浅田：この1年を総括してみると、本当に大変の一言に尽きるっていうか。普通に受験までにやらなきゃいけないこととか一杯あるのに全然これ終わってねえじゃんみたいな感じで焦りながら、あ、やばいって思いながら勉強したりとか。やっつけばやっつけていくほど、どんどん不安になって。自分ここできてねえなって、あらためてどんどん見えてきちゃう。芋づる式にね。

森：増えてくるんだよね。

長澤：勉強していくほど、結構課題とか見えてくるんで、暇になること、絶対無かったから。やらなきゃいけない事が常にあるっていう状態がずっとあって、それは代官山 MEDICAL の凄く良いところだなって。ずっと基本一人でやってたから、この1年は本当に人生で一番地獄でしたね。でも一人でやるのは結構デメリットのほうが大きいかなと今は思っていて。確かに成績はすごい上がるんですけど、でも蓋を開けてみたらやっぱり友達作ってやってた人の方が良いところ行ったりするんですよ。吉田（吉田 浩輝君：青山学院高卒 東京慈恵会医科大進学）とか、青島（青島 秀明君：磐田南高卒 昭和大医学部進学）とか、小島（小島 香音さん：都立目黒高卒 昭和大医学部進学）とか。友達と一緒にやってた方が気付かなかったことに気付くのかな、と今は思います。友達って俺、森だけだったんで。森がいなかったら確実にもう杏林も受かってなかったんですよ、絶対。もう北里行けたかなぐらいです、多分。質問し合ってそこで学力上げてたんで。

浅田：たまに自習席を立とうとすると、2人（長澤・森）が問題について話し合っていて。しかもその内容も、ちらっと聞くとめっちゃくちゃ高度なんですよ。

長澤：あれが一番学力上がったかな。相手に教える時って自分が成長できるよね。俺が化学で、森が物理、得意だったんで。多分、物理は森のおかげでめっちゃ出来るようになった。

森：自分は多分メンタル弱いほうだったんで。ここ

の問題出来ないんだよねみたいな感じで（聞いてた）。特に過去問とか。数学の過去問を、青木（青木 智紀君：名古屋高卒 杏林大医学部進学）と小林（小林 祐也君：桐朋高卒 東邦大医学部進学）と一緒に解いてて。それであの2人が数学めっちゃ得意なんですよ。2人は満点なのに、自分だけ60何点とか叩き出しちゃって。でも、数学それで教えてもらって。

長澤：代官山 MEDICAL は先生に質問しやすい環境が凄くと思うけど、友達同士でも、ほんのちょっとでも分かんないところは、どんどん「教えて教えて教えて」って言えるから。

浅田：自分は現役生の時は成績が悪過ぎて、もう本当にひたすら一人でやってて。で、代官山 MEDICAL 来たんで。それで友達と切磋琢磨し合える感じがすごくいいなって思っ

森：僕は現役の時、東〇。衛星予備校の。やっぱ代官山 MEDICAL に来て比べてみると、絶対代官山 MEDICAL がお勧めですね。何より演習量が確保できるし、ライブ授業の方が集中切れなくていいかって。結構、授業中当てられますし。

長澤：俺が一番前座ってたから、いつも当てられてた。平パン（平野先生：数学科）に宿題発表させられたりとか。あれは絶対眠くはならない（笑）。1クラスの人数が少ないからさ。だから集中力切らさないっていう意味では、やっぱライブ授業が一番いいなって。

森：少人数なんで、その場で質問ができるっていうのがメリットだったよね。

浅田：それは確かにめっちゃいい。夜間演習とか、問題解いてる途中とかにも、分かんかった所が質問できたりとか。あと、ちゃんと見られてるって緊張感が良い。周りの方が解くのが早かったりすると焦るし、そういう相手を意識してやってたおかげで、入試期間もめっちゃ落ち込むとか緊張するとかなかった。

長澤：試験期間中でやってたのが「俺はもう完璧だから」とっていうメンタルで行くと、絶対に緊張しないんですよ。だから、テスト会場に行くまでに相当勉強してて、テスト会場ではあえて勉強しないで、俺は完



壁だって自己催眠をかけるっていう。入試前日とかは自分の使い古したノートとかを見て、絶対に分かるものしか見ないようにするんですよ。無駄に新しいものを発見しちゃったら不安になるじゃないですか。やったことあって絶対分かる、例えば化学知識の表とかを見て、「ああ、やっぱ俺完璧だわ、余裕だな、早くテスト始まんないかな」みたいなマインドでやると本当に緊張しないです。これ皆に真似してほしいです。

2号館では皆時間計ってた。常に時間を意識しているのが積み重なってルーティン化してる

長澤：とにかくこの1年は、朝絶対早く来て予習してました。

浅田：自分もこの1年はずっといつも通り同じ時間で来て予習復習をしてました。夏期講習だと1日7コマの日とかもありました。個人ごとに時間割が配られて、どこが空きコマ分かるじゃないですか。だから、その空きコマの場所だけ把握して、じゃあここでこの復習できるみたいなのを時間割に書き込んで書いて、プラスやるべき課題を全部書き出して上から消費していくようにしました。

長澤：最初は「木曜の何限は数学」とかでやってたけど、それだと予定狂っちゃうんですね、どうやっても。だから、俺も空いた時間に優先順位順でやるようになりました。あと、石井学院長が言ってたけど、自習をコマの時間で区切るの絶対いいと思います。人間の集中力的に何時間も同じ教科はできないんで、80分の空きゴマを40分、40分で切って、絶対に教科を変えるって決めて。

浅田：時間はみんなめっちゃ計ってた。

森：計んなかったことはない。2号館では皆時間計ってた。常に時間を意識してたね。この問題が何分で解けるのかとか、そういうのにも意識向けられるから。それが積み重なってルーティン化していく感じ。

浅田：浪人生が現役生と差をつけられるの、多分そこじゃない？ルーティンで演習量確保して、計算力上

げていけるし。通期でそういうふうにつけた習慣を、ちゃんと夏も続けるから成績が上がるって感じ。

長澤：石井先生が「受験は夏でもう10割決まってる、受験は夏終わりまで」って仰ってたんですよ。だから、夏、9月に受験が終わる、もう夏で決めきる、ってメンタルでやってました。それがすごい大事だなんて思いますね。夏終わりまで頑張ると、後はもうめっちゃ楽で。夏まですごい頑張れた人は、あとはもう普通にやれるんですよ、絶対。そうすると、受験前とかも絶対メンタル崩れない。だから俺は4月が一番きつくて、どんどん楽になっていった。

自分の中のマックスで頑張れば結果はついてくる

浅田：自分は新潟出身で、めっちゃ田舎なんで。しかも高校の時は予備校に行かせてもらえなかったっていうのもあって。代官山MEDICALに来て、先生の授業を受けた瞬間に「やばっ、めっちゃ凄い！逆に、この授業受けて受からない人いるの？」ってすごい衝撃だったんですよ。まじでこの環境って本当に凄くなって。だから、これから頑張る後輩の人たちには、自分がいる環境の素晴らしさに気づいてもらいたくて、それを絶対無駄にして欲しくないと思います。先生にも沢山質問してフル活用できるし。あと、寮も代官山MEDICALから近くて良かったですね。

森：代官山MEDICALって、やっぱり良い環境だと思うんです。代官山MEDICALの環境の良さは、先生と生徒の距離が近いっていうのと、あとは、朝早くから校舎が開いているってとことか、マンスリーテストとかウィークリーテストで、自分の客観的な立ち位置を意識出来るところだと思います。その良い環境をフル活用して、自分ができることを精いっぱいやって欲しいです。

長澤：俺からは、とにかく頑張れってことですね。俺ずっとクラスM1で成績も結構上だったじゃないですか。だから皆からも多分受かるだろうと思われてたかもしれないし、まあ実際日医も1次受かったじゃ



ないですか。でも結局回ってこなくて、杏林だったじゃないですか。でも、じゃあ杏林に受かるぐらいの勉強をしとけばよかったかっていうと、そうじゃなくて。日医の1次受かるぐらい、自分の中のマックスで頑張ったからこそ、今杏林もすごい楽しいし、やりきったから後悔がないっていうか、杏林に行く運命だったんだなって受け入れられるから。俺は1日も授業を休まなかったし、そんぐらいやっても結局行く所は1校で、縁がある所に行くだけなんで。悔いが残らないように死ぬほど頑張れば、あとはもう神のみぞ知るといいうか、やることやってれば結果はついてくるっていう感じなんで。だからまあ、ただ頑張れってことですね。石井学院長にも言われたんですけど、どこ行くかよりも行った後の方が大事だと思う。だから、慶應大医学部を目指すことに越したことはないんですけど、いいところ行けるか、報われるかって言われたら、それはもう運とかもあるんで。でも、終わったあと結果を受け止められるかどうかは、どれぐらい頑張って、結果を受け止める余力がちゃんと出来てるかにかかってるんで。俺は相当頑張ったから悔いが残らなくて、杏林でも全力で楽しめて、頑張って良かったな、無駄じゃなかったなと思えるんですよ。だから今M1の人であっても、全力で頑張るって欲しいですね。



卒業生が語る

合格への 軌跡2024年

WAY TO SUCCESS

聖マリアンナ医科大前期2次合格

ちゃんと叱ってくれる人がいて、厳しく
してくれる環境が嬉しかった

聖マリアンナ医科大 進学 藤森 雅史 君 (佐久長聖高 卒)

卒業生が語る

合格への 軌跡2024年

WAY TO SUCCESS

杏林大医学部 2次正規合格
東北医科薬科大医学部 2次合格
獨協医科大前期 2次合格
岩手医科大医学部 2次正規合格

数学 High レベルのテキストは、多分誰よりも極めています。そしたら入試の問題全部簡単で。受かったところは数学満点だと思います

杏林大医学部 進学 高橋 直矢 君 (城北高 卒)

卒業生が語る

合格への 軌跡2024年

WAY TO SUCCESS

北里大医学部 2次合格

高校受験失敗してた僕が、代官山
MEDICAL に来て初めて勝つって経験が
出来ました

北里大医学部 進学 待井 翔太郎 君 (福島成蹊高 卒)

ギチギチに縛ってくれる環境が良かった

藤森：佐久長聖高校出身の、藤森 雅史です。進学先は、聖マリアンナ医科大学です。

高橋：高橋 直矢です。城北高校に通ってました。で、進学先は杏林大医学部です。

待井：福島成蹊高校出身の待井 翔太郎です。進学先は、北里大医学部です。

待井：1年前はメディカル○ボの仙台のところに通ってたんですけど、実際はオンライン授業ばかりで通学はしてなかったですね。マンツーマンだけだから当然クラスとかも無いし、代官山 *MEDICAL* だと、細かく分けられてて。それに合格実績も凄かったし。こう、ギチギチに管理してくれるんで(笑) 縛ってくれるのはありがたかった。

藤森：俺も結構縛ってくれて良かったって思ってます。ここ(代官山 *MEDICAL*)に来る前も医専行ってたんですけど、何だろうね。石井学院長始め、梅田先生だったりとか各科目の先生が、その生徒一人ひとりを見て、この人はこうすれば伸びるって指導してくれましたからね。ノート見て、暗記だけすれば伸びる人だったりとか、アウトプットに特化すれば伸びるとかあると思うんですけど。俺はアウトプットにすれば伸びる型だったらしいんですよ。自分では気づいてなかったんですけど、ちゃんと先生たちが分析してくれて。あと、合格するならやっぱマンスリーの順位っすよ。4月の時から俺は1位取ることしか考えてなかったっす。

高橋/待井：おお、すげえ。

高橋：でも実際1位1回取ってたもんな。取ってるのはすごいっすよ。

藤森：多浪は正直受かりづらいんで、厳しいこと言えば30～40番じゃ受からないっす。本当、1桁じゃないと2次試験の壁も越えられない。名前が(ランキングに)載ればいって最初思ってたんですけど、それ以上の目標にしないと合格出来ないんだなって。多浪生は本当に1桁を意識して番強しないと厳しいっすね。

その、受験ってやっぱり、本当に点数取ることが大事じゃないですか。だから、点数取するための勉強で、お前はこうした方がいいっていうのを、伸ばし方みたいなのを教えてもらって。で、あとは、先生にちゃんと従っていけば、何とかなる。

待井：マンスリーテストは、僕は直矢(高橋 直矢君)には負けたくなかったですね。直矢めっちゃ頭良かったんで。最初M5でなんか直矢、頭良いんすよ。いつか勝ちたいなって思ってた、でも最後だけかな、勝てたのは。それ以外多分全部負けてるな。もちろん問題の相性とかもあるんでしょうけど、ずっと目標にしていました。

高橋：僕は正直取り敢えず全科目でランキングに載りたいなって思ってた。そのモチベーションでやってたら、比較的楽しく受験までこれで、合格できたって感じで。マンスリーは全部で9回あったけど、試験慣れにもなったし、当日の試験が楽に感じられましたよ。それに試験会場には代官山生が多くいたんで精神的にも良かったです。

少人数クラスでライバルもいて、一人一人弱点の分析もしてくれるから合格する

高橋：僕ら含めてMの人たちはいつでも全力でしたよ。僕もセーブとかしてないですし、いつも全力でした。朝5時には起きて代官山 *MEDICAL* 行って、1人で頑張らないで、皆と切磋琢磨して。

待井：僕も全力でやってた。朝、めっちゃ早かったもん。朝皆で集まって分からないところは教え合ってた。

藤森：朝とか、空きコマ使って、お互い得意と苦手が噛み合ってたから教え合ってた。村瀬(村瀬 匠海君：海陽高卒 福岡大医学部進学)も入れて4人でいつもやってた。高め合ってたかないと、1人じゃ頑張れないっす。浪人生って「6月と9月」が本当に体力的にも精神的にもくるんですよ。6月は特に遅れた五月病みたいなのが来て本当にしんどい。第3回のマンスリー終わって、クラスどうなるかみんなソワソワする頃っ



てキツイんですよ。ある程度1学期のカリキュラムに慣れてきて、その慣れが出るころに暑くもなってくるし、しんどくなるんですよ。そういう時にリフレッシュを兼ねて、友達と話したり、教え合ったりするのが良かったっていうか。

待井：マンスリーの結果でクラスが落ちることもあるじゃないですか、夏期講習のクラス分けで。それも結構怖くなってソワソワしちゃうんですよ。俺、落ちんのかなって、マンスリー1回やらかしてるのもあって、不安で石井先生に「俺落ちますか」って聞いてちゃったくらいだし。

藤森：マンスリーを全力でやるのも大事だったんですけど、俺が合格まで漕ぎつけられたのって、ちゃんと叱ってくれる人がいたことっすね。20歳過ぎてる人になってなかなか叱らなくないですか？普通なら自立しろ、みたいな。それでもやっぱり俺みたいな駄目人間でも、石井学院長やおがT(緒方副学院長)はちゃんと叱ってくれました、今だと感謝してます。叱ってくれた方がやっぱりやる気って出るので、情けない話っすけど(笑)こういう環境だからこそ、厳しくしてもらえることがありがたくて。ちゃんと反抗しないで従ってれば1年で頑張れるはずなんですよ。

藤森：代官山MEDICALって少人数のクラス分けで、且つクラス数多いじゃないですか。その狭いコミュニティだからこそ、同じクラスの人たちって要はライバルじゃないですか。ライバルの偏差値見て、勝っていきみたいな。少人数クラスだからこそ、先生も一人一人向き合ってくれて、この人のこういうところが弱いて分析してくれて。他の予備校だったら、一人一人の分析はしてくれなかった、というか出来なかったと思う。漠然と偏差値で見られて伸び悩んでいたって感じだったから。その点、ライバルもいて、分析もしてくれる先生もいるのが代官山MEDICALの良さじゃないですか。

代官山MEDICALの数学テキストを極めたら、受かった大学の数学は満点だった

待井：僕は、現役のときから、理科は何とか出来たんですけど。代官山MEDICAL入学時は数学が偏差値50くらいだったのが、7月で数学19点で、やべえってなって。特に確率が全くダメで。だから薄先生のマンツーマンで夏期で取ったんですよ。で、そのマンツーマン授業は全力で確率頑張ろうって見てもらったんですよ。薄先生からももらった確率のプリントが凄くて、そしたらめっちゃできるようになって。本当に変わったんですよ、夏期講習のマンツーマンだけで。で、11月で、なんかランキングに久々に載れて。数学11位まで上がったんですよ。本番の北里(医学部)でも、確率漸化式が出たんですけど。数学で点取れたんですよ。だから、薄先生に本当に感謝で。あと、三ツ橋先生(英語科)も直前に結構マンツーマン取らせてもらって、色々な大学の過去問の解法とか教えてもらってましたね。英語が苦手な割に、ちゃんと戦えたので、凄く良かったなって思います。復習も、代官山MEDICALのテキストを繰り返しやってるだけでも十分力になるし。

高橋：代官山MEDICALは本当にテキストが凄い。

待井：うんうんうん。あれはヤバいわ。

高橋：僕は前期の数学Highクラスのテキストを取り敢えず極めたんですよ。多分誰よりも極めてます。そしたら入試の問題全部簡単で。受かったところは数学満点だと思います。どんなに低く見ても8割は取れてる。あと、英語も得意にしようって目的もあったんですけど、目上の人と話す目的で高橋阿里先生のマンツーマン取ったんですよ。面接官って大分年上の方じゃないですか。その人たちとちゃんと話せるように、マンツーマンでコミュニケーションをしっかり取ろうと思って取りました。阿里先生は本当に和むんですよ。雰囲気めっちゃくちゃ良くて。でも授業の課題はしっかり沢山出してくれる、本当に良い先生でした。

藤森：僕みたいに多浪生だと合格できる大学も限られてきて、聖マ(聖マリアンナ医科大)とかは「最後



の皆」だったんですよ。何としてでも合格したかったから、まっちゃん(待井 翔太郎君)が言ってた三ツ橋先生とか良平先生(田中良平先生:英語科)、小林先生(化学科)のマンツーマン取って、めっちゃ記述対策してくれて。その対策でやったことが入試にちゃんと活かしたんですよ。「このワードを入れておけば点になる」っていうのが全部入試に出て、聖マは確実に通ったなって。英語の試験終わった瞬間、三ツ橋先生と良平先生の顔が浮かんできて(笑)

待井:聖マの発表来た時、藤森からLINE 凄い来てて(笑)「俺、来たわ!」って。

藤森:人生で、この浪人人生で、「一番」がここで来たと思って。確かに補欠合格ではあったけど、受かったらだろうなって。番号も上位だったし。

自己流で行く人は絶対伸びない。先生の教えてくれたやり方でちゃんと成績伸びて合格する

待井:最初 M5 だった時、直矢と一番前で授業を毎回受けてて。一番前だと色んな先生が話しかけてくれるんですよ。先生にもそれぞれ個性があって、数学なら1集から6集まで全員違う先生じゃないですか。そうすると色んな視点からの解法が見えたりするんですよ。数学だけでも結構な先生がいますからね。なので、先生方へのリスペクトはちゃんと持った方が良いです。自己流で行く人は絶対伸びないし。先生の教えてくれたやり方でちゃんと成績伸びて合格したから、ちゃんと聞くべきだと思う。

僕、高校受験失敗してるんですよ。滑り止めの高校行って、勝負所で勝つって経験がなくて。「軌跡」読んでても先輩たちに勝てる気なくて。なんか皆頭良い高校じゃないですか。高橋は城北だし村瀬は海陽学園で。何かしらで勝ってる経験があるんですよ。代官山 MEDICAL に来る前は、M クラスに入れるなんて思ってなかったし、まず1年後に合格はおろか1次すら通るとも想像できなくて。そんな考えでも、ちゃんと必死にやっていたら受かるんですよ。1次が中々

最初通らなくて、初めて獨協医科大の1次通った時、嬉しくて泣いちゃったんですよ。代官山 MEDICAL に来て初めて勝つって経験が出来ましたね。その後、北里の2次発表が出て、補欠14番が出て。きっと初日に繰上げ連絡来るだろうなって思ったから、連絡ミスらないように実家戻って。そしたらちゃんと繰上げ電話掛かってきて、お母さんと抱き合って泣いてました。自分が高校失敗してて、浪人もして医学部を目指すって親も気が気じゃなかったはずですよ。本当に嬉しかったです。代官山 MEDICAL で友達出来てなかったら、途中で心折れてたと思う、いてくれたから最後まで戦えたなって。

藤森:やっぱり最後は代官山の友達なんだよ。その、高校の友達にも言えないじゃん? どんなんに仲良くても。「今、番号来ないんだけど」とか言えない。そもそも医学部のことも、繰り上げ番号って文化も知らないと思うし。代官山生同士で辛い思いを経験してきたからこそ、最後はお互い励まし合ってたなって。

高橋:代官山、めっちゃいいっす。

待井:いや、いや、受かる、本当に。

藤森:ちゃんと授業受けて、流れに乗ればマジで受かります。



卒業生が語る

合格への 軌跡2024年

WAY TO SUCCESS

東京女子医科大 2次正規合格

やっぱり入試の期間中にも毎日来るっていうのが凄く大切だと思って。家に1人でいても病むだけっていうか、勉強もできないし、ただ何もやりたくなくてどんどん病んでくだけなんで。嫌でもここに来て、机に向かって勉強してた

東京女子医科大学進学 峰尾 萌衣 さん (桐朋女子高卒)

卒業生が語る

合格への軌跡2024年

WAY TO SUCCESS

昭和大医学部1期2次特待合格
岩手医科大医学部2次正規合格
東北医科薬科大医学部2次合格

私は凄くランキングを気にしてたので、ちょっとミスがあると、割と泣いたりしてたんで。でも、それがあったからこそ、悔しくて復習しようって思えた

昭和大学特待進学 田中 優衣 さん（前橋女子高卒）

もうやるしかないと思っていました

峰尾：代官山 *MEDICAL* での1年間は今、思えば一番辛い1年だったと思います。最初のクラス分けはA3で。ギリギリ2号館行って。夏前にA4に落ちて本館。最後はA2に上がりました。1度本館に落ちたときは、めっちゃ辛かったです。朝は遅くても7時すぎぐらいには来ていて。自分的には精一杯やっていたつもりが、なかなか結果に表れず、クラスが落ちてしまったことは、辛かったですね。落ちたときは病む一方だったんですけど、授業教えてくれる先生たちがすごい「大丈夫だよ」って言ってきて。特に柳瀬先生（物理科）が個人的に話し掛けてくれて。「次のクラス分けで、絶対2号館に戻るから勉強し続けな」って言ってくれたのが印象的で。それで夏は1人で誰とも喋らず過ごして、2号館に戻れました。他にも、受験期間中もすごく辛くて、前半はどこにも1次が通らなくて。周りの友達はどうも受かっていくのに置いていかれた感じが凄かったですけど、代官山 *MEDICAL* に来ると先生たちが「まだ終わってないんだから大丈夫」とか「絶対受かるから」みたいな前向きな言葉をくださって。石井先生（学院長）に会うと、「大丈夫か」って声を掛けてくださって。すごく救われました。やっぱり入試の期間中にも毎日来るっていうのが凄く大切だと思って。家に1人でいても病むだけっていうか、勉強もできないし、ただ何もやりたくなくてどんどん病んでいただけなんで。嫌でもここに来て、机に向かって勉強して。誰かと話したいって思ったら、先生の所行って相談聞いてもらうのが一番良いと思います。

田中：私も、正直昔はテスト毎に病んでましたね。マンスリーテストの結果を見て、夜も寝られないくらい、めっちゃ泣いてたり。今思うと、病み過ぎてもいいことないので、こんなことしても意味ないって思って。受かる人は受かるし、受からない人は受からないと思っていたので、もうやるしかないと思っていました。マンツーマンの先生にも話を聞いてもらったりして、じゃあ次は絶対いい点取ろうって思って頑張りました。最終的に受かればいいんで、もう前目指して頑張ってるって感じだと思います。平パン（平野先生：数学科）とかにも、もう明日から切り替えてこう

みたいなの、よく声掛けもらってました。2浪が決まった時は辛かったんですけど、講師の先生と話す機会も増えて、友達も増えたので。割と明るくシフトチェンジできたかなと思ってます。1年目の時は、友達も作らないようにして。今思うと、友達は過去問も一緒にできるし、悩みを打ち明けられたりするのでもいたほうがいかなって。高野 愛子ちゃん（東京女学館卒 東京女子医科大進学）と河田 英美里ちゃん（岐阜北高卒 東北医科薬科大医学部進学）と一緒に過去問を解いていました。

峰尾：みんなで過去問を解くときは、薄先生（数学科）が過去問のリストを作ってくださって。この順番でこの大学を解くっていうリストをもとに、朝早く来て、皆で解いて、丸付けして、1限出るみたいな感じでした。過去問を解いて気になる点があったときは、先生の所に持って行って、具体的に質問して。そうすると先生が、「この問題は飛ばしたほうが良かったね」とか、具体的にアドバイスをくれるので、それがすごいためになりました。

田中：私は赤本よりもテキストを回したほうがいかなって思って、赤本は12月からやり始めたんですけど、早い子は11月からやっていました。7時に集合して、30年分くらいは解いたと思います。

峰尾：テキストで勉強していると、どの順番、時間配分で解くのかがあんまり見えてこなかったの。過去問を通すことで、時間配分が分かったの。本番も焦らず解けたと思います。

田中：私も自分の勉強だと、時間を気にせずに1個の問題に執着しがちなんですけど、友達と時間を計って、強制的に時間配分を考えるので、すごく本番に活かされたと思います。

先生との距離の近さが、代官山 *MEDICAL* の良さ

峰尾：代官山 *MEDICAL* の良さは、自習室が朝早く開いてるのがポイントだと思って。本番は朝が早かったりとかするので、朝早くから勉強する習慣を作ることは本番にも活かされたと思います。

田中：私は質問のしやすさとか、先生との距離の近さが、代官山 *MEDICAL* の良さだと思います。

他にも、テスト返却が早いことはすごく助かると思って。テストの復習は大事だと思ってたので、日曜日にミスった所をすぐに直して次のウィークリーテストの対策をしていました。返却が遅すぎると自分がやったことを忘れてしまうので、早く助かっていました。

峰尾：外部模試を受けると、早くても1カ月後にしか点数も分かんなくて。自己採点しても違ったりするので、答案の返却が早いことはすごいメリットが大きくて。復習も早く済むし、この順番で解いたっていうのを感覚的にも覚えてるからこそ、先生とかにも質問しに行きやすかったの、すごい良かったと思いま



す。終わった直後は悔しい気持ちとか、嬉しい気持ちとかもあるんですけど、時間が過ぎてしまうとモチベーションも保てなくなってしまうので。マンスリーテストのランキングに載った時は、もちろん凄く嬉しい気持ちで一杯でした。ただ、同じクラスの人が載ってて、自分が載らなかった時は凄く悔しい気持ちになりました。自分の順位を見て、こんだけ抜かせたんだとか、次はこんなに落ちちゃったんだとか自分の立ち位置を気にしてました。自分の立ち位置を把握して、次の具体的な目標を立てていました。

田中：私は凄くランキングを気にしてたので、ウィークリーテストですらも、ちょっとミスがあると、割と泣いたりしてたんで。でも、それがあったからこそ、悔しくて復習しようって思えたので、ランキングがあることはいいことだと思います。一緒に勉強する仲間も増えて、あの子はこれが得意なんだとか、私の得意な教科なのに負けちゃったみたいなことは気にはしていません。特に小島 香音ちゃん（目黒高卒 昭和大医学部進学）とかは、ライバル視してたし、自分がどれくらい近づけるのかを気にしたり。水野 里々花ちゃん（大妻高卒 昭和大医学部進学）も一緒に勉強してたので。色んな人を目標に頑張っていました。

田中：生活面では、私は女子寮に住んでいたのですが、もう本当に広いし、快適でした。昭和大学では、1年生は寮生活なので、1人暮らしの練習にもいいと思います。面接でも、大学によっては1人暮らしになると言うけどって言われて。代官山MEDICALの寮で1人暮らしをしていたので、一通りの家事はできることをアピールできる場にもなるので、良いと思います。両親も入る前は「寮ってどんな感じなの？」ってすごい心配してたんですけど、セキュリティもしっかりしてるし、あの寮があったから快適に勉強できたと思ってます。

勉強に対して自分が積極的になるきっかけ

田中：私は、英語は高橋阿里先生に教わってて。最初は本当に何も分かってなかったの。もう本当に根気強く、同じことも何回も聞きましたし。同じプリントも何回も出してもらって。優しく、笑いながら教えてくださるので、本当にお世話になりました。本当優しく、大好きでした。

数学は、特に平パン（平野先生：数学科）に気にかけてもらって。受け身で授業を受けてるっていうよりは、会話みたいな感じで授業を受けられたので。逐一ポイントとかを自分で言わないといけない感じが、かえってすごく印象に残ってて、助かりました。マンツーマンは、高橋典先生で。凄く頭いいんですけど。だからこそ、私が普段なら避けちゃうような問題もチャレンジできてたし、悩みも聞いてくれるので、勉強をするモチベーションになったと思います。

化学は、マンツーマンは小椋先生で。過去問演習を主にやっていたんですけど、本番にかなり活かされたと思います。入試の時より、マンツーマンの方が怖かったの。入試では気楽に解けました。あと個人的にお勧めなのが高橋龍先生で、本当に、もう、めちゃくちゃ分かりやすいので、是非、早めにマンツーマン取るといいと思います。

浩先生（高橋浩先生：小論科）にもかなりお世話になりました。私はすごく2次試験が苦手な、浩さんがそれを気に掛けてくださって。マンツーマンを取るように勧められて、1年間取ったところ、2次試験は全校合格しました。面接慣れみたいな意味で、かなり効果はあると思います。浩さんのマンツーマンを取ると、ウォーミングアップみたいな感じで面接の内容を、毎回ランダムに出してくれるんですよ。そこで出た質問がどの大学でも聞かれることが多かったの。スムーズに答えられました。特に印象的だったのが、「どういう医師になりたいか」。いろんな聞き方でどの大



学でも聞かれることが多くて。私は「思いやりのある医師」を基に、形を変えながら答えていたので。どんな質問にもスムーズに答えられる基盤ができていたのかなと思います。

峰尾：私は、英語はやっぱり石井先生に一番面倒を見てもらいました。私は英語が苦手で、授業とか全然付いていけなかったんですけど、個人的に課題とかも出してくださって。ノートもチェックしてくださって。そのおかげで、人並みぐらいの点数が取れるようになったと思います。前に本館に落ちたときに、「君は、最低限の努力で合格しようとしてる感じが見え見え」って言われて。そこで自分に甘かったのかなとか思って。それから先生たちに沢山質問しに行ったりとか、勉強に対して自分が積極的になれるきっかけだったと思います。

数学は、薄先生にマンツーマンでも授業でも、面倒を見ていただいて。薄先生は、絶対に、合格できるって信じてくださって。不安なときも、前向きな言葉をくださったので、すごく頑張れました。

化学は、菊本先生にたくさん面倒を見てもらいました。個人的にも苦手なところをプリントでもらって。私は暗記がすごく苦手だったんですけど、理論立てて、解き方を丁寧に教えてくださったので、安定して点が取れるようになりました。

物理は、柳瀬先生に通常授業でも、マンツーマンでも、お世話になりました。授業では全員のことをよく見ていて。問題を解いている時も、一人ひとりの解き方とかを具体的に見ていて。問題を解いた後に、解答用紙を全員分集めて、先生が一人一人に合ったコメントも書いてくれて。たまに、よく頑張ってるとか前向きなことを書いてくれるので、それがすごい励みになりました。以前本館に落ちたときに、来るのが嫌だったけど、物理の色んな問題を教えてくださったおかげで2号館に戻れて。最初は物理の偏差値が35だった

んですけど、金沢医科の問題とかも本番は1ミスで。女子医も9割ぐらい取れて受かったので、凄く感謝しています。

浩先生のマンツーマンは、この質問にはこう答えたらいいとか、具体的にアドバイスしてくださって。質問に対してある程度想定できたので、本番の面接もあんまり不安はなく、受けることができました。

今頑張るだけで、必ずいい結果が待ってる

田中：現役のときは、勉強の仕方も分からないで、目指すところも分からないまま、闇雲にやっていたので。ただ、代官山 MEDICAL は勉強のやり方をしっかり教えてくれたので、大変だったんですけど自分が向かってるところが指し示されてるので、安心感があつた時期だと思います。

峰尾：先生が何日までにこれをやるようにとか、具体的に指定してくださったので、その課題をこなすことだけを頭の中に入れてやりました。

田中：私も先生方にこの日までにと言われて。その日の授業内でやった内容の復習で課題が出されるので、かなり取り組みやすかったと思います。

最後に代官山 MEDICAL の後輩へのアドバイスとして、今頑張ってる皆さんはすごく辛いし、他の友達とかとも比べてしまうと思うんですけど、本当に頑張るだけでももう少し、必ず良い結果が待ってるので、前を向いて毎日毎日しっかり代官山 MEDICAL に来て勉強してほしいと思います。

峰尾：今は将来の自分が想像つかなくて辛いことだらけだと思うけど、毎日頑張ってたなら絶対何かいいことが待ってると思うので。病んでも毎日勉強することを怠らせずに努力してほしいなって思います。



卒業生が語る

合格への 軌跡2024年

WAY TO SUCCESS

埼玉医科大前期2次合格

代官山 *MEDICAL* では、周りの皆が本気で勉強してるのが分かるし、先生もめっちゃ手厚く管理してくれるから、「この先生の期待に応えたい」って気持ちが出てきた

埼玉医科大進学 川久保 興 君（高輪高卒）

他の予備校とは違うなと思った

高3の春に代官山 MEDICAL に入塾しました。その前は違う予備校に通ってたんですけど、すごい放任主義っていうか。だから、すごく怠けちゃったんですよ。あまり俺に合っていないって思って。両親と別の予備校を探している間に、代官山 MEDICAL の石井先生（学院長）と個別説明会で話したんですけど、やっぱり他の塾長と全然オーラっていうのかな、すごい重みが違うっていうか。話が具体的で、今までの卒業生が1人1人どんな風に受かったのかとか。大学によってこの科目が強い人は受かりやすいっていうことを、もう入塾する前の段階からすごい具体的に教えてくれて。他の予備校とは違うなと思ったので、代官山 MEDICAL に入ろうと決めました。

入った当初は、もちろんすげえ頭がいい人もいたんですけど、周りで話していた人たちはそんなに差がない感じで。だから結構安心してというか、同じレベルからスタートしてるんで、お互いに切磋琢磨できたところが大きくなって思います。

代官山 MEDICAL の良さはやっぱり先生との距離が近いことですね。先生だけじゃなくて、生徒間の距離もかなり近いと思います。1人で戦っていると、病んだりとか諦めやすくなったりするので、周りに一緒に目標を持って人がいるっていうのは一番大きいことだと思いますね。

あとは、自分の用の自習室があるって本当に魅力的で。代官山 MEDICAL のテキストとか置いておけるし。周りの生徒が、すごく熱心に勉強してるのを見てると、サボらないでいられるし、常に刺激をもらいながら勉強できました。

代官山 MEDICAL の先生の期待に応えたい

高3での1年間は、今までの中で一番濃い1年だったと思います。生徒間でコミュニケーションを取れる塾っていうのは中々なくて。そこも新鮮だったし、本当に人との出会いがめちゃめちゃ増えた1年でした。勉強も今までこんなにしてきたことなかったから大変だったけど、一番楽しかった時期だったかもしれない。

代官山 MEDICAL に入塾するまでは、勉強をちゃんとはやってなくて。そこから授業に出なくなっちゃったりとか、復習とか予習も全然せずに、授業だけ受けてすぐ忘れちゃうみたいなことも多くて。でも代官山 MEDICAL では、周りの皆が本気で勉強してるのが分かるし、先生もめちゃくちゃ手厚く管理してくれるから、「この先生の期待に応えたい」みたいな気持ちも出てきたので、予習、復習はしっかりやりましたね。やっぱり代官山 MEDICAL の環境に自分がいるってなると、やらなきゃって気持ちになりますね。学校が終わって16時くらいに、代官山 MEDICAL に着くんですけど、1学期は空き時間に単語帳を読んで覚えたり、文法語法のテキストを毎日何ページか解い

たり、そこで予習復習もしたりしてやれることを出来る限りやるようにしてました。日曜日は、現役生だと唯一1日中勉強できる時なんで、そこはもう毎回自習室に来て勉強するって感じでした。現役生が浪人生と戦うためには絶対時間が必要だったんで、夏期講習期間に入ったら自習時間を上手く使うようにして朝から自習室に籠ってました。性格上怠けやすいので、とにかく沢山の科目に触れるようにバランスを考えて自習しました。

テストのランキングも、入塾した当初は載れるわけがないって感じだったんですけど、正直。現役で受かるって思ってなくて(笑)1浪してからまた載ればいやって感じだったんですけど、初回のウィークリーテストで総合1位になっちゃって。その時に「あ、俺、意外とできるんじゃないか？」ってモチベーションになったんですよ。後半になるにつれて、結構マンスリーテストでも点数取れるようになってきて。化学が得意科目だったので、化学だけでも絶対毎回ランキングに載ってやろうって思っていました。ランキングに載ることでモチベーションはマジで変わります。友達ともランキングの話はめっちゃしますし、どっちの方が点数が高いか。勝った負けたで煽りあったり。1回だけマンスリーテストの総合でランキングに載ったことがあって。友達に「すごくない？」って言われた時には、すごく燃えましたね。モチベーションを保つためにたまに合格した後の自分の姿っていうか、めっちゃ大学楽しんでるのかなとか、彼女できてんのかな、みたいな未来をすごい考えるんですけど(笑)それをモチベーションにしていました。あと受験直前期は、『合格の軌跡』を読みましたね。代官山 MEDICAL を卒業した先輩の生の言葉を読むと、すごく勇気づけられたり、自信がつく感じがありました。特に、現役で合格した先輩の川島怜大さん(暁星高卒 昭和大学院



部進学)と塩島さん(塩島 功生君:九段中等教育高卒 昭和大医学部進学)と、陳さん(陳 業森君:獨協高卒 昭和大医学部進学)のを読んでいました。やっぱり夢があるじゃないっすか、本当に。特に塩島さんとかは、昭和Ⅱ期だけを正規で合格したって読んだので、自分に一番自信をくれたんじゃないかなって思いますね。先輩方は本当に、みんなストイックにやってて。それに倣って自分もやってきたので、やっぱり安心には繋がりますね。入試期間になると、メンタルが本当に強くなって。仮に駄目でも絶対最後までやり抜いたほうが格好いいし、駄目なら駄目なりに歯を食いしばらないとなって最後の方は思ってたんで。少なくとも代官山 MEDICAL には毎日来ようって思ってた。とにかく机には向かって手を動かそうみたいな感じでしたね。平パン(平野先生:数学科)から貰った直前期用の基礎的な問題とかは手を止めずに出来るんで。もうとにかく手を動かそうっていう意味でもやってましたね。代官山 MEDICAL って本当に先生方に質問しやすいし、その日の入試が終わった後にも校舎に先生がいるから、分からなかった問題を質問しに行ってたね。特に生物の考察問題で分からないときは、いつもオガT(緒方副学院長:生物科)に頼ってましたね。埼玉医科だと生物の知識問題や考察が問題構成のメインなんですけど、そういう細かい知識をこの期間中に何回も質問しては復習してきたので、もう確実に取れるようになりました。埼玉医科は生物で受かったと言っても良いくらいでした。質問しに行った問題が、意外と同じような形で他の試験でも出たりするので、入試期間でも代官山 MEDICAL に行くってことを今年頑張ってる皆さんにも意識してもらいたいですね。

授業内でやったことがいろんな入試で出るんだって、自信をもらいました

この1年間一番お世話になったのはやっぱりオガTです。面白いし、授業も分かりやすいし、めっちゃ親身になって教えてくれました。授業のときに、推薦で不合格だった時も、ずっと励ましてくれました。たまにイジってくれたりするのも嬉しくて。オガTには一番支えられたと思いますね。

数学ではずっと啓寿先生(佐藤 啓寿先生:数学科)に教わってて。本当に啓寿先生のマンツーマンを受けると心が軽くなるっていうか、すごく安心するんっすよね。すごく優しいし教え方もうまいんで、精神的な支えでは本当に大きかったと思いますね。あとは田中篤史先生(数学科)にも教わってました。数学での不安要素だったベクトルを、自信持って解けるようになりました。他の試験でも、自信に繋がるっていう意味では本当に感謝していますね。

化学はもう本当に、小林先生と菊本先生っすね。菊本先生には有機化学の基礎的なことを1学期に教わって、小林先生には、有機化学の構造決定のプリントを貰うんですけど、それをもうひたすらにやっていたら

本番でも全然怖くないんっすよ。「有機化学の問題来た、ラッキー」みたいな感じで。ドンと来いみたいな感じで構えられるんで。この先生達のおかげで化学を好きになれたっていうのはありますね。元々化学が苦手だったんですけど、代官山 MEDICAL に来てめちゃめちゃもう大好きになりましたね。

英語はずっと青葉先生にお世話になってました。本当に丁寧に教えていただきました。直前期に、「諺プリント」をやったら、それが愛知とかいろんな入試で出て。やったことがすごい色んな入試で出るんだって自信をもらいました。

2次対策では浩先生(高橋浩先生:小論科)に本当にお世話になって。面接対策ではこう答えれば良いみたいなことを教えてくれるんですよ。小論文の対策も、考え方とかめっちゃめっちゃ事細かに教えてくれるので、前よりもかなり書けるようになりました。小論の型を教えてもらったので、大学に入った後でもレポートを書くときにすごく使っています。代官山生だと2次でも絶対挽回できる力がつくので、1次試験がそんなに上手くいかなかった人でも2次で挽回する力は絶対ついてるんで、そこは自信持ってほしいなと思っています。

代官山 MEDICAL だと浪人生のトップを教える先生方も現役生を教えてくれるのが、他の予備校にはない魅力というか強みですよ。例えば数学ならやっぱり中村先生(中村 太郎先生:数学科)。中村先生のおかげで本当に微積が出来るようになって。最初はもう本当に何も出来なかったんすよ。先生に毎日プリントを貰って解いたら出来るようになってきて。感謝しかないですね。市販の参考書をやるよりも、先生から貰ったプリントを中心にやっていれば必ず学力が伸びます。代官山 MEDICAL のテキストは本当に質が高く、よくまとめられてるし、入試に出る所を重点的にやってくれる感じだから、医学部に特化した学力の向上では本当に強いと思いますね。

ここで諦めるよりも、次につなげたほうがいい

受験生活の中で、一番メンタルに来たのが、北里大医学部の指定校推薦に落ちたときですね。辻野さん(辻野 美咲さん:日本女子大学付属高卒 北里大医学部進学)とか古山さん(古山 賀奈子さん:青山学院高卒 聖マリアンナ医科大進学)が推薦合格だったんで、その2人が受かって自分だけ不合格みたいな心境だったんですよ。それがすごく辛くて。合格発表の次の日、朝の電車でめっちゃ泣いちゃったんすよ。でも、そこで沢山泣いたおかげで、心がすごくすっきりしたっていうか、気持ちを切り替えて頑張ろうと思いました。ここでへこんでもどうにもなんないし。ここで諦めるよりも、絶対に繋げた方がいいなと思っていました。そうやって切り替えられたのも先生方、親とか代官山 MEDICAL の友達がイジりつつもずっと傍にいてくれ

たんで、それがかなり精神的に助けられましたね。入試直前期は過去問を一緒に解こうって誘われて一緒に解いていましたね。で、解き終わって採点したら、「お前今年厳しいよ」っていうふうに言われて(笑)やばいなって思って受験する各大学の3年分は解きました。沢山解いておくことで問題の形式が分かるし、マンスリーテストでいつも解く順番とか時間を意識してたので、本番では全然焦らないで赤本演習した時と同じようにやれば大丈夫って、余裕を持って解けました。

マンスリーテストは対策を立てられないので、日々沢山問題を解いて「こういうタイプの問題ならこう解こう」ってイメージしてました。マンスリーテストだからやるっていうよりは、いつもやっていることをやるっていうような感じでした。解けそうにないって思ったら、時間をかけずにもう飛ばしちゃうみたいな。自分の中では化学が一番そういった作戦を立てやすかったので、他の人と差をつけられたかなって思います。

入試本番は全く緊張なくて、いつものマンスリーテストを受けるみたいな感じでしたね。試験会場でも代官山生がいっぱいたので、すごくホームな感じで戦えて。1年通してのマンスリーテストは本当にこの時のためだったんだなって実感しました。

後輩に伝えられることは、「諦めないで」の一言に尽きますね。周りが受かっているのに、全然受からない子もいると思います。自分も1次すら全然通んなくて焦ってもいたんですけど、それでもやっぱり諦めないで、代官山MEDICALに毎日来て、吸収出来るものは全部吸収して、どうせやるんだったら絶対最後まで走り抜けた方が格好いいし。ベタな話なんですけど、やっぱり諦めたらそこで試合終了なんで。本当に頑張っ欲しいです。すぐに何でも諦めて、浪人でいいやって思う人は、今も浪人してるんで。最後まで戦った人だけに合格って与えられるものだと思ってます。



卒業生が語る

合格への軌跡2024年

WAY TO SUCCESS

東京女子医科大 2次正規合格
獨協医科大前期 2次合格

先生からの指示のおかげで先輩たちがこれだけ受かってるわけですから。先生を信じて、それだけです

東京女子医科大進学 大竹 早紀 さん (共立女子高卒)

卒業生が語る
合格への
軌跡2024年
WAY TO SUCCESS

帝京大医学部 2次正規合格
愛知医科大 2次正規合格

何をすべきか迷い続けて、あれもこれもってやってる人は受かんないんだよね

帝京大医学部進学 山田 悠以 さん (青山学院高卒)

代官山 MEDICAL に通って良かったところ

大竹：私は、代官山 MEDICAL だったから、1年の浪人で済んだのかなと思います。

やる事が明確なんで、自分でもう「どうしようどうしよう」って考えなくても、テキストを回せばいいし、先生方もいっぱいいらっしゃるから、そういう方々に頼ってれば受かるし、それが私はすごくありがたかったなって思います。私の場合は数学の前期テキスト、あのページの隅に四角が5個(チェックボックス: 周回する度に塗りつぶす)あるじゃないですか。全ての問題に5個のチェックを入れるって決めて、全部5回以上やりきりました。

山田：私が(代官山 MEDICAL に)通って良かったなって思うことは、友達を作ること。代官山 MEDICAL は否定しないじゃないですか。どちらかという、推奨してくれる予備校なので、それが一番ありがたかったかなと思います。大学に行って、他の人の話とか聞くと、もう浪人してると1年とか2年とか、みんな本当に誰とも喋れないみたい。予備校に行って帰って、ひたすら勉強で、一言も発さない日がほとんどって言う人がほとんどなので。

代官山 MEDICAL は皆が仲良かったから、受験が終わった日に、校舎に戻って皆で丸付けして、「この大学は厳しいかな」「この大学はいけたかも」みたいに話しながらやれたので、精神的にも一人きりよりはマシだったなって思いますね。

大竹：確かに、あれには救われたかも。私達ってマンスリーテストの後に皆で丸付けするの、結構恒例行事だったじゃん。マンスリー出来なくて結構へこんでても、皆出来てなかったり、結局あだこうだ言いながらやるから、意外と気持ちが楽になったりしてたから、普通はマンスリーテストが終わった後って、もうなんか鬱になって丸付けすらしたくないみたいな、もう1人だとめっちゃ「わあー！」ってなるけど、そこをちょっと吹っ切って皆で丸付けをよになると、意外と気持ちが楽になる。

山田：大体2号館のV教室とかW教室に、愛子ちゃん(高野 愛子さん: 東京女学館卒 東京女子医科大進学)とか皆がいて。その左側に私とか清水(清水 裕太郎君: 桐朋卒 獨協医科大進学)とかいて。常に居た組は、私と國廣(國廣 結心さん: 田園調布雙葉卒 獨協医科大進学)と吉田(吉田 浩輝君: 青山学院卒 東京慈恵会医科大進学)は絶対。あと、たまに大山(大山 晴暉君: 慶應義塾卒 杏林大医学部進学)も入ったりしてたね。

大竹：そこで、皆で「わーわー」言いながらやる(笑)合ってる、間違ってる言いながら、こう教え合ってる。

山田：そう。これ、なんで間違ってるのとか、教え合ったりしてたね。

家族に早く「合格したよ」って伝えたくて頑張ろうって思えた

大竹：入試期間で一番憂鬱だったのが、入試期間の最初の方で全然受かんなくて、やばいってなってた頃ですね。女子医の2次試験の合否が2月22日で、正規合格じゃなかったら、まじでやばいと思ってました。発表前の3日間ぐらいは人生で一番憂鬱で、誰とも話したくないってなって。もうずっと自習室籠ってて、外に出たら受かった人たちが話してるから、トイレにすら行きたくないみたい。でも、流石に話さないのもキツくなってきたんで、少しずつ周りとも話すようにしたら気が楽になって、後期頑張るかって思えたんですよね。で、2月22日なんですけど、東医の2次の発表と女子医、両方あって。東医が確か10時で、女子医が2時とかで、最初、東医だったんですよ。で、結果見たら91番補欠。微妙だなみたいになって。これで女子医来なかったら、もう人生の終わりだってなって。逆に笑えるぐらいもう鬱みたいになって。怖かったんでお母さんとお姉ちゃんに結果を見てもらって、正規のところにあって、もう泣きました。

メンタルがどうしてもヤバいってなった時に石井学院長が仰ってた「自分の為じゃなくて他の人の為に、辛い時頑張ると頑張れるんだよ」って言葉を思い出していました。自分の今の状況にドンピシャで。私は、家族が応援してくれてたんで、その家族に早く「合格したよ」って伝えたくて頑張ろうって思っていました。本当に家族も泣きながら喜んでくれてましたね。

今考えると、女子医の2次が一番うまくいったんですよ。あんま緊張しなくてすらすら言えるって。覚えてるから言えるとかじゃなくて。しかもすごく明るく話せて。そしたら試験官に、「明るくて元気な子なんです」って言われて。

2次の対策として浩先生(高橋浩先生: 小論科)に「医師の労働時間問題」という課題をやってもらったんですけど、それがほぼそのまま出て。本当に浩先生には感謝ですよ。

先生に1から10まで聞いちゃって、丸覚えした問題が解けた気になっていることが一番、最悪

山田：私は周りから「なんでそんなばやってしてる人が上のクラスにいるんだ」って言われてましたね。

大竹：それは妬みじゃないの?(笑)それでも成績は上だったよね。

山田：数学は才能(笑)才能って言い方は悪いけどもね。

大竹：私、山田を見てて思うのは、なんか確かにばやってしてる場所があるんですよ。

山田：エヘヘ。まあまあ…。

大竹：逆になんで山田が上のクラスに入れるのか考えたんですよ。で、分かったことが、私は結構、質問に行くと先生に言われると「あ、そうなんだ、へー」っ

て飲み込むタイプなんですよ。でも、山田は先生に言われても「でもさ！」って。もう分かるまで、納得するまで全部、聞いて解決するんですよ、全部。

山田：それはすごく意識していた。

大竹：山田の地頭の良さって多分そこからきてるんですよ。自分が謎に思ってることを全部解決するタイプ。私は飲み込んだじゃうんですよ。だから伸び悩み、数学も波がある。けど山田は、自分なりに全部解決してるから、違うとこを聞かれても「これはこうだったからこうじゃない」って考えられるから頭が良いんだと思います。

山田：質問に行くときに1個だけ気を付けてたことがあって。結構周りの人たちがこの問題が分からないっていう、アバウトな感じで行くじゃないですか。でもそんなことしても意味ないから。例えばこの問題には解くための10のステップがあって、6番目のステップからやらないと進めないとするじゃないですか。その6で止まっていることを先生に伝えないと、1から説明されても時間の無駄だよなっていうのはすごい気を付けて。そうするとちゃんと自分で解けるようになって、分からないところが全部解消されて、解法を自分のものにできるから。それを実感したのが、愛知(医科大)の入試かな。平パン(平野先生:数学科)の出した例題が質問した時のまんまだった。もう数値まで全く同じで。代官山MEDICAL生、全員解けるだろうとか思って。試験終わった瞬間に「これもう絶対平パンでやったやつだよ」ってめちゃテンション高く言ったら、全く数値も同じなのに、なんか誰も例題だって気付いてなくて。今までの質問の積み重ねで意外とそういうところが、理解できてたんだなって思いました。先生に1から10まで聞いてちゃって、丸覚えした問題が解けた気になっていることが一番、最悪。

大竹：私は、そうしようと思ってもできない。だから逆に、暗記が結構できる方だったから、そこで稼ぐ

しかなかった感じ。

山田：逆に暗記は苦しみましたね、私は(笑)

代官山MEDICALの授業はかなり当てられるし、分からなかったりしたら「これ、やばいんだな」って焦るし、刺激になりますね

大竹：代官山MEDICALは授業でパツパツなので、私は朝7時に必ず校舎に来て、微積分やってイディオムとか覚えて、後は前日の復習をやって。休み時間に1つ前の授業の復習をすぐする、みたいな。授業の内容を上からざっと確認して。で、分かんないところをすぐ聞きに行つて。授業一つ通して分かんないところを都度無くしていくのを心がけてましたね。

あと、土日はちゃんと金曜日中にやること決めて、メモして、絶対これを遂行するって決めてやりました。で、終わったら線で消すゲーム感覚で。

山田：そうそう。目の前のことをすぐやらないと忘れちゃうから。前期終わったら一旦1周するじゃない。だから後期になったら、本来は知らないことは、本当はないはずなんだけど。それでも覚えてないとか、ミスった問題は小さいノートに全部書き出して、一問一答みたいな感じにして。

大竹：分かる分かる分かる。確か、私もやってたかも。

山田：黒歴史ノートって呼んでたかな、確か(笑)。一問一答形式で分かんないところを可視化しておくことは大事だと思います。課題やって、そのやったところで分からないのがあったら、まずその黒歴史ノートを見て、もしそれが前にも分かんなくて書いてあることだったら、もうマジで分かんないことだから、机にぺたっと貼っておく。優先度合いが高いものほど、ちゃんと復習しなきゃだし、授業でもよく当てられるからすごく意識してた。

大竹：代官山MEDICALの授業はかなり当てられ



るし、それまでの授業の内容が分かってないと出来ないし。他の人が指されて答えている時に、私が分からなかったりしたら「これ、やばいんだな」って焦るし、刺激になりますね。だからこそ、厳選してノートにまとめたのをしっかり覚えようとしたし。それで答えられたら嬉しいし。緊張感もあるけどありがたかったです。

受かるならやる、それだけです

大竹：代官山 *MEDICAL* で言われたことをちゃんと全部やってれば必ず受かりますので、言われたことをちゃんと素直にやるのが大事かなって思います。「代官山 *MEDICAL* のテキスト5周をやれ」って言われたから、きつかったけどやりましたもん。先生からの指示で先輩たちがこれだけ受かってるわけですから。受かるならやる、それだけです。

山田：私は、付いていく先生を絶対1人以上に決めて、この先生の言うことは絶対に聞くってことですね。まあ、私は英語だったら青葉先生だったし、化学は三井先生、物理は柳瀬先生と小澤先生、数学は平パンと中村太郎先生だった。

代官山 *MEDICAL* で頑張るんだったら、今の自分の状況に見栄を張らずに、ありのままに説明して助けてくれる先生と友達を見つけたほうがいい。その友達は、本当に一生続く友達だと思う。結局どこの医局で一緒になるかも分かんないしね。それはすごい意識しました。医者の世界、狭いから。



卒業生が語る

合格への 軌跡2024年

WAY TO SUCCESS

東京女子医科大 2次正規合格

合格するためには、めげない気持ちが大
事です。「私には医学部しかない」と思
うことが一番のやる気になって良かった
です

東京女子医科大進学 高野 愛子 さん（東京女学館高卒）

卒業生が語る

合格への 軌跡2024年

WAY TO SUCCESS

東北医科薬科大医学部 2次合格
岩手医科大医学部 2次合格

ルーティンや決めたことを崩さない
で授業をちゃんと受けていたら、入
試でも授業内で先生が言っていたこ
とがかなり出てきて得点に繋げるこ
とが出来た

東北医科薬科大医学部進学 河田 英美里 さん (岐阜北高卒)

代官山 MEDICAL には先生が沢山いるから、自分に合う先生が見つかる

河田：1年目は別の予備校に通っていたんですが、自分も代官山 MEDICAL に入って、クラスで競い合っていたと思い、通い始めました。以前の予備校もクラス分けはあったんですけど、成績が上がっても1年間ずっと同じ先生とクラスでした。英語も一人の先生にしか教わらず、その人が固定だったので、合わないと思ったら本当に大変でした。でも代官山 MEDICAL では先生が沢山いらっしゃるの、自分に合う先生を見つけられました。そこが本当に通っていて良かったなって思います。

高野：私は高校2年生の時から通っていたので、ほぼ全員の先生に教えてもらったと思います。一番お世話になったのは浅尾先生（化学科）です。浅尾先生は、私をずっと優しく受け止めてくれました。勉強の相談をした時に「努力だけじゃ、勉強の成績には出てこない」と指導してくれたのが印象的でした。確かに努力はしたけど、どうやって点数を取るかっていう考え方が足りていなかったの、そういった受験に必要な観点も教えてもらいました。

河田：私もメンタルが凄く弱っていた時に、私が先生の所に話しに行かなくても、浅尾先生から話しかけてくれたので、そこでだいぶ支えられました。プリントも毎日貰って繰り返しやったことで、化学の点数が安定したと思います。本当に化学が苦手だったんですけど、浅尾先生に教わってから、やっと入試で安定して取れるようになりました。

高野：英語は、最初は青葉先生で、他にもロッキー（岩瀬先生：英語科）と良平先生（田中良先生：英語科）にお世話になりました。どの先生も全然キャラクターが違うんですけど、みんな違う熱心さがあると思います。青葉先生は、文法的に楽しく教えてくれるし、ロッキーも文法的だけど逐一間違えて覚えていた所を修正してくれて、良平先生は、長文や応用までしっかり発展して教えてくれたので、段階的に色々な先生に指導

してもらえたことは良かったと思います。他の友達にも勧めるくらい英語の先生方が好きでした。数学自体は嫌いだったけど、薄先生の授業は面白くて本当に大好きでした。数学の先生は皆タイプが違うから、どの先生の授業を受けても面白かったです。特に典さん（高橋典先生：数学科）が本当にお勧めです。典さんのプリントは難しいけど、解けたら一番褒めてくれるのでモチベーションに繋がっていました。生物は、オガT（緒方副学院長）とFT（深瀧先生）に厳しく指導してもらいました。覚えているけど答えが出てこない時に、「曖昧な知識が一番良くない」と言ってくれたのが印象深かったです。先生方は私が覚えてないだろうなってところが分かってて、そこを授業で当ててくるから必死に覚えるようになりました。

河田：私は浩さん（高橋浩先生：小論文科）のおかげで、小論文を書くことが好きになりました。本当に小論文は嫌いだったけど、浩さんが教えてくれる書き方を真似したら、大分書きやすくなったし、文章を読むのも楽になりました。2次面接も浩さんに教えてもらった事と同じようなことを聞かれるので、習ったことを自信もって面接で活用出来ました。

高野：一問一答みたいに普通の内容だけ練習してても、どの内容を振られるか分からないし、ちゃんと試験官と話せることが一番大事だから、そこは忘れないように意識して臨みましたね。意外と時間が余っちゃったぐらいの感覚で答えられるような手応えがあれば、2次の得点もしっかり取れていると思います。

朝から自習席にいる人たちを見てモチベーションにしていました

河田：以前通っていた予備校は、朝に登校する人もいれば、遅くに登校する人もいたんですけど、代官山 MEDICAL では、朝に登校すると皆いるので「あ、やばいな」ってずっと思っていました。以前はあんまり危機感を覚えずにいたから、夕方に授業が終わったら、私もそのまま帰っちゃったり、日曜日も予備校に行



かなかったりしてたんですよ。でも代官山 MEDICAL は日曜日に行っても、絶対他の生徒も友達も皆いたし、閉館時間まで皆勉強しているから、それをモチベーションにして朝から登校することができました。

高野：私は朝の6時から代官山 MEDICAL に来ていて。

河田：私はそこまで早くは無かったんですけど、愛子ちゃん(高野さん)から「早く来なさい」って電話が来て(笑)2学期からは朝7時に来て、皆で過去問を解いていました。

高野：私が「冬になると日の出が遅くなるから、その日の出を見たい」って言って。日の出を見るために頑張る。綺麗だよとか。ハハハ。

河田：私も愛子ちゃんに言われてから、朝来るようになったんですけど、1人だったら朝来るのは続いていなかったかもな。

高野：錦織君(錦織 佑君：代々木高卒 岩手医科大学医学部進学)はもっと早いです。本当に凄い。毎日日の出前から来ていたから、皆尊敬していて。錦織君のストイックさに関しては誰も勝てない。2号館の人は一旦錦織君のタイムカードを見て、「やばいやばい」って思って急いで自習室に向かってました。

河田：休み時間は、授業のチャイムが鳴る直前まで私は自習室にいました。自習席の周りの人たちが本当にチャイムの直前まで自習室で勉強していたので、私もそれを真似をして勉強していました。

高野：私は、授業の合間にある休み時間で友達と話すこともあったんですけど、お互いに問題の解き方を話したりしていたので、休みつつも良い刺激は貰えましたね。

周りの友達や先生のおかげでモチベーションが保てていた

河田：他の予備校と比べても、先生方は間違いなく良かったです。話し掛けやすいし、生物の先生は皆大好きです。

高野：私は生物といたらザキさん(山崎隆先生)

に助けられたことがあって。受験期に周りが全員1次試験に合格していて、2次試験の終わりにスーツのまま代官山 MEDICAL に帰ってくるじゃないですか。それを見てメンタルが弱ったんですけど、そんな周りの人に話せないじゃないですか。そしたらザキさんが「どうしたの」って聞いてくれて。初めて泣きながら先生と話して、メンタルにきてる部分も洗いざらい話をしました。その後は気持ちを切り換えて受験に臨めたので、改めて本当に良い先生だと思っていました。

合格するためには、科目ごとに先生を決めて、その先生をしっかりと頼ることが大事だと思います。仮にその先生がいない瞬間でも、どの先生にでも質問に行きやすい環境なので、分からない部分を放置しないことと、決められた所まではしっかりやる、めげない気持ちが大切です。「私には医学部しかない」と思うことが、一番のやる気になって良かったです。

河田：私も、質問に行きたい先生がいなかった時は全然違う先生にお願いしていました。授業終わりに苦手な所があったら、いつも質問に行く先生とは別に、他の先生にもプリントを貰って色々な問題を解くようにしていました。

高野：あとは、友達をしっかり作っておいた方が良いです。私は最初、友達はいらないと思っていたし、関わるのは無駄な時間だと思っていて、自分からシャットアウトしていました。今思うと、一緒に問題を解いたり教え合ったりした仲間がいたからこそ、「この人には負けたくない」という気持ちでモチベーションを保てていたと思います。

河田：私も人間なので「授業出たくないな」って思うことはあったんですけど(笑)、ルーティンとか決めたことを崩さないで授業をちゃんと受けていたら、入試でも授業内で先生が言っていたことがかなり出てきて得点に繋げることが出来たので、受験生の皆さんにも日々のルーティンを守ることを大事にして、先生の言葉を少しでもメモして復習することを意識して欲しいですね。

高野：私は沢山問題を解くモチベーションを出した



めに、テキストを演習した回数だけクマのシールを貼って日にちを書いて、それを10個ずつ埋めたくてとにかくペンを動かしていました。Basicの数学テキストを10回以上は確実にやっていました。あとは、毎日電車の中でも数学をやっていました。電車でもやるといっても、「解答を書かなくても解法が思いついたらOK」という感じで。代官山MEDICALに着いたら、解法が思い浮かばなかった問題を自習席で解いていました。数学の成績が落ちた時に、中村太郎先生に、「簡単な問題を1回解いてみると、出来る感覚が戻るからやってごらん」と言ってもらえて、簡単な問題に戻って、積分計算ぐらいからずっと演算を解き続けたら、後期辺りから成績も上がってきたので、先生のアドバイスは本当に素直に聞いて実行して欲しいです。

河田：私も前期のテキストを大切に、基礎問題のミスが無いように演習を繰り返していました。実際の入試では前期のテキストからかなり出題されていたので、そこをしっかりと予習復習することが大事だと思っていました。

2号館の熱量についていくために、更にやる気になった

高野：私はA10クラスからスタートして、最後はA3クラスまで上がりました。やっぱり本館と2号館をどちらも経験して思うことは、本館と2号館の空気感が全然違うということです。勉強している量が本当に多いので、周りのレベルについていくことも凄く大変でした。特に理科の暗記量で差を感じたので、私は座談会の先輩の話参考にしてハンドブックを全部覚えめました。知識関連だと皆知っていることが当たり前で、覚えてないと「あれ？」みたいな反応されるんですよ。しかも、2号館では皆で質問し合ったり教え合ったりする文化があるので、自分が出来ないと恥ずかしくて、「やらなきゃ」ってなりますね。

河田：確かに本館と2号館は全然違うよね。熱量というか、周りもやっているから、自分も「やらなきゃ」って、かなり焦りますね。

高野：求められる基準が上がるので、色々な事が出来るようになりますね。最低限のことは当たり前出来るようにした上で、武器になる教科を伸ばしていくのが大切だと気づきました。

河田：私は、英語を1日1長文読んだので、入試問題を読むのが本当に早くなりました。最初は代官山MEDICALのテキストの復習をやっていて、最後に過去問を10分で1題解く。それを丸付けして、2人で言い合って(笑)そのおかげで、最後の方は大分英語が得点源になりました。毎日必ず1題はやろうと決めてやっていました。

高野：数学は薄先生に夏期の終わりぐらいから赤本リストを渡されて、その問題をやるように指示されていました。5人ぐらいでやるように言われたので、田中優衣(前橋女子高卒 昭和医科大学進学)、峰尾萌衣(桐朋女子高卒 東京女子医科大進学)、河田英美里を誘ってやりました。

代官山MEDICALの卒業生はみんな振り返ると楽しかったって

高野：代官山MEDICALに通って、本当に良かったなって思います。

河田：友達とか色々な先生がいたからこそ、この浪人期間を乗り越えられたし、医学部に合格できたと思います。

高野：とにかくやり続けることが大事です。それは自分の長所にもなるので。あと、人柄はすぐには変わらないので、早いうちから磨いておいてください。代官山MEDICALの皆と、先生と関わっていくことで、協調性が磨かれるので必ず合格に繋がります。代官山MEDICALの卒業生は皆振り返ると、ここでの生活は楽しかったと言っています。今でもよく集まっていますし、同じ部活をやっている子もいるので、代官山MEDICALで過ごした時間は本当に財産になったし、将来一緒に医者になる同期の皆と仲良くなれて良かったなと思います。

